

高等専門学校機関別認証評価に関する 2 巡目の検証結果報告書

2019年3月

独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構

はじめに

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構（以下、「機構」という。）は、文部科学大臣から認証された認証評価機関として平成17年度から高等専門学校の認証評価を開始し、平成23年度から平成29年度までの期間で2巡目の認証評価を実施しました。また、当機構では、認証評価のほかに選択的評価事項に係る評価基準等を設け、希望する高等専門学校に対して第三者評価として実施しており、2巡目においては、延べ59校が認証評価を、延べ57校が選択的評価事項A（研究活動の状況）、B（正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況）に係る評価を受けました。

当機構が2巡目に実施した高等専門学校機関別認証評価及び選択的評価事項に係る評価については、「高等専門学校機関別認証評価に関する第2サイクルの中間検証結果報告書」（平成28年3月）（以下、「中間検証結果報告書」という。）において、平成23年度から平成25年度までの評価結果を含めたその概要を述べましたが、本報告書においては、2巡目全体を通じた概要等を述べるとともに、評価対象校及び評価担当者に対して毎年度実施してきたアンケート調査の結果及び高等専門学校機関別認証評価の評価結果の分析を行っています。また、2巡目における認証評価の成果・効果と課題を明らかにするとともに、認証評価を通じて見えてきた日本の高等専門学校の現状についても述べています。

平成30年度からの3巡目の高等専門学校機関別認証評価及び選択的評価事項に係る評価の実施に当たっては、中間検証結果報告書を活用するとともに中央教育審議会答申等における提言等を踏まえ、評価基準等の見直しの検討を行い、平成29年1月に『高等専門学校機関別認証評価実施大綱』及び『高等専門学校評価基準』の改定を行いました。本報告書では、各種の分析結果を踏まえた3巡目での変更点もあわせて述べています。

当機構の実施する評価は、『高等専門学校機関別認証評価実施大綱』にもある通り、「大学等の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資する」ために行うものであり、当機構はこれからも、この目的に向けて評価システムの改善に努めてまいります。皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年3月

独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構

目 次

はじめに

I	高等専門学校機関別認証評価（含：選択的評価事項に係る評価）の概要	1
I-1	機関別認証評価	1
I-2	選択的評価事項に係る評価	7
II	アンケート調査による検証	9
II-1	機関別認証評価	9
1.	アンケート調査の実施方法	9
2.	項目別の検証	12
(1)	評価基準及び観点について	12
(2)	説明会・研修会について	15
(3)	自己評価書について	16
(4)	書面調査・訪問調査について	18
(5)	評価結果（評価報告書）について	20
(6)	評価の効果・影響について	22
(7)	評価の作業量、スケジュール等について	27
(8)	前回の認証評価受審との比較について	30
(9)	評価についての全般的な意見・感想について	30
II-2	選択的評価事項に係る評価	31
1.	アンケート調査の実施方法	31
2.	項目別の検証	31
(1)	評価を受けた理由について	31
(2)	選択的評価事項及び観点について	31
(3)	自己評価書について	32
(4)	書面調査・訪問調査について	32
(5)	評価結果（評価報告書）について	32
(6)	評価についての全般的な意見・感想について	33
II-3	まとめ	34

Ⅲ 高等専門学校評価結果の分析	35
1. 「優れた点」及び「改善を要する点」の概要	35
2. 基準ごとの分析	39
(1) 基準1：高等専門学校の目的	39
(2) 基準2：教育組織（実施体制）	40
(3) 基準3：教員及び教育支援者	40
(4) 基準4：学生の受入	41
(5) 基準5：教育内容及び方法	41
(6) 基準6：教育の成果	42
(7) 基準7：学生支援等	43
(8) 基準8：施設・設備	43
(9) 基準9：教育の質の向上及び改善のためのシステム	44
(10) 基準10：財務	45
(11) 基準11：管理運営	45
(12) 選択的評価事項A：研究活動の状況	46
(13) 選択的評価事項B：正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	46
Ⅳ 考察－3巡目における反映状況－	47
(1) 重点評価項目の設定	47
(2) 認証評価による改善を促進する仕組みの導入	47
(3) 「評価基準の構成」の変更	47
(4) 重点評価項目とする観点の指定	48
(5) 「観点」の新設・整理・統合	48
(6) 「自己評価書様式」の変更	49
(7) 自己評価における第三者評価結果等の利用	49
(8) その他の変更	49
(9) 選択的評価事項に係る評価の変更	50
おわりに	51
参考文献	52

参考資料

1	年度別対象校一覧	54
2	認証評価に関する検証のためのアンケート【対象校】(高等専門学校用)	58
3	認証評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】(高等専門学校用)	82
4	認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答) 【対象校】	98
5	認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果(選択式回答) 【評価担当者】	108
6	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【対象校】 (高等専門学校用)	114
7	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート【評価担当者】 (高等専門学校用)	117
8	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 (選択式回答)【対象校】	120
9	選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート集計結果 (選択式回答)【評価担当者】	122
10	高等専門学校機関別認証評価 基準・観点別の「優れた点」「改善すべき点」 数一覧	124

I 高等専門学校機関別認証評価（含：選択的評価事項に係る評価）の概要

高等専門学校機関別認証評価の2巡目（平成23年度から平成29年度まで）に実施した認証評価の状況を分析するに当たって、まず、当機構が実施した2巡目における高等専門学校の機関別認証評価及び選択的評価事項に係る評価の概要を述べる。

I－1 機関別認証評価

高等専門学校には、その教育研究水準の向上に資するため、教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の総合的な状況に関し、7年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）の実施する評価を受けることが義務付けられている（学校教育法第109条第2項、同法第123条及び学校教育法施行令第40条）。

当機構は、この認証評価制度の下で、高等専門学校の認証評価を行う「認証評価機関」として、平成17年7月に文部科学大臣から認証され、平成17年度より認証評価を開始した。

1. 目的

高等専門学校の機関別認証評価は、我が国の高等専門学校の教育研究水準の維持及び向上を図るとともに、その個性的で多様な発展に資するよう、以下のことを目的として行っている〔1〕。

- （1）機構が定める高等専門学校評価基準に基づいて、高等専門学校を定期的に評価することにより、高等専門学校の教育研究活動等の質を保証する。
- （2）評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てる。
- （3）高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし、それを社会に示すことにより、公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していく。

2. 基本的な方針

上記の目的を達成するため、高等専門学校機関別認証評価は、以下の基本的な方針の下に実施している〔1〕。

1. 高等専門学校評価基準〔2〕に基づく評価
2. 教育活動を中心とした評価

3. 各高等専門学校の個性の伸長に資する評価
4. 自己評価に基づく評価
5. ピア・レビューを中心とした評価
6. 透明性の高い開かれた評価

3. 実施体制

2 巡目の評価を実施するに当たっては、国・公・私立高等専門学校の関係者及び社会、経済、文化等各方面の有識者からなる高等専門学校機関別認証評価委員会（以下、「評価委員会」という。）を設置し、その下に、具体的な評価を実施するため、対象高等専門学校の状況に応じた評価部会を編成した。

評価部会には、各高等専門学校の教育分野等を勘案し、対象高等専門学校の学科等の状況に応じた各分野の専門家及び有識者を評価担当者として配置した。

4. 評価の実施方法・プロセス

評価の実施方法及びプロセスの概要は、下記の通りである。

（1）高等専門学校における自己評価

各高等専門学校は、『自己評価実施要項』[3]に従って自己評価を実施し、自己評価書を作成し、当機構に提出した。

（2）機構における評価

機構における評価は、書面調査及び訪問調査により実施した。

- ① 書面調査は、『評価実施手引書』[4]に基づき、対象高等専門学校から提出された自己評価書（高等専門学校の自己評価で根拠として提出された資料・データを含む。）及び当機構が独自に調査・収集した資料・データ等に基づいて、対象高等専門学校の状況を調査・分析した。
- ② 訪問調査は、『訪問調査実施要項』[5]に基づき、書面調査では確認できない事項等を中心に調査を実施した。
- ③ 基準ごとに、自己評価の状況を踏まえ、高等専門学校全体として、その基準を満たしているかどうかの判断を行い、理由を明らかにした。
基準の多くは、いくつかの内容に分けて規定されており、これらを踏まえて基本的な観点が設定されている[2]。基準を満たしているかどうかの判断は、その基本的な観点の分析状況を総合した上で、基準ごとに行った。
- ④ 基準を満たしているもののうち、その取組が優れていると判断される場合や、

基準を満たしているが改善の必要が認められる場合等にはその旨の指摘も行った。

- ⑤ 高等専門学校全体として、すべての基準を満たしている場合に、機関としての高等専門学校が当機構の高等専門学校評価基準を満たしていると認め、その旨を公表した。（一つでも満たしていない基準がある場合には、高等専門学校全体として高等専門学校評価基準を満たしていないものとして、その旨を公表することとしている。）

表 I-1 に高等専門学校評価基準を示す。

表 I-1 評価基準の構成及び年度別の基本的な観点数の数

	2巡目（H23-H29）		【参考】1巡目（H17-H22）	
基準	内 容	観点数	内 容	観点数
基準1	高等専門学校の目的	3	高等専門学校の目的	4
基準2	教育組織(実施体制)	6	教育組織(実施体制)	6
基準3	教員及び教育支援者等	7	教員及び教育支援者	7
基準4	学生の受入	4	学生の受入	4
基準5	教育内容及び方法		教育内容及び方法	
	○準学士課程	7	○準学士課程	8
	○専攻科課程	8	○専攻科課程	8
基準6	教育の成果	5	教育の成果	5
基準7	学生支援等	9	学生支援等	10
基準8	施設・設備	3	施設・設備	3
基準9	教育の質の向上及び 改善のためのシステム	7	教育の質の向上及び 改善のためのシステム	8
基準10	財務	8	財務	7
基準11	管理運営	8	管理運営	6
	計	75	計	76

基本的な観点数は、1巡目においては平成17年度の開始時から平成22年度まで76であった。平成23年度からの2巡目においては、関係法令改正への対応や中央教育審議会答申の趣旨の反映のために、観点の分割・統合や文章の追加・修正を行ったものの、観点の新設は限定的であり、観点の数は75となっている。したがって、評価基準は1巡目と大きな差はない。また、「評価実施大綱」、「自己評価実施要項」、「評価実施手引書」、「訪問調査実施要項」においても、継続的な改善は行っているものの1巡目と大きな違いはない。

5. スケジュール

毎年度、下記のスケジュールで評価を実施している。

(1) 認証評価説明会、自己評価担当者等に対する研修会

評価実施の前年度の8月（平成25年度までは6月）に、説明を希望する高等専門学校の関係者に対し、機関別認証評価の仕組み、方法等について説明会を実施するとともに、自己評価担当者等に対し、自己評価書の記載等について説明を行うなどの研修を実施している。（2巡目の初年度である平成23年度は、評価実施の前年度の12月にも自己評価の研修を実施した。）

(2) 申請の受付

平成23年度実施	・・・	平成22年8月から9月
平成24年度実施	・・・	平成23年9月から10月
平成25年度実施	・・・	平成24年7月から9月
平成26年度実施	・・・	平成25年7月から9月
平成27年度実施	・・・	平成26年7月から9月
平成28年度実施	・・・	平成27年7月から9月
平成29年度実施	・・・	平成28年7月から9月

(3) 評価担当者に対する研修

評価実施年度の6月に、評価担当者が共通理解の下で公正、適切かつ円滑にその職務が遂行できるよう、高等専門学校評価の目的、内容及び方法等について評価担当者に対する研修を実施している。

(4) 自己評価書の提出

評価実施年度の6月末に、対象校から自己評価書の提出を受けている。

(5) 評価作業

対象校からの自己評価書提出後の評価作業スケジュールは、次の通りであった。

7月	書面調査の実施
8月	評価部会、財務専門部会の開催（書面調査による分析結果の整理、訪問調査での確認事項及び訪問調査での役割分担の決定）
10～11月	訪問調査の実施（書面調査では確認できなかった事項等を中心に対象校の状況を調査）
12月	評価部会、財務専門部会の開催（評価結果（原案）の作成）

平成25、26年度については9月～11月の期間に訪問調査を実施した。

(6) 「評価結果（案）」の決定

調査結果を踏まえ、評価実施年度の1月に評価委員会で「評価結果（案）」を決定している。

(7) 評価結果の確定

「評価結果（案）」に対する意見の申立ての機会を設け、評価実施年度の3月の評価委員会での審議を経て最終的な評価結果を確定している。

上記1から5の詳細は、参考文献1)～5)に示す。

6. 評価結果

当機構が評価を実施した高等専門学校の数を表I-2に示す。この表に示すように、2巡目においては合計59校の評価を実施した。評価を受けた高等専門学校を参考資料1に示す。

表 I-2 評価を受けた高等専門学校

	国立	公立	私立	計
H23	6	0	0	6
H24	12	1	1	14
H25	14	0	0	14
H26	14	0	1	15
H27	0	1	1	2
H28	4	0	0	4
H29	3	1	0	4
計	53	3	3	59

2巡目に認証評価を実施した高等専門学校59校すべてが当機構の定める高等専門学校評価基準を満たしているとの評価結果となった。

なお、取り上げられた「優れた点」の総数は535件（「主な優れた点」は241件）で、1校あたり平均で9.1件（「主な優れた点」は4.1件）、「改善を要する点」の総数は353件（「主な改善を要する点」は91件）で、1校あたり平均で6.0件（「主な改善を要する点」は1.5件）であった。

対象校が60校であった1巡目においては、取り上げられた「優れた点」の総数は635件（「主な優れた点」は241件）で、1校あたり平均で10.6件（「主な優れた点」は4.0件）、「改善を

要する点」の総数は76件（「主な改善を要する点」は10件）で、1校あたり平均で1.3件（「主な改善を要する点」は0.2件）であった。

当機構はこの評価結果を毎年3月下旬に、各対象機関及び設置者へ通知するとともに、当機構のウェブサイトにより公表し、かつ文部科学大臣へ報告している。

I－2 選択的評価事項に係る評価

1. 目的等

当機構の実施する認証評価は、高等専門学校の正規課程における教育活動を中心として高等専門学校の教育研究活動等の総合的な状況の評価するものであるが、高等専門学校にとっての研究活動は、教育活動とともに主要な活動の一つであり、さらに高等専門学校は、社会の一員として、地域社会、産業界と連携・交流を図るなど、教育、研究の両面にわたって知的資産を社会に還元することが求められており、そのような活動が広く行われている。

そこで、当機構は、高等専門学校評価基準とは異なる側面から高等専門学校の活動の評価するために、「研究活動の状況」（選択的評価事項A）と「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」（選択的評価事項B）の2つの選択的評価事項を設定し、高等専門学校の希望に応じて、これらの事項に関わる活動等について評価を行った。

選択的評価事項は、平成17年度に選択的評価基準として「研究活動の状況」及び「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の評価を開始した。なお、平成18年度実施分より選択的評価基準から選択的評価事項へと名称を改めている。

評価の実施体制等については認証評価と同様である。

基準の評価は、それぞれの観点の判断を総合して実施し、

- ・ 目的の達成状況が非常に優れている
- ・ 目的の達成状況が良好である
- ・ 目的の達成状況がおおむね良好である
- ・ 目的の達成状況が不十分である

の4段階で評価結果を示している。

2. 評価結果

評価を受けた高等専門学校の数を表I－3に示す。この表に示すように、選択的評価事項Aが57校、選択的評価事項Bが56校であり、評価を受けた高等専門学校を参考資料1に示す。

表 I－3 選択的評価事項に係る評価を受けた高等専門学校

選択的評価事項 A：研究活動

	国立	公立	私立	計
H23	6	0	0	6
H24	12	0	0	12
H25	14	0	0	14
H26	14	0	1	15
H27	0	1	1	2
H28	4	0	0	4
H29	3	1	0	4
計	53	2	2	57

選択的評価事項 B：教育サービス

	国立	公立	私立	計
H23	6	0	0	6
H24	12	0	0	12
H25	14	0	0	14
H26	14	0	1	15
H27	0	1	0	1
H28	4	0	0	4
H29	3	1	0	4
計	53	2	1	56

評価結果は、次の通りであった。

○ 選択的評価事項 A

- ・ 目的の達成状況が非常に優れている： 3校
- ・ 目的の達成状況が良好である： 52校
- ・ 目的の達成状況がおおむね良好である： 2校
- ・ 目的の達成状況が不十分である： 0校

○ 選択的評価事項 B

- ・ 目的の達成状況が非常に優れている： 19校
- ・ 目的の達成状況が良好である： 37校
- ・ 目的の達成状況がおおむね良好である： 0校
- ・ 目的の達成状況が不十分である： 0校

Ⅱ アンケート調査による検証

当機構においては、毎年度、認証評価及び選択的評価事項に係る評価を受けた高等専門学校（以下、「対象校」という。）及び評価を担当した評価委員（以下、「評価担当者」という。）に対し、選択式回答（５段階・２段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施するとともに評価の改善に反映させてきている。

本章では、当機構の高等専門学校機関別認証評価及び大学機関別認証評価に関する１巡目の検証結果[11、12]を参考にしつつ、１巡目におけるアンケート結果とも比較しながら２巡目におけるアンケート結果を分析し、２巡目の認証評価及び選択的評価事項に係る評価における評価基準・評価方法等の有効性及び適切性についての検証を行う。

Ⅱ－１ 機関別認証評価

１. アンケート調査の実施方法

（１）アンケート調査項目

アンケート調査項目は、以下の通りである。

[対象校]

１. 評価基準及び観点について
２. 評価の方法及び内容について
 - （１）自己評価について
 - （２）訪問調査等について
 - （３）意見の申立てについて
３. 評価の作業量、スケジュール等について
 - （１）評価に費やした作業量について
 - （２）機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて
 - （３）評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて
 - （４）評価のスケジュールについて
４. 説明会・研修会等について
５. 評価結果（評価報告書）について
 - （１）評価報告書の内容等について
 - （２）自己評価書及び評価報告書の公表について
 - （３）評価結果に関するマスメディア等の報道について
６. 評価を受けたことによる効果・影響について
 - （１）自己評価を行ったことによる効果・影響について
 - （２）機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について
７. 評価結果の活用について（記述式回答）
８. 評価の実施体制について（記述式回答）
９. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて
11. その他（感想、意見等）

【評価担当者】

1. 評価基準及び観点について
2. 評価の方法及び内容・結果について
 - （1）自己評価書について
 - （2）書面調査について
 - （3）訪問調査について
 - （4）評価結果について
3. 研修について
4. 評価の作業量、スケジュール等について
 - （1）評価に費やした作業量について
 - （2）機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて
 - （3）評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて
 - （4）評価作業にかかった時間数について
5. 評価部会等の運営について
6. 評価全般について
7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

（２）実施及び回収状況

アンケート用紙は、対象校については評価実施年度の３月末（評価結果確定後）に、評価担当者については評価実施年度の１２月末に配布している。アンケートの回収状況を表Ⅱ－１に示す。

表Ⅱ－１ 認証評価に関する検証のためのアンケートの回収状況

	2巡目	回答数	回収率	1巡目	回答数	回収率
対象校	59校中	59	100%	60校中	60	100%
評価担当者	104人中	91	88%	202人中	151	75%

（３）アンケート調査結果の分析

対象校、評価担当者それぞれに対するアンケート調査の１巡目と２巡目の選択式回答の集計結果を参考資料４及び参考資料５に示す。これらの集計結果において「平均」は、５段階の選択肢１～５をそれぞれ１～５の数値に対応させて全回答者についての平均値を算出したものである。これらの資料を基に、主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行い、

2 巡目における認証評価及び選択的評価事項に係る評価の有効性、適切性を検証した。なお、以下の検証においては、必要に応じて参考資料4及び参考資料5の集計結果を参照するが、対象校の集計結果を参照する場合には「機関〇ー〇」、評価担当者の集計結果を参照する場合には「評〇ー〇」と表記する。ここで、〇ー〇は設問番号に対応している。

分析項目は以下の通りである。

- (1) 評価基準及び観点について
- (2) 説明会・研修会について
- (3) 自己評価書について
- (4) 書面調査・訪問調査について
- (5) 評価結果（評価報告書）について
- (6) 評価の効果・影響について
- (7) 評価の作業量、スケジュール等について
- (8) 前回の認証評価受審との比較について
- (9) 評価についての全般的な意見・感想について

なお、回答割合の算出に当たっては、端数処理（四捨五入）の関係で合計が100%にならない場合がある。

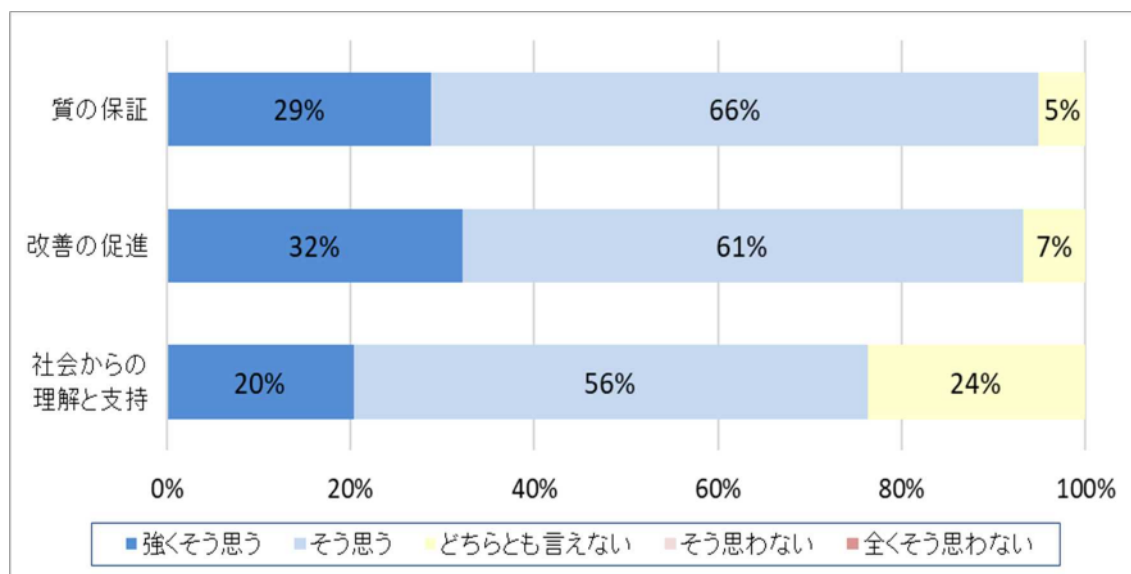
2. 項目別の検証

(1) 評価基準及び観点について

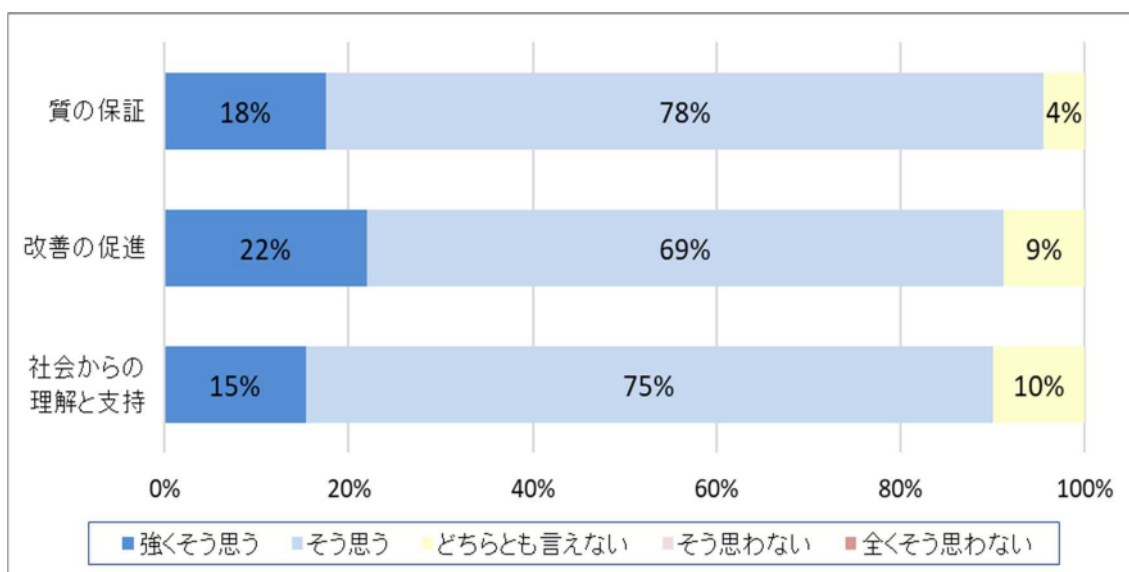
1) 評価の目的に照らしての評価基準・観点の適切性

対象校及び評価担当者に対するアンケート調査において、評価基準及び観点の構成や内容が「教育研究活動等の質を保証するために適切であった」か（機関1－①、評1－①）、「教育研究活動等の改善を促進するために適切であった」か（機関1－②、評1－②）、「教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった」か（機関1－③、評1－③）について質問した結果を図Ⅱ－1(a)、(b)に示す。

対象校においては、「質の保証」及び「改善の促進」については、図Ⅱ－1(a)に示すように、9割以上が肯定的な回答（「強くそう思う」と「そう思う」の合計、以下同じ）をしているが、「社会からの理解と支持」については、その割合が低くなっている。一方、評価担当者においては、図Ⅱ－1(b)に示すように、3つの項目とも肯定的な回答は9割以上となっている。ただし、いずれの項目も「強くそう思う」の割合は対象校の回答に比べて小さい結果となっている。



図Ⅱ－1(a) 評価の目的に対する評価基準等の構成・内容の適切性
【対象校】（2巡目）

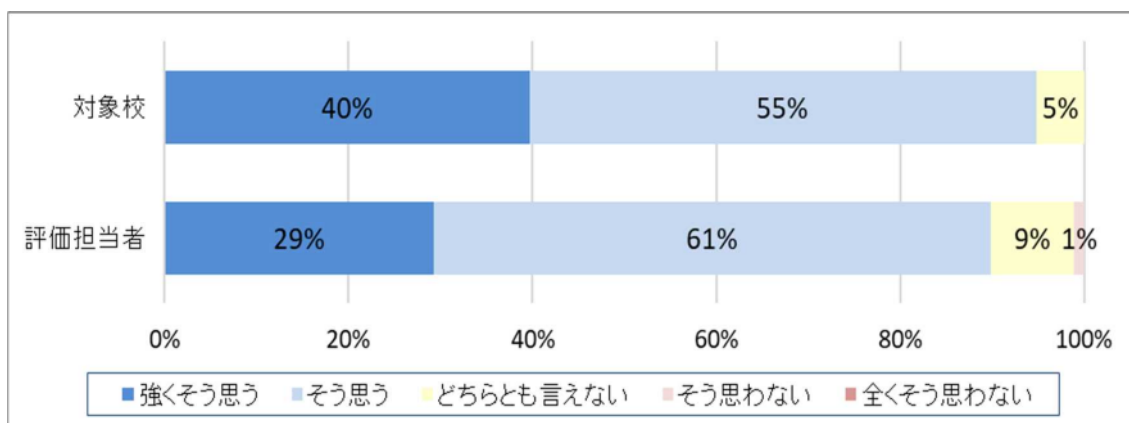


図Ⅱ－１(ｂ) 評価の目的に対する評価基準等の構成・内容の適切性
【評価担当者】（２巡目）

１巡目と２巡目を比較すると、平均値に目立った差は見られない。

２）教育活動を中心に評価基準・観点を設定していることの適切性について

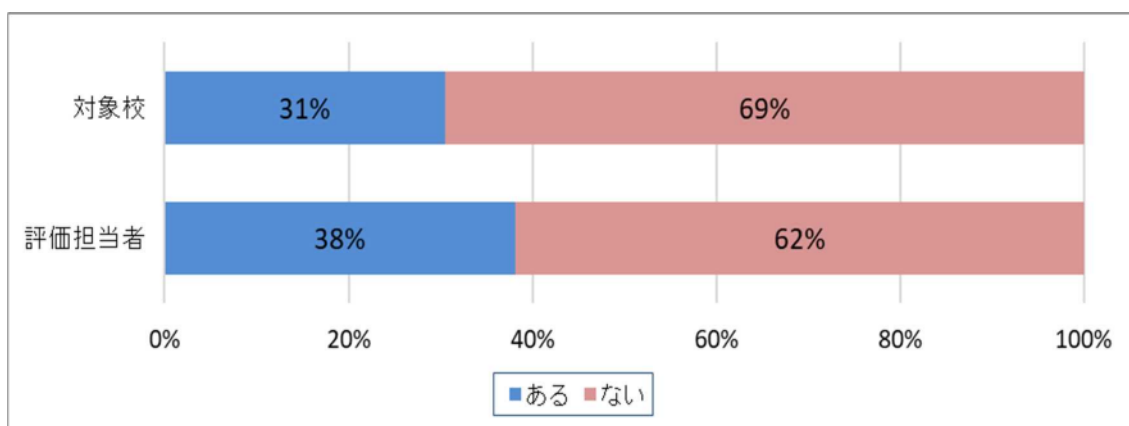
評価基準・観点の構成や内容が、「教育活動を中心に設定していることは適切であった」か（機関１－④、評１－④）については、図Ⅱ－２に示すように、対象校、評価担当者ともに肯定的な回答が多くなっている。



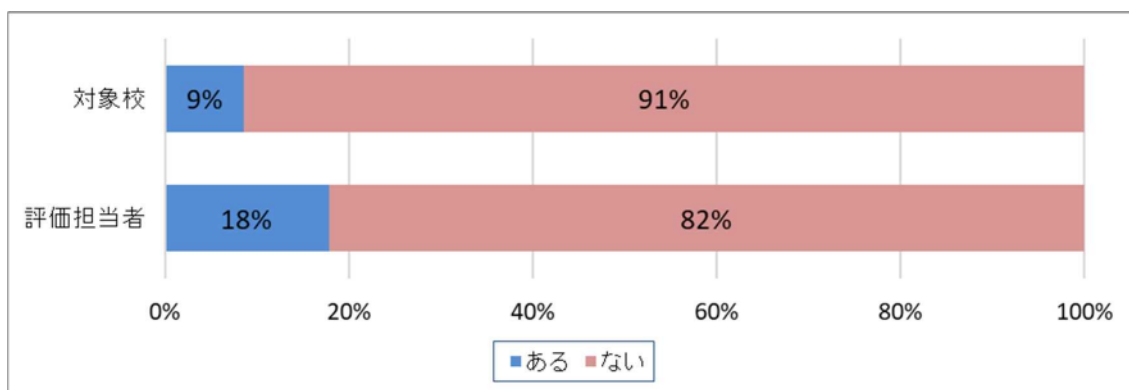
図Ⅱ－２ 評価基準・観点の構成・内容が教育活動を中心としていることの適切性
【対象校、評価担当者】（２巡目）

3) 評価基準・観点の評価しにくさ、内容の重複の有無について

「評価しにくい評価基準・観点があった」か（機関 1－⑤、評 1－⑤）については、図Ⅱ－3 (a)に示すように、対象校、評価担当者それぞれ、2 巡目において約 3 割から 4 割程度が「ある」と回答している。「内容が重複する評価基準・観点があった」か（機関 1－⑥、評 1－⑥）については、図Ⅱ－3 (b)に示すように、対象校、評価担当者それぞれ、2 巡目において約 1 割から 2 割程度が「ある」と回答している。1 巡目と比較すると、（評 1－⑥）を除いた項目において「ある」とする割合は減少傾向にある。これは、説明会や研修会での説明の仕方を工夫していることの効果の表れであると考えられるが、評価のしにくさや矛盾を感じていることを無視できない回答者が「ある」と回答していると言えることから、基準・観点の見直し・整理統合は 3 巡目に向けての検討課題とした。



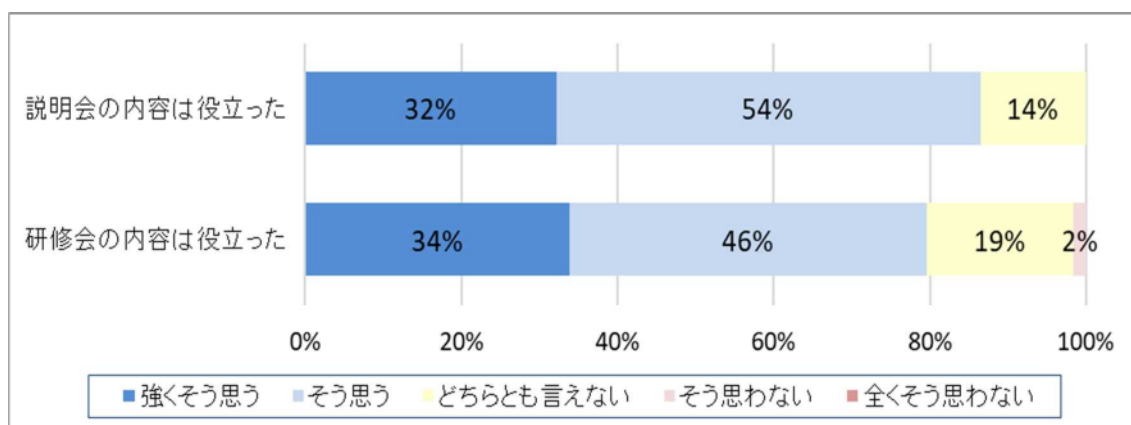
図Ⅱ－3 (a) 評価しにくい評価基準・観点の有無
【対象校、評価担当者】（2 巡目）



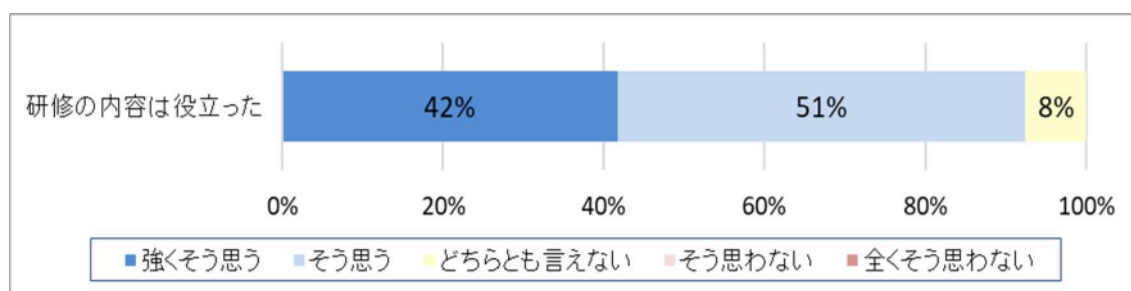
図Ⅱ－3 (b) 内容が重複する評価基準・観点の有無
【対象校、評価担当者】（2 巡目）

（２）説明会・研修会について

２巡目において対象校に対する「説明会の内容は役立った」か（機関４－③）、「研修会の内容は役立った」か（機関４－⑥）についてのアンケート結果を図Ⅱ－４（a）に、評価担当者に対する「研修の内容は役立った」か（評３－③）についてのアンケートを図Ⅱ－４（b）に示す。これより、肯定的な回答が約８割～９割と多くを占めていることから、対象校、評価担当者ともに説明会や研修会の内容は役に立っていると言えよう。しかしながら、対象校に対しての「説明会の配付資料は理解しやすかった」か（機関４－①）については７％、「自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった」か（機関４－④）については３％がそれぞれ「そう思わない」と回答している。また、評価担当者に対する「研修に費やした時間の長さは適切であった」か（評３－⑤）については、肯定的な回答の割合が７割程度となっており、他の設問項目に比べると小さくなっている。



図Ⅱ－４（a） 認証評価説明会・自己評価担当者等研修会の有効性
【対象校】（２巡目）

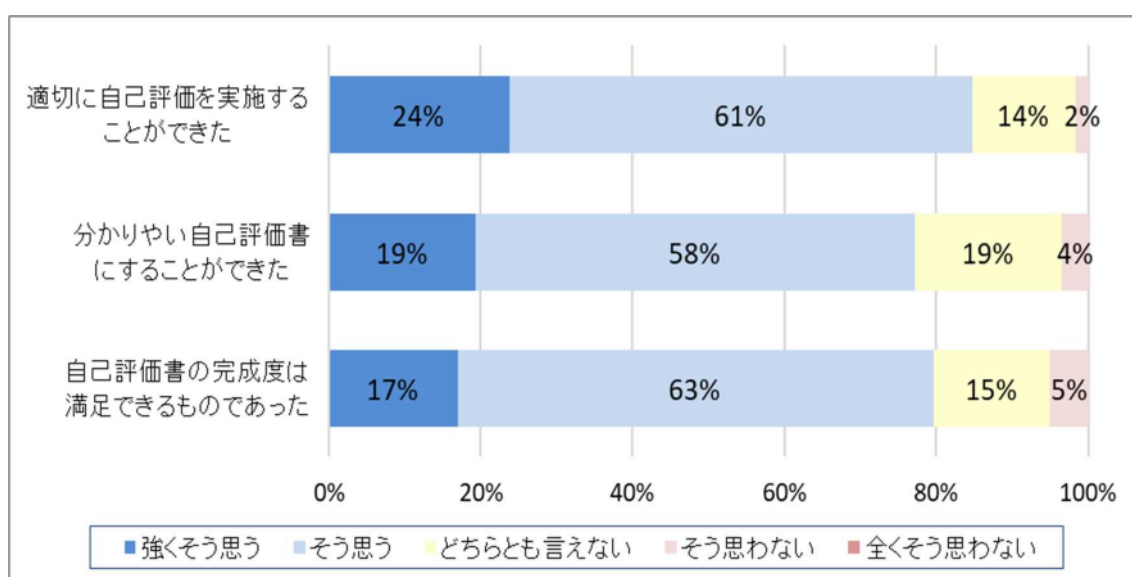


図Ⅱ－４（b） 評価担当者研修会の有効性
【評価担当者】（２巡目）

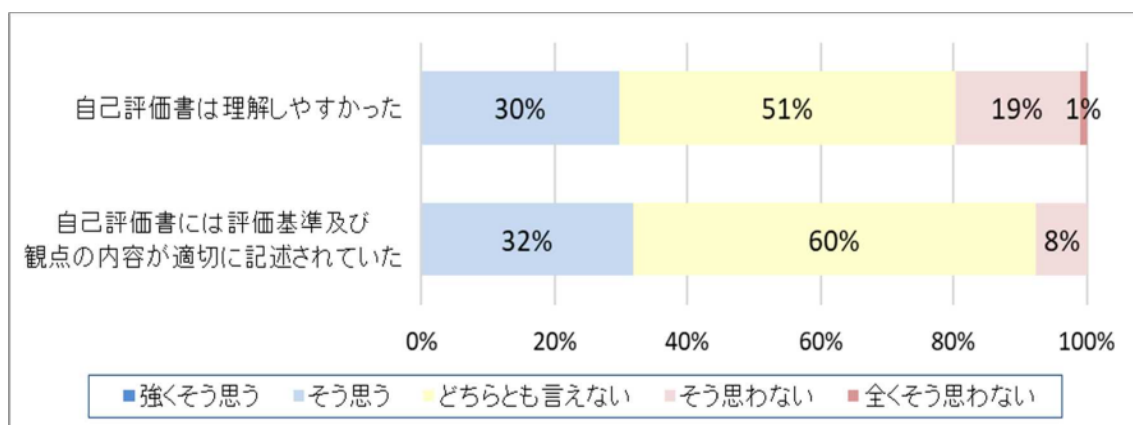
（３）自己評価書について

対象校に対し、自己評価書の作成、その分かりやすさ、完成度等に関する質問に対して「評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた」か（機関２－（１）－①）、
「総合的な状況が広く社会等の理解を得るため、わかりやすい自己評価書にすることができた」か（機関２－（１）－④）、「自己評価書の完成度は満足できるものであった」か（機関２－（１）－⑤）についての回答を図Ⅱ－５（a）に示す。

この図に示すように、肯定的な回答の割合が８割程度となっている。これに対して、評価担当者に対し、「自己評価書は理解しやすかった」か（評２－（１）－①）、「自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた」か（評２－（１）－②）について質問した結果は、図Ⅱ－５（b）に示すように、前者において否定的な回答が２割あり、後者においては１割弱あることに加え、いずれの項目に関しても「強くそう思う」の回答がないなど、対象校とは若干認識が異なっている。これらは１巡目と２巡目の間で大きくは変化していない。



図Ⅱ－５（a） 自己評価書の作成について
【対象校】（２巡目）



図Ⅱ－５(b) 自己評価書の作成について 【評価担当者】(2巡目)

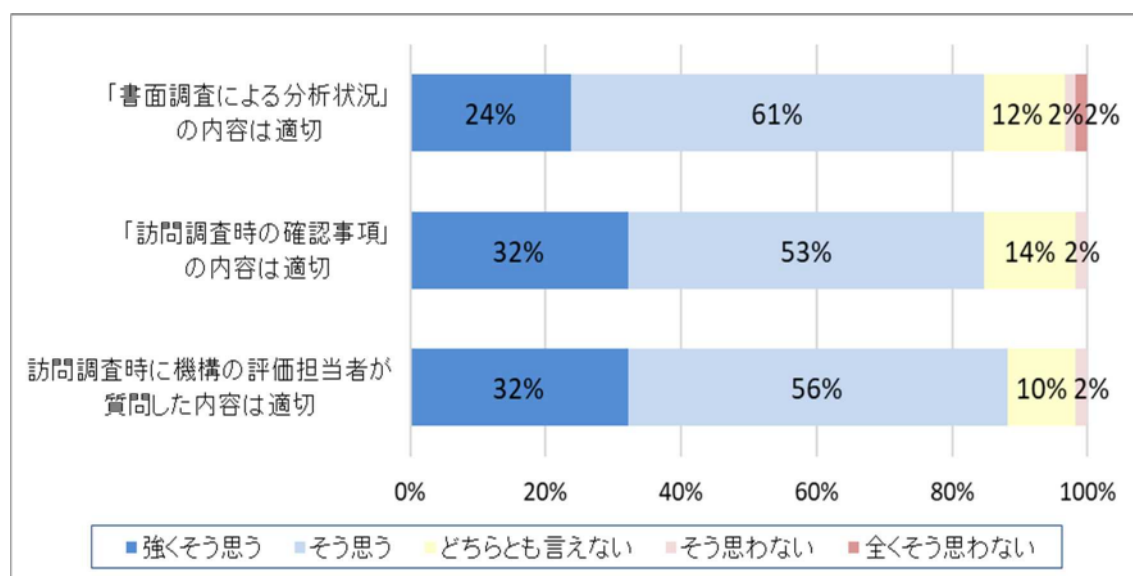
自己評価書の添付資料に関しては、対象校では「自己評価書の添付資料は既に蓄積していたもので十分対応することができた」か(機関2-(1)-②)に対して否定的な回答の割合が2割弱、「自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った」(機関2-(1)-③)との回答が5割程度にも上っており、評価担当者においても、「自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた」(評2-(1)-③)と思わない割合が1割強認められる。これに関してはさらに対象校に対する研修会などにおける説明の工夫が必要と考えられる。

なお、自己評価書作成上の文字数制約に関して、対象校に対し「文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった」か(機関2-(1)-⑥)について質問した結果、否定的な回答の割合は減少傾向にあるとはいえ、依然として2割弱程度となっている。当機構としては、文字数制約は目安であることを対象校に対する研修会等において説明しているものの、対象校側では文字数に対する認識が強いと考えられるため、さらなる説明の徹底が必要である。また、「すでに機構の認証評価を受けた他高専の自己評価書を参考にした」(機関2-(1)-⑦)とする割合は2巡目において、8割程度となっているものの、減少傾向にある。これについては、1巡目における対象校での経験に加え、研修会等での説明の成果であるとも考えられるものの、評価の結果が当該対象校のみでなく他校にも波及することは認証評価システムの効果を考える場合には重要であることから、他高専の評価結果を積極的に参考にするよう説明会や研修会で周知する必要があると言える。

(4) 書面調査・訪問調査について

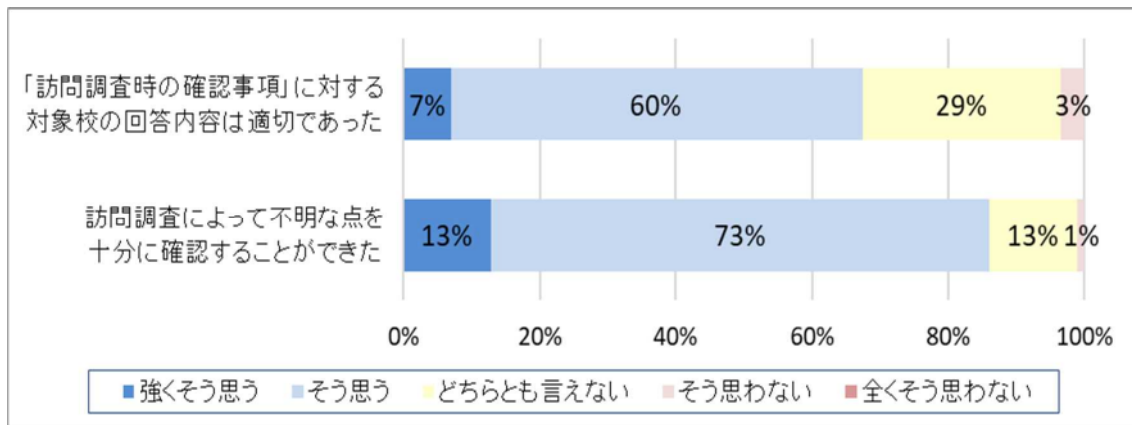
「書面調査による分析状況の内容」(機関2-(2)-①)、「訪問調査時の確認事項の内容」(機関2-(2)-②)、及び「訪問調査時における評価担当者の質問の内容」(機関2-(2)-③)の適切性についての回答については、図Ⅱ-6(a)に示すように対象校は8割程度が肯定的な回答をしており、1巡目と比較すると2巡目において平均値が大きくなっている設問が多い。

また、「機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった」か(評2-(2)-①)に対する評価担当者の肯定的な回答は8割弱とおおむね適切なものとなっている。また、「書面調査を行うために対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった」か(評2-(2)-②)に対しては、1巡目と比較して、否定的な回答、すなわち自己評価書と参考資料のみで十分とする回答が1割程度増加している。



図Ⅱ-6(a) 書面調査による分析状況、訪問調査時の確認事項等の適切性
【対象校】(2巡目)

一方、「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった」か(評2-(3)-①)に対して肯定的に回答する評価担当者の割合は、図Ⅱ-6(b)に示すように、7割弱となっており、確認内容の適切性に対する対象校の認識(前述)と比べるとやや少ない。これに対して、「訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた」か(評2-(3)-②)については肯定的な回答が8割程度となっており、訪問調査の実施の意義が認められると言えよう。

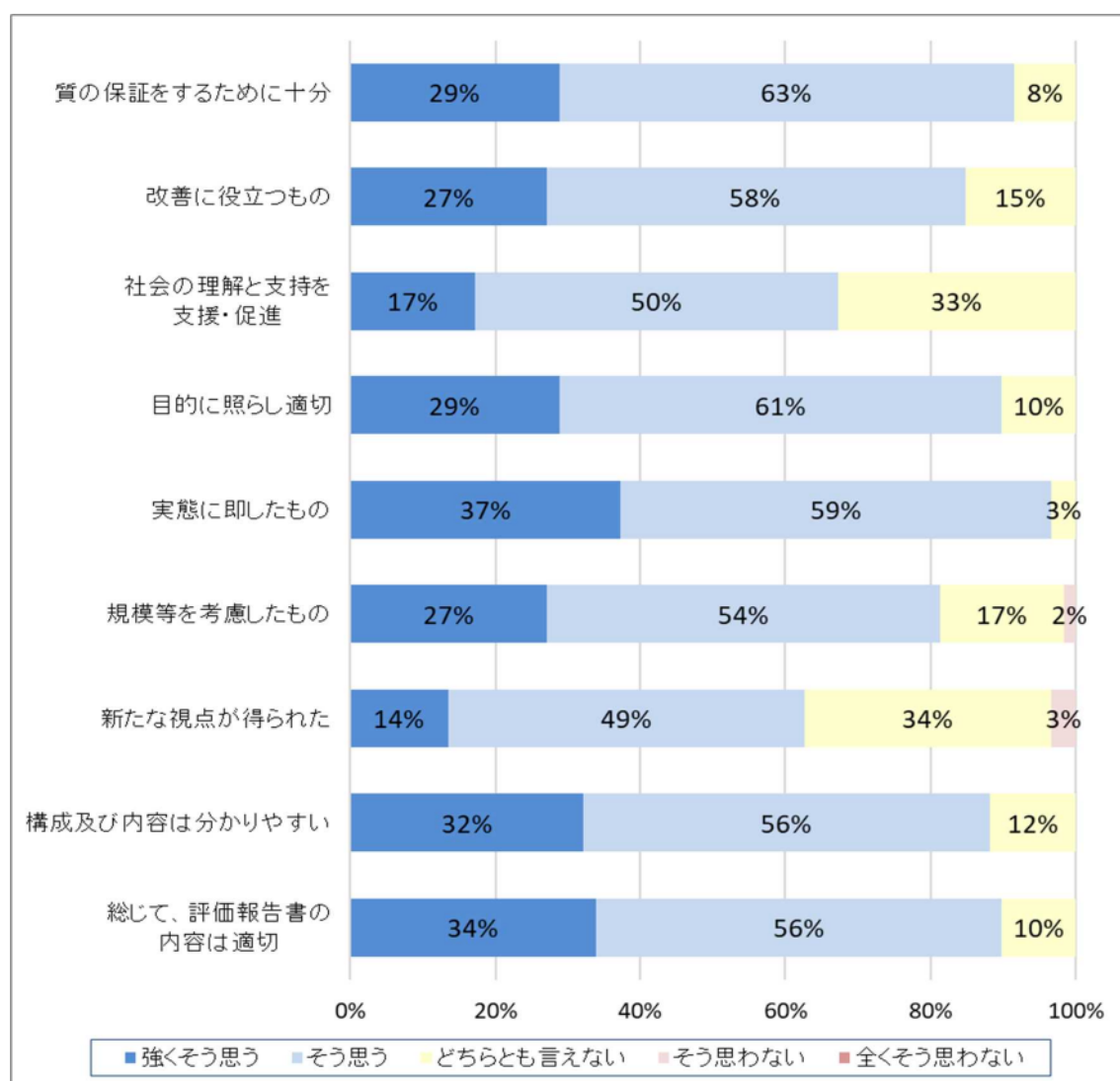


図Ⅱ－6 (b) 訪問調査時の確認事項に対する対象校の回答内容の適切性等
【評価担当者】（2巡目）

訪問調査の内容及び方法に関しては参考資料4、5よりおおむね適切と思われるが、「実施内容に係る時間配分は適切であった」か（機関2－(2)－⑥、評2－(3)－⑤）に対して否定的な回答が、対象校で7%、評価担当者で9%あった。また、対象校に対し「実施内容として面談等を設けたことは適切であった」か（機関2－(2)－④）について質問した結果は、否定的な回答が3%となっており、これらの点について工夫の余地があると言える。

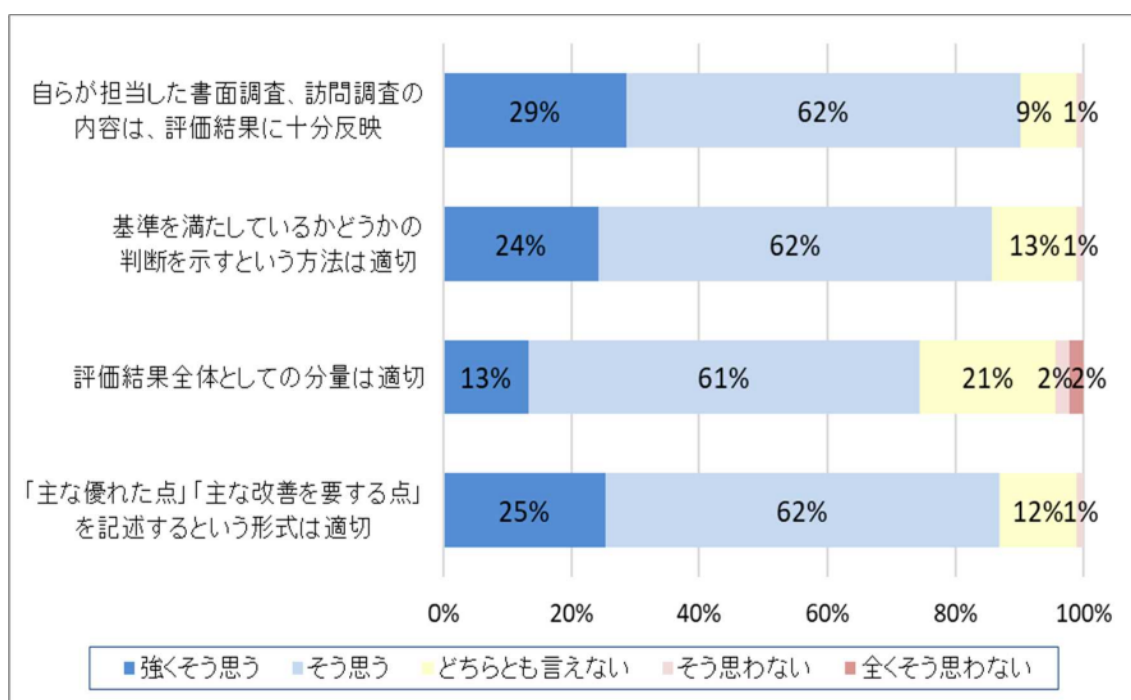
（５）評価結果（評価報告書）について

評価結果の内容等に関して、対象校側は、図Ⅱ－７(a)に示すように、「質を保証するために十分であった」か（機関５－（１）－①）及び「改善に役立つものであった」か（機関５－（１）－②）、「目的に照らし適切なものであった」か（機関５－（１）－④）、「実態に即したものであった」か（機関５－（１）－⑤）、「規模等を考慮したものであった」か（機関５－（１）－⑥）「構成及び内容は分かりやすいものであった」か（機関５－（１）－⑧）に対しては、肯定的な回答が８割以上という結果となっており、「総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった」（機関５－（１）－⑨）としている。しかし、「社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった」か（機関５－（１）－③）及び「教育研究活動等に関して新たな視点が得られた」か（機関５－（１）－⑦）に対しては「どちらとも言えない」の割合が３割以上と多くなっている。



図Ⅱ－７(a) 評価報告書の内容の適切性【対象校】（２巡目）

一方、評価担当者側の評価結果に対する評価については、図Ⅱ－7(b)に示すように、「自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映」か（評２－（４）－①）、「基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった」か（評２－（４）－②）及び「全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった」か（評２－（４）－④）についてはいずれも肯定的な回答が多くなっているが、「評価結果全体としての分量は適切であった」か（評２－（４）－③）については、他に比べると肯定的な回答の割合がやや少なく、「どちらとも言えない」あるいは否定的な回答の割合がやや多くなっている。評価方法に関しては、例えば評価尺度を用いた評価結果の提示など、３巡目において何らかの改善策を検討することとした。



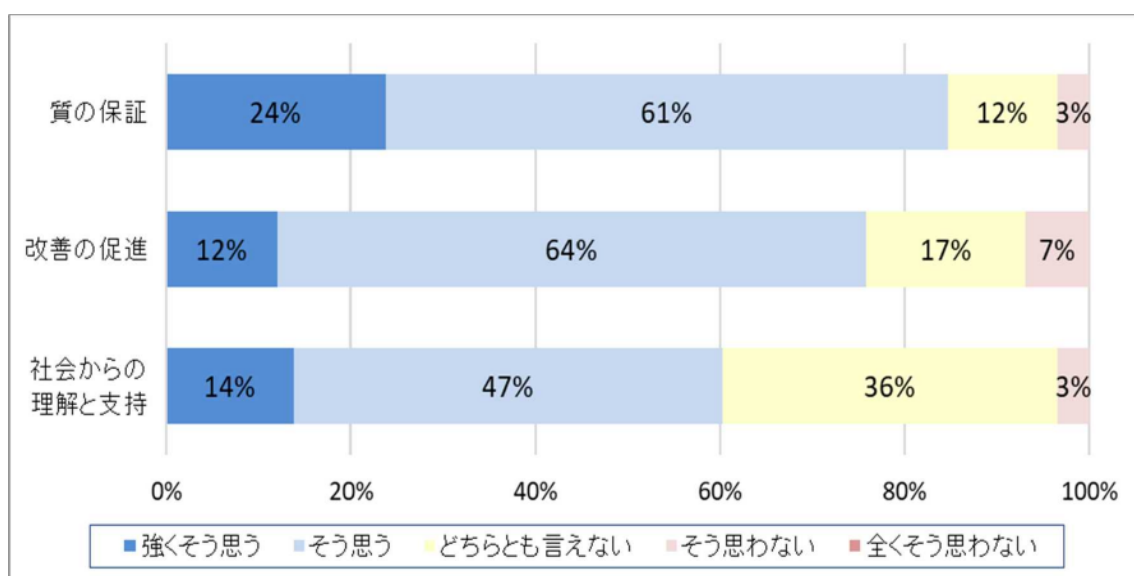
図Ⅱ－7(b) 評価結果の妥当性【評価担当者】（２巡目）

「自己評価書をウェブサイトなどで公表している」か（機関５－（２）－①）及び「評価報告書をウェブサイトなどで公表している」か（機関５－（２）－②）については、当機構ではいずれも公表しているものの、対象校においてはそれぞれ約３割、約２割の対象校が実施していないという状況となっている。また、「マスメディア等から適切な報道がなされた」か（機関５－（３）－①）という質問に対しては、否定的な回答は１巡目の約３割から約１割に減少している一方、肯定的な回答も約２割から約１割に減少しており、依然として適切な報道がなされていない状況となっている。

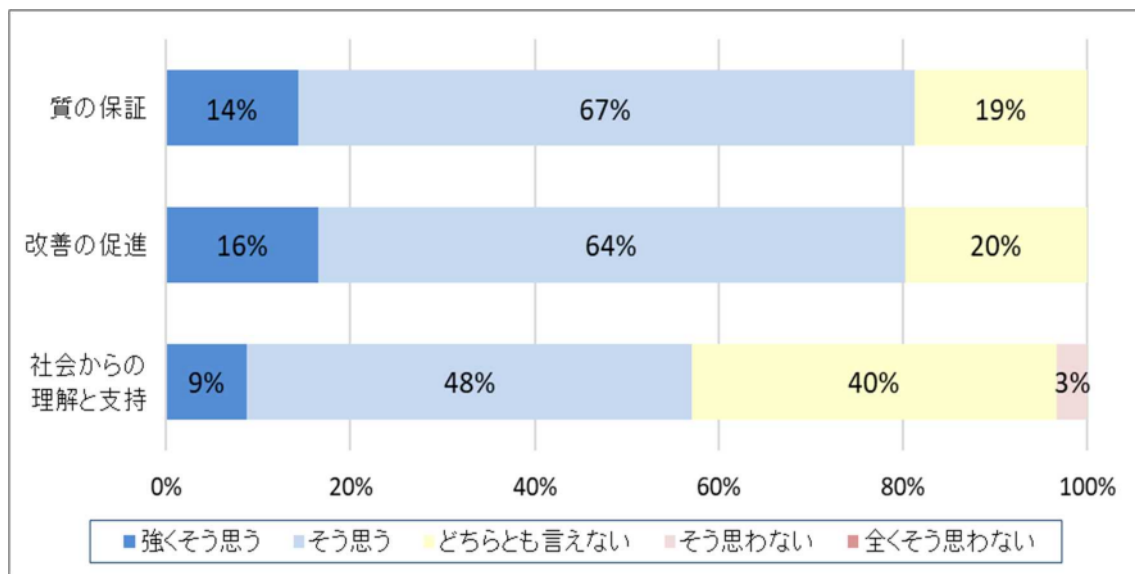
（６）評価の効果・影響について

１）評価の目的の達成状況について

認証評価の効果・影響に関しては、対象校に対しては評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と評価結果を受けての効果・影響とに分け、それぞれ10項目及び15項目の質問を行っている。また、評価担当者に対しては評価を行ったことによる効果・影響など評価全般について6項目の質問を行っている。ここでは、まず当機構の掲げる認証評価の3つの目的の達成状況を検証するために、これらの質問項目の中から、2巡目における「質の保証」（機関6－（２）－⑫、評6－①）、「改善の促進」（機関6－（２）－⑤、評6－②）、「社会からの理解と支持」（機関6－（２）－⑭、評6－③）に関する集計結果を抜き出し、図Ⅱ－8（a）、（b）に示す。これらの図より、「質の保証」及び「改善の促進」については、対象校、評価担当者ともに、肯定的な回答が8割程度であるが、「社会からの理解と支持」については、ともに6割程度と前二者に比べ低い値となっている。これは、「質の保証」や「改善の促進」については、それらを意図して評価基準・観点が作成されているため、自己評価や認証評価の適切な実施により効果が表れやすいのに対し、「社会からの理解や支持」については、評価結果を適切に社会に伝えと同時に、その情報に対して社会の側が関心を有している必要があるためであると考えられる。したがって、「社会からの理解と支持」を高めるためには、マスメディアも含めた社会の関心を引くような評価結果の提示方法について、今後とも検討していくことが必要であると言えよう。



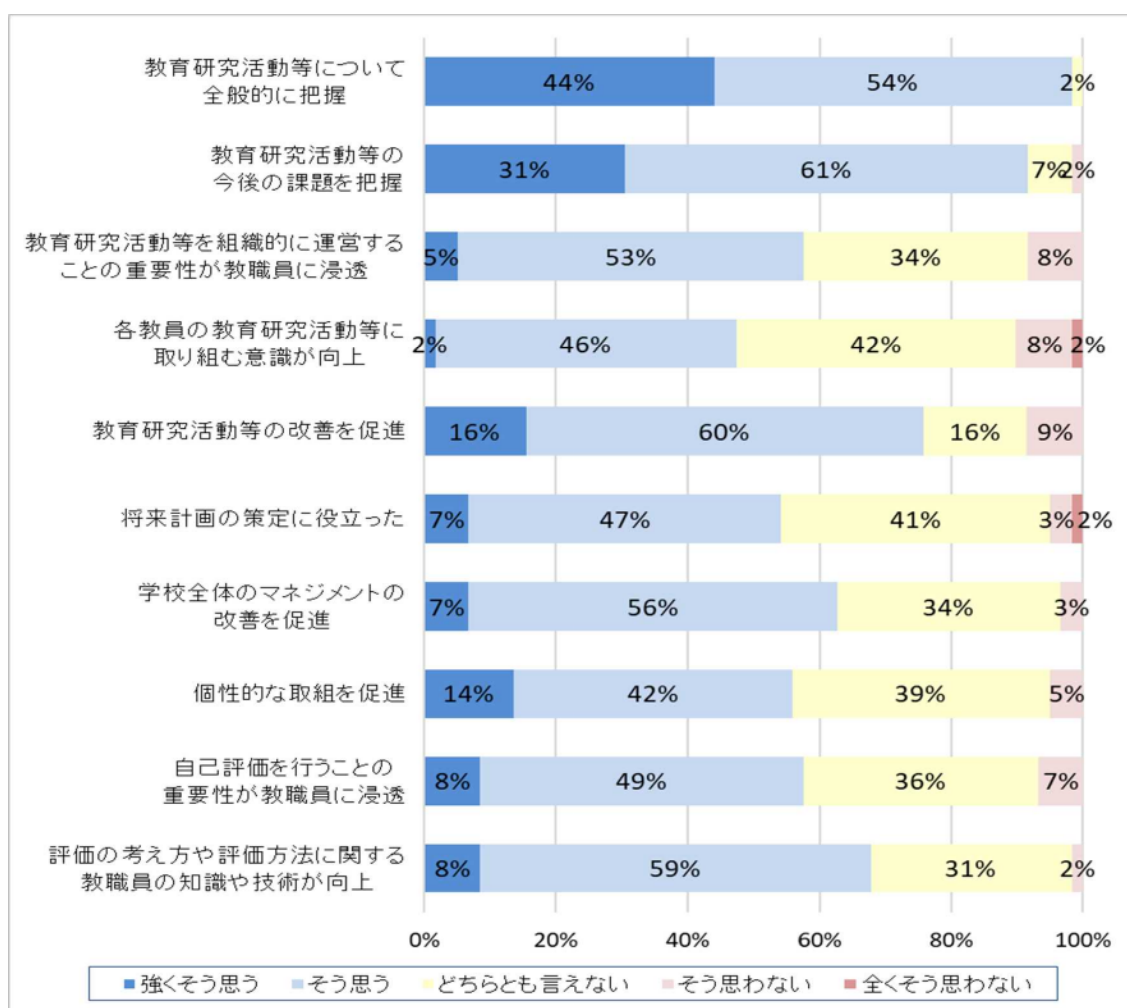
図Ⅱ－8（a） 認証評価の3つの目的の達成状況【対象校】（2巡目）



図Ⅱ－８(b) 認証評価の３つの目的の達成状況【評価担当者】（２巡目）

2) 対象校が自己評価を行ったことによる効果・影響について

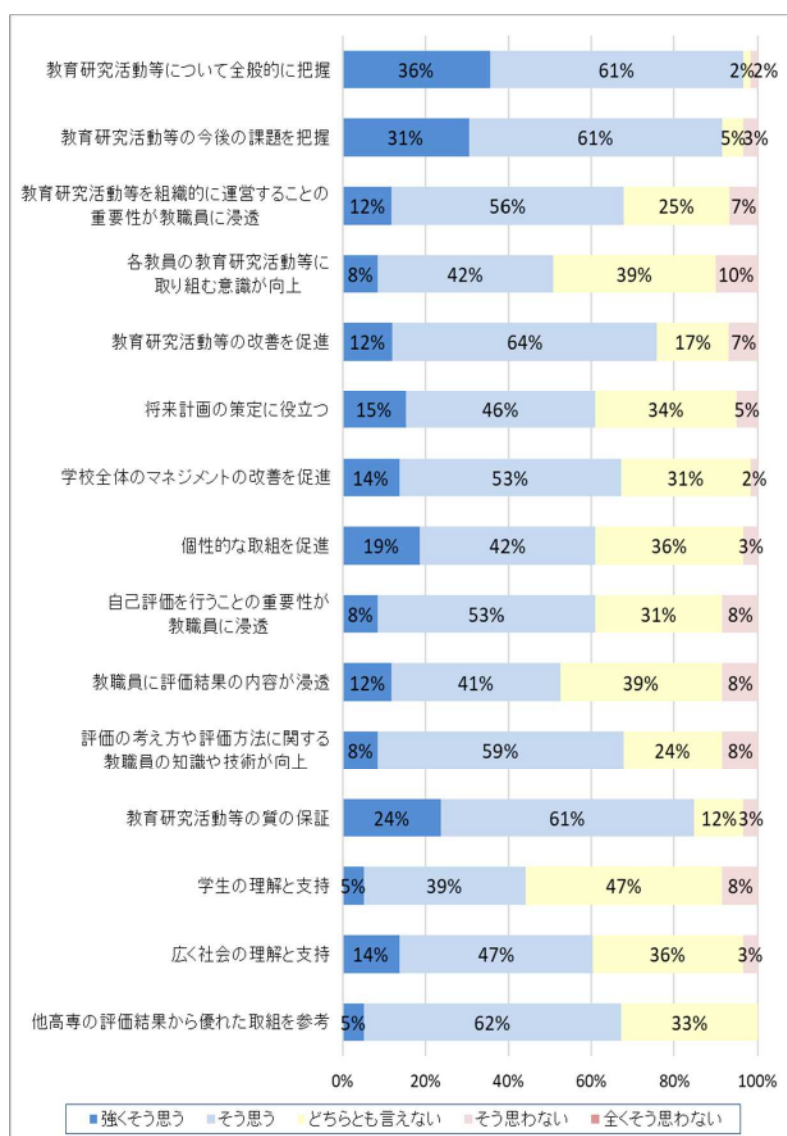
自己評価を行ったことによる効果・影響について対象校がどのように捉えているかに関する2巡目の集計結果を図Ⅱ－9に示す。「教育研究活動等について全般的に把握することができた」か(機関6－(1)－①)、「教育研究活動等の今後の課題を把握することができた」か(機関6－(1)－②)、「教育研究活動等の改善を促進した」か(機関6－(1)－⑤)において肯定的な回答が多くなっている。これに対し、「教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した」か(機関6－(1)－③)、「各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した」か(機関6－(1)－④)、「将来計画の策定に役立った」か(機関6－(1)－⑥)、「学校全体のマネジメントの改善を促進した」か(機関6－(1)－⑦)、「個性的な取組を促進した」か(機関6－(1)－⑧)、「自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した」か(機関6－(1)－⑨)、「評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した」か(機関6－(1)－⑩)においては、「どちらとも言えない」が3割から4割程度と多くっており、否定的な回答も数%程度あった。



図Ⅱ－9 自己評価を行ったことによる効果・影響 【対象校】(2巡目)

3) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

評価結果を受けたことによる効果・影響について対象校がどのように捉えているかに関する2巡目の集計結果を図Ⅱ-10に示す。対象校が自己評価を行ったことによる効果・影響と同一の項目については、ほぼ同様の回答となっている(機関6-(2)-①～⑨、⑪参照)。また、「教育研究活動等の質が保証される」か(機関6-(2)-⑫)については、肯定的な回答が8割を超えているが、「教職員に評価結果の内容が浸透する」か(機関6-(2)-⑩)及び「学生の理解と支持が得られる」か(機関6-(2)-⑬)については、否定的な回答は多くないものの、「どちらとも言えない」との回答がそれぞれ4割から5割程度と多くなっている。なお、「他高専の評価結果から優れた取組を参考にする」か(機関6-(2)-⑮)に対して肯定的な回答は7割程度となっており、先に示した「他高専の自己評価書を参考に」か(機関2-(1)-⑦)に対する回答結果よりも低くなっている。



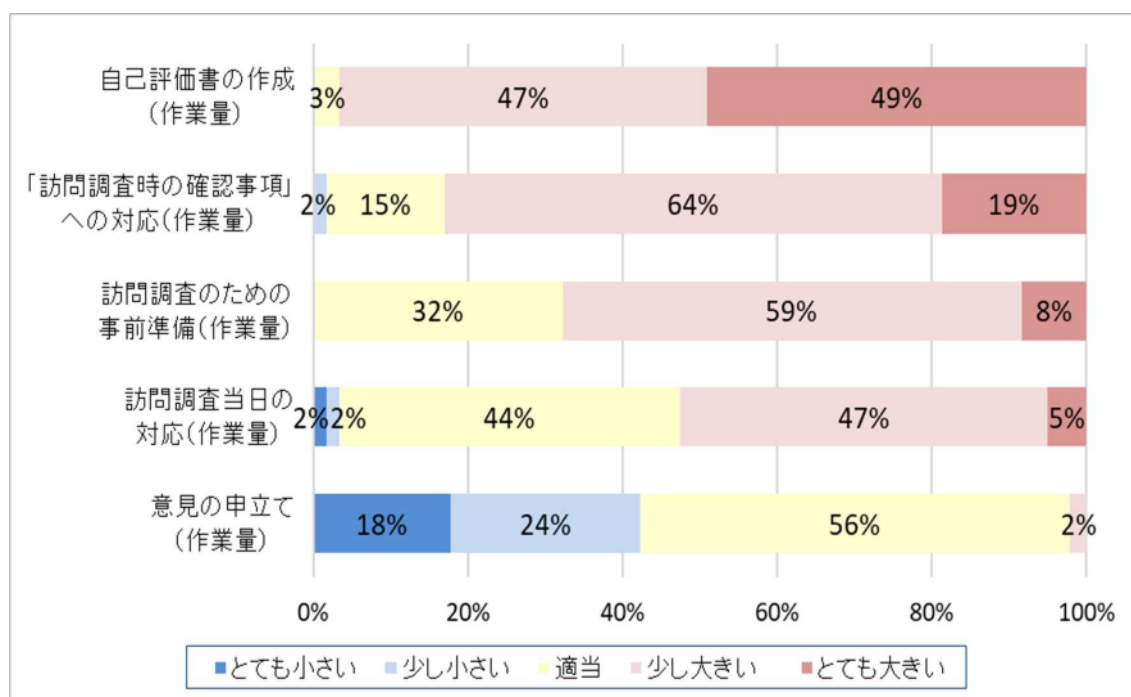
図Ⅱ-10 評価結果を受けたことによる効果・影響【対象校】(2巡目)

4) 評価の実施による効果・影響に関する評価担当者の意識

評価の実施によってどのような効果・影響が生じると評価担当者が考えているかに関しては、「本評価によって質が保証されると思う」、「本評価によって改善が促進されると思う」及び「本評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う」については、図Ⅱ－8 (b)で示した通りであるが、評価担当者は「自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた」か（評6－④）及び「今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた」か（評6－⑤）についても、2巡目では8割程度が肯定的な回答をしている。これは、専門委員等の選出方法が適切であること、及び評価作業への従事の経験が波及的な効果を有することを示していると言えよう。

（７）評価の作業量、スケジュール等について

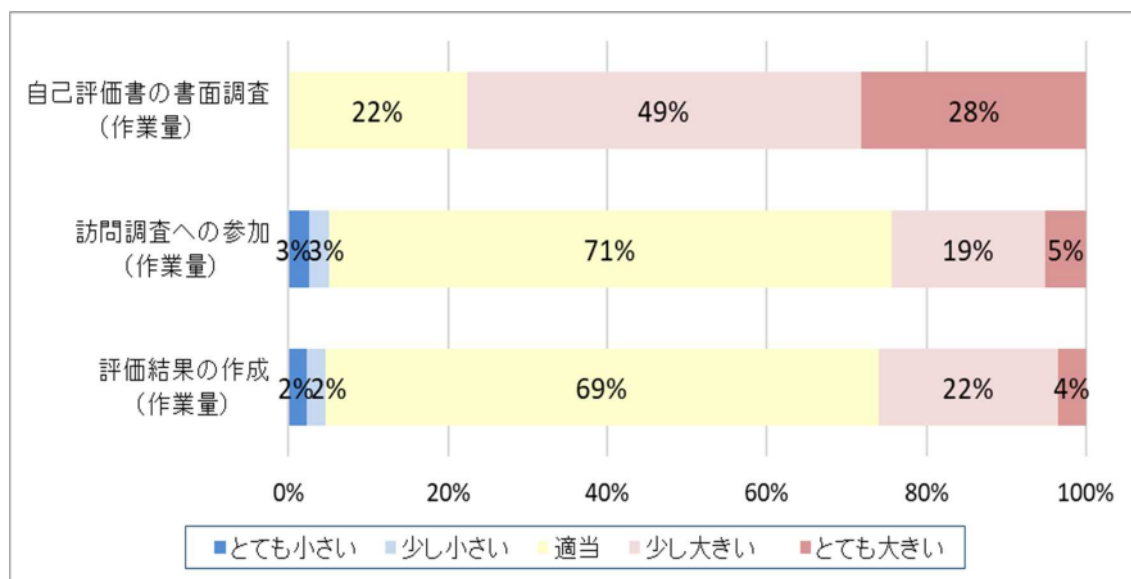
対象校が評価に費やした作業量に関しては、図Ⅱ－11(a)に示すように、「自己評価書の作成（作業量）」（機関３－（１）－①）に対してほとんどすべての対象校が大きい（「少し大きい」と「とても大きい」の合計で97%）と回答している。また、「訪問調査時の確認事項への対応（作業量）」（機関３－（１）－②）も大きいと回答する割合は8割を超えており、「訪問調査のための事前準備（作業量）」（機関３－（１）－③）も大きいとする割合が7割近くとなっている。これらは、いずれも2巡目において大きく増加している。



図Ⅱ－11(a) 評価に費やした作業量【対象校】（2巡目）

当機構が設定した作業期間に対する対象校の評価に関しては、「自己評価書の作成（作業期間）」（機関 旧３－（１）－①）は「長い」（時間的余裕がある）とする回答が半数程度で、「短い」（時間的余裕がない）とする回答はほとんどないが、「訪問調査時の確認事項」への対応（作業期間）」（機関３－（２）－①）については、「短い」とする割合が2巡目において増加している。なお、「訪問調査のための事前準備（作業期間）」（機関３－（２）－②（旧３－（１）－③））については、「短い」とする割合が2巡目とほぼ同程度である。

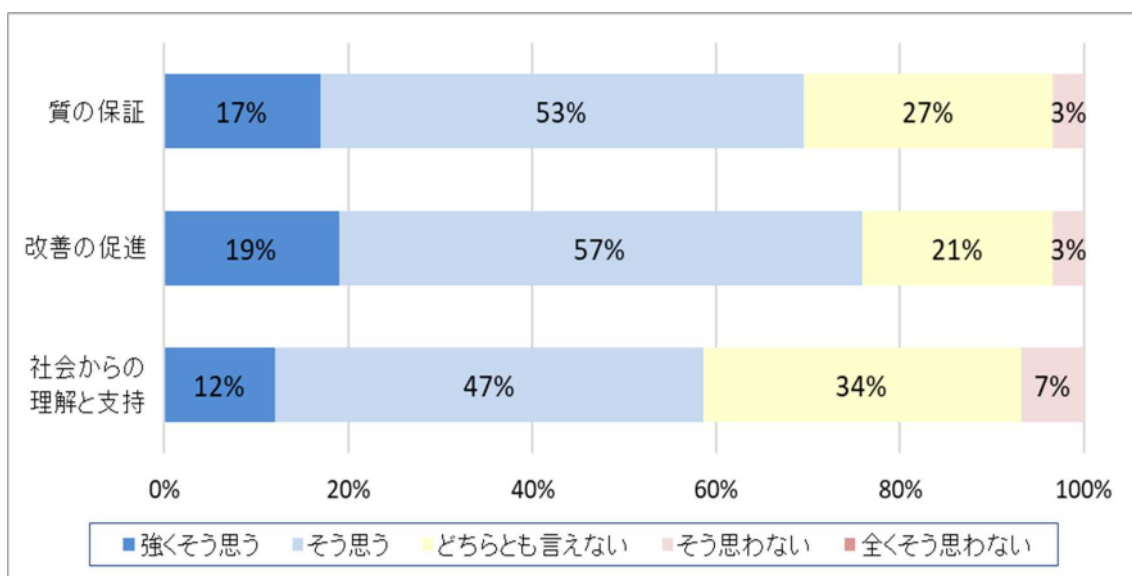
一方、評価担当者側の評価の作業量に関しては、図Ⅱ－11(b)に示すように、「訪問調査への参加（作業量）」（評４－（１）－②）及び「評価結果の作成（作業量）」（評４－（１）－③）が「大きい」とする回答はさほど多くなく、「適当」の割合が7割程度であるものの、「自己評価書の書面調査（作業量）」（評４－（１）－①）は大きいとする回答が8割弱あり、負担が極めて大きいことが分かる。



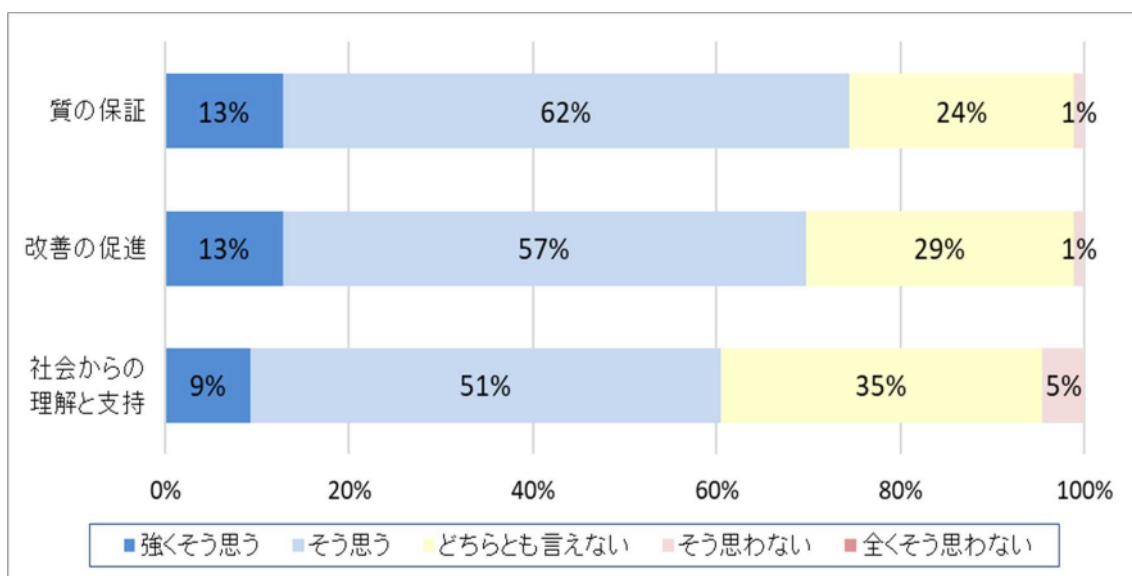
図Ⅱ－11 (b) 評価に費やした作業量【評価担当者】(2巡目)

また、評価担当者にとっての作業期間に関しては、「自己評価書の書面審査(作業期間)」(評4-(2)-①(旧4-(1)-①))、「訪問調査への参加(作業期間)」(評4-(2)-②(旧4-(1)-②))、「評価結果の作成(作業期間)」(評4-(2)-③(旧4-(1)-③))のどの項目についても2巡目において「長い」と回答する割合は、1巡目における2割～4割程度から5～9%へと大きく減少している。

以上では、評価に費やす作業負担の大きさのみを見てきたが、「評価に費やした労力が評価目的にとって見合うものであったか」を見ると、図Ⅱ－12(a)、(b)に示すように、「質を保証するという目的に見合うものであった」か及び「改善を進めるという目的に見合うものであった」かに対して肯定的な回答の割合は、対象校、評価担当者ともに7割程度となっており、「社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった」とする回答も6割程度である(機関3-(3)-①～③(旧3-(2)-①～③)、評4-(3)-①～③(旧4-(2)-①～③))。これより、現在の認証評価に対しては、対象校、評価担当者ともに、作業負担のみを考えると問題があると認識しているものの、そのような負担に十分見合う効果が得られていると判断していると言えよう。



図Ⅱ—12(a) 評価に費やした労力は評価の目的に見合うか
【対象校】(2巡目)



図Ⅱ—12(b) 評価に費やした労力は評価の目的に見合うか
【評価担当者】(2巡目)

（８）前回の認証評価受審との比較について

前回の認証評価を受けたことによる効果・影響があったかに関しては、対象校の回答は「質保証に効果・影響があった」か（機関９－①）については肯定的な回答が４割強、「改善の促進に効果・影響があった」か（機関９－②）については６割弱となっているが、「社会からの理解と支持に効果・影響があった」か（機関９－③）は２割弱となっている。これらの質問は７年前からの変化を問うものであり、回答者が当時の状況をどの程度理解しているかについて疑問があり、当然のことながら、「どちらとも言えない」が多い。

次に、前回と比較した当機構の認証評価プロセスについての回答結果を見ると、「評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった」か（機関１０－④）、「評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった」か（機関１０－⑨）において、肯定的な回答の割合はそれぞれ２割から３割弱となっており、否定的な回答が６～７％となっている。これらの回答結果は、上述した（１）～（７）の分析内容にほぼ整合するものである。

（９）評価についての全般的な意見・感想について

参考文献〔６～９〕に示すように、評価全般について、対象校及び評価担当者から多くの意見が寄せられている。対象校からの意見・感想としては、「評価結果が期待通りだった」、「自分たちも意識していなかった「優れた点」の指摘を受け、取組を継続していきたい」、「「改善を要する点」について改善に取り組み、学校の発展に繋げたい」というものが代表的であった。一方で、負担軽減のため、評価の内容及び方法について改善や工夫を望む意見も多く寄せられた。

評価担当者からの意見・感想としては、「勉強になった」、「貴重な経験ができた」、「今回の経験を自校の改善に活かしたい」という感想がある一方、認証評価の基準・観点等が画一化を導きはしないかと懸念する意見も見られた。

Ⅱ－２ 選択的評価事項に係る評価

１. アンケート調査の実施方法

（１）アンケート調査の実施

認証評価に関するアンケート調査と同様、対象校及び評価担当者に対し、記名選択回答式（５段階・２段階）及び自由記述からなるアンケート調査を実施した。

（２）アンケート調査結果の分析

選択的評価事項に係る評価の検証に関するアンケート調査の集計結果を参考資料８及び参考資料９に示す。これらから主要な項目を整理・分類し、項目別に分析を行った。分析の項目は以下の通りである。

- （１）評価を受けた理由について
- （２）選択的評価事項及び観点について
- （３）自己評価書について
- （４）書面調査・訪問調査について
- （５）評価結果（評価報告書）について
- （６）評価についての全般的な意見・感想について

２. 項目別の検証

（１）評価を受けた理由について

国立高等専門学校の場合、国立高等専門学校機構が各学校に対して評価を受けるよう指導しているとのことであるが、学校の個性や特色をアピールするため、客観性のある第三者の評価を受けることにより改善に繋げるためといった積極的な理由が多い〔６～９〕。

（２）選択的評価事項及び観点について

「認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことの適切性」（機関 選③）、選択的評価事項Ａ（研究活動の状況）、Ｂ（正規課程の学生以外に対する教育サービス）それぞれに対する「選択的評価事項のテーマとして設定したことの適切性」（機関 選④）、「選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法の適切性」（機関 選⑤）及び「基本的な観点の構成や内容の適切性」（機関 選⑥）については、いずれも対象校から肯定的な回答の割合が８割以上となっており、特に２巡目における「基本的な観点の構成や内容の適切性」（機関 選⑥）に関する平均値は、選択的評価事項Ａでは４.０３から４.１８に、選択的評価事項Ｂでは４.００から４.２０にそれぞれ増加している。

選択的評価事項自体の設定、そのテーマ設定等に対する評価担当者からの回答（評 選②

～⑤)の肯定的な回答の割合は対象校の場合に比べると若干小さいものの、7割以上となっており、1巡目よりもその割合は増加傾向にある。

(3) 自己評価書について

選択的評価事項に係る「自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った」(機関 選⑦)と回答する対象校の割合は、2巡目では2割程度となっている。なお、この値は1巡目と比べると大きく減少しているが、1巡目では途中で設問の選択肢が変わったため集計結果のサンプル数が少なくなっていることに注意する必要がある。

一方、自己評価書に対する評価担当者の2巡目における回答を見ると、「自己評価書は理解しやすかった」か(評 選択⑥)に対する肯定的な回答は半数程度であり、1割程度が「そう思わない」としている。「自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた」か(評 選⑦)に対する肯定的な回答は選択的評価事項A、Bともに8割程度であり、「機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった」か(評 選⑧)に対しても、選択的評価事項A、Bともに9割弱と1巡目に比べその割合が増加している。「書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報があればよかった」か(評 選⑨)に対しては、選択的評価事項A、Bともに、「どちらとも言えない」が6割程度であり、否定的な回答が3割程度となっている。

(4) 書面調査・訪問調査について

選択的評価事項A、Bそれぞれに対する「「書面調査による分析状況」の内容は適切であった」か(機関 選⑧)及び「訪問調査前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった」か(機関 選⑨)、さらに選択的評価事項全体について「総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった」か(機関 選⑩)に対する2巡目における対象校の肯定的な回答の割合はいずれも8割を超えている。

一方、「「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容の適切性」(評 選⑩)及び「自ら担当した調査の内容が評価結果に十分反映された」か(評 選⑪)に対して2巡目における評価担当者の肯定的な回答の割合は7割を超えており、おおむね肯定的なものとなっている。

(5) 評価結果(評価報告書)について

評価結果(評価報告書)に関して、「今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している」か(機関 選⑪)については、2巡目において実施している割合は7割弱である一方、「評価報告書をウェブサイトなどで公表している」か(機関 選⑫)

については、実施している割合は約8割となっており、認証評価の場合の結果と同様、実施していない対象校が一定程度存在している。

（6）評価についての全般的な意見・感想について

選択的評価事項に係る評価に関連して、対象校、評価担当者のそれぞれから様々な意見・感想が寄せられている〔6～9〕。例えば、対象校からは、「選択的評価事項Bは高い評価を受けたので、今後とも学校として地域への教育サービスを積極的に取り組んでいきたい」、評価担当者からは、「目標を掲げて、その目標に対して自己評価するというスタイルに、まだ対応できていない対象校がありました」、「教育、研究、地域貢献は国立高専の使命として定められており、国立高専機構の業務の範囲として明示されている。これらの基準は「選択的」である必要はなく、通常基準に組み入れてよいのではないか」といった意見が寄せられた。

Ⅱ－３ まとめ

ここでは、アンケート調査の結果のうち、いくつかの事項について整理・分類し、分析・評価した結果をまとめた。高等専門学校機関別認証評価に関しては、２巡目において、実施面で様々な工夫や配慮を行っているものの、評価の基準や方法等で大きな変更を行っていないこともあって、全般的に１巡目との間で集計結果に大きな差はなかった。

当機構の掲げる認証評価の３つの目的、「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」のうち、前二者については、おおむねその目的を達成できたものと考えられるが、第三の目的である「社会からの理解と支持」については、１巡目の場合と同様、必ずしも十分に達成できたとは言えず、対象校及び当機構の双方において、より効果的な認証評価の実施に向けて、さらなる工夫や努力が必要である。また、評価対象校及び評価担当者の作業負担は依然として大きいと認識されており、負担に見合った効果が得られているとの評価はあるものの、作業量の大幅な削減を図る必要があると考えられる。

今後は、これらの結果及び次のⅢに示す認証評価結果報告書の分析結果を踏まえ、Ⅳにおいて３巡目における課題改善の方向性を整理するものとする。

Ⅲ 高等専門学校評価結果の分析

当機構の高等専門学校機関別認証評価においては、認証評価の第2の目的、すなわち、評価結果をフィードバックすることにより、各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てるため、評価結果において「優れた点」及び「改善を要する点」を指摘している[13～19]。ここでは、これらの状況について分析し、それらの指摘から垣間見られる我が国の高等専門学校の教育の現状・課題について考察する。また、これらの分析・考察を通じて当機構の高等専門学校機関別認証評価の特徴を明らかにし、3巡目に向けての改善のための情報とする。

1. 「優れた点」及び「改善を要する点」の概要

2巡目において指摘された「優れた点」及び「改善を要する点」の個数を基準別に集計したものを図Ⅲ－1に示す。なお、以下に示す図における基準1～11及び選択的評価事項A、Bの内容は次の通りである。

基準1：高等専門学校の目的

基準2：教育組織（実施体制）

基準3：教員及び教育支援者等

基準4：学生の受入

基準5：教育の内容及び方法

○準学士課程

○専攻科課程

基準6：教育の成果

基準7：学生支援等

基準8：施設・設備

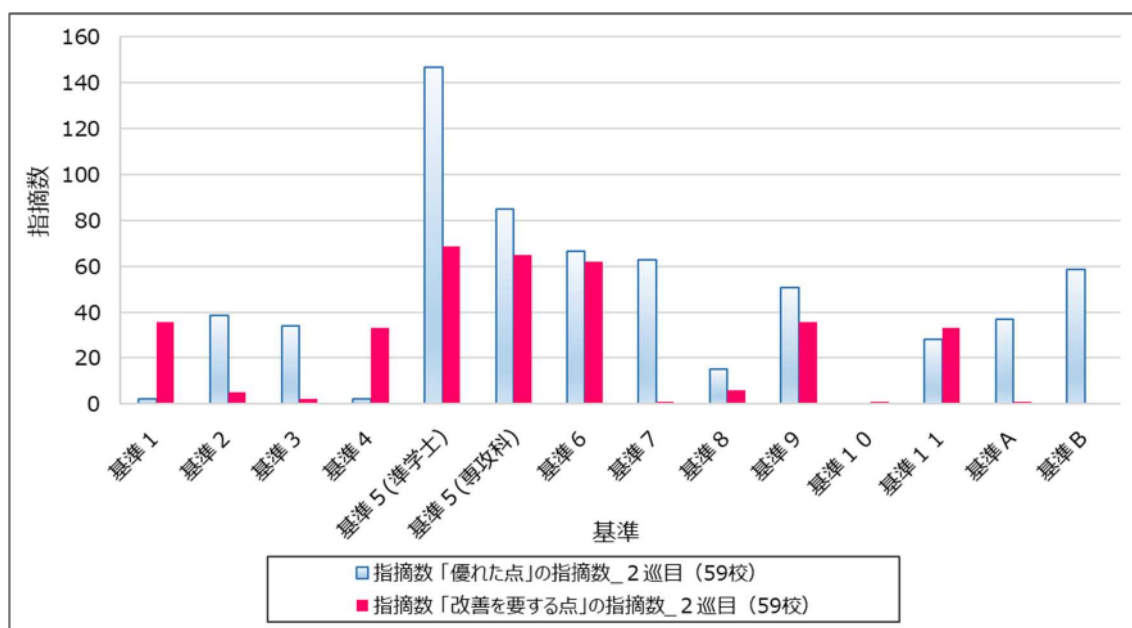
基準9：教育の質の向上及び改善のためのシステム

基準10：財務

基準11：管理運営

選択的評価事項A：研究活動の状況

選択的評価事項B：正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況



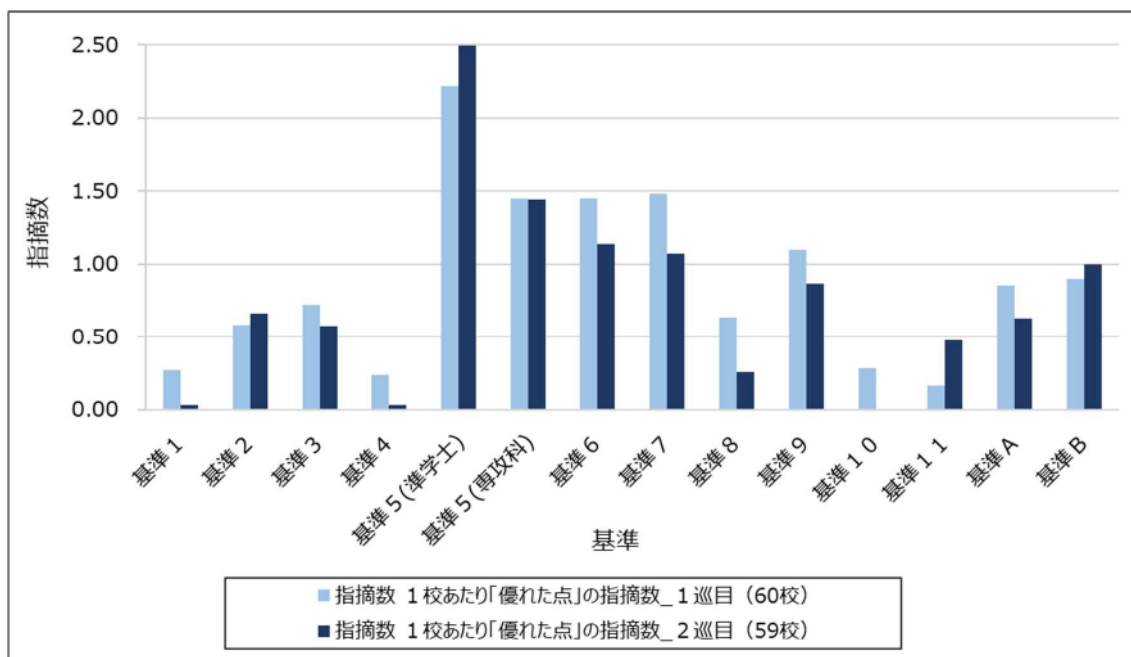
図Ⅲ－１ 基準別の「優れた点」及び「改善を要する点」の指摘数（２巡目）

図Ⅲ－１より、以下のことが分かる。

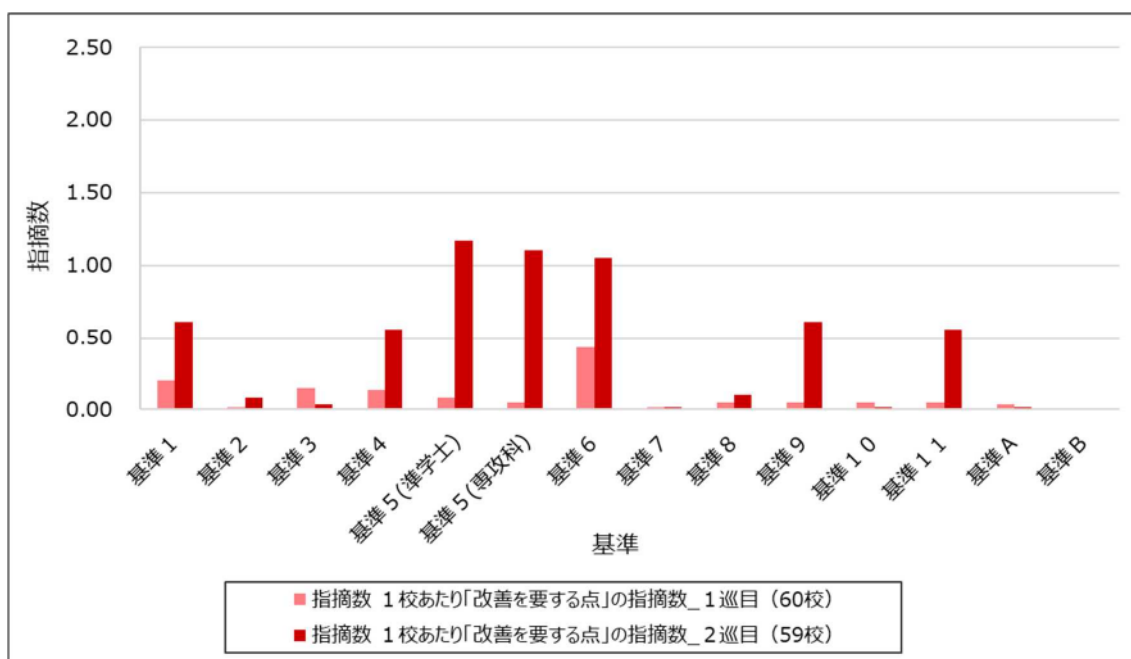
- ・「優れた点」の指摘は基準５「教育の内容及び方法（準学士課程）」、基準５「教育の内容及び方法（専攻科課程）」、基準６「教育の成果」、基準７「学生支援等」、選択的評価事項Ｂ「正規課程以外の学生以外に対する教育サービスの状況」において多く、基準１「高等専門学校 の目的」、基準４「学生の受入」、基準１０「財務」において少ない。

- ・「改善を要する点」の指摘は、基準「５教育の内容及び方法（準学士課程）」、基準５「教育の内容及び方法（専攻科課程）」、基準６「教育の成果」において多く、基準２「教育組織（実施体制）」、基準３「教員及び教育支援者等」、基準７「学生支援等」、基準１０「財務」、選択的評価事項Ａ「研究活動の状況」、選択的評価事項Ｂ「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」において少ない。

次に、１巡目における指摘状況と比較するため、対象校１校あたりの指摘数を計算したものを図Ⅲ－２、３に示す。



図Ⅲ－2 1校あたりの基準別の「優れた点」の指摘数の1巡目・2巡目比較



図Ⅲ－3 1校あたりの基準別の「改善を要する点」の指摘数の1巡目・2巡目比較

図Ⅲ－2、3より、以下のことが分かる。

- ・1校あたり「優れた点」の指摘数は、2巡目において全体的に減少しているが、基準11「管理運営」、基準5「教育の内容及び方法（準学士課程）」、基準2「教育組織（実施体

制)」、選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」においては1巡目に比べ増加している。また、基準5「教育の内容及び方法(専攻科課程)」、基準6「教育の成果」、基準7「学生支援等」、基準9「教育の質の向上及び改善のためのシステム」においては1巡目においても指摘数が比較的多かったが、2巡目においてもその傾向が続いている。

・1校あたり「改善を要する点」の指摘数は、2巡目において全体的に増加しているが、特に基準4「学生の受入」、基準5「教育の内容及び方法(準学士課程)」、基準5「教育の内容及び方法(専攻科課程)」、基準9「教育の質の向上及び改善のためのシステム」、基準11「管理運営」における指摘数の増加割合が大きい。また、基準1「高等専門学校の目的」、基準6「教育の成果」においても1校あたりの指摘数は増加している。

2. 基準ごとの分析

(1) 基準 1：高等専門学校の目的

表Ⅲ－1に示すように、1巡目では全60校中10校、2巡目では全59校のうち33校において「改善を要する点」を指摘しており、前者において12件、後者において36件の指摘事項があった。

当該基準の評価のポイントとしては、目的が明確に定められていること、学校の構成員に周知されていること、公表されていること、以上3点である。

目的が明確に定められていることについては、1巡目、2巡目ともに、学校全体の目的、教育方針とともに、準学士課程、専攻科課程それぞれに、卒業時、修了時に身に付ける学力、資質・能力を明確に定めていることを評価しており、この点について、これら卒業時、修了時に身に付ける学力、資質・能力に関して、定めているものの不明瞭な点が見られる、あるいは刊行物への記載が不十分など改善すべきと評価したものは、1巡目で9校、2巡目で4校となっている。1巡目で指摘され2巡目でも指摘された高等専門学校は1校であり、改善を図ったものの、なお不明瞭な点が残っていたことによる。2巡目で指摘された他の3校は、卒業時、修了時に身に付ける学力、資質・能力について1巡目では不明瞭な点が認められなかったものの、修正を行うなどの経緯の中で不明瞭さが生じ、2巡目において「改善を要する点」に指摘を受けているなどの結果による。この点については、すでに改善が図られている状況にあることが事後の対象校アンケートにおいて確認されている。

周知や公表については、1巡目で9校、2巡目で29校において改善を要する点を指摘している。これらは一見、状況が悪化したかのように見えるが、1巡目では周知状況を学校側で把握する取組が十分にはなされておらず、学生面談、教職員面談で確認したケースが多かったため、正確な状況把握が困難であったと言える。これに対して、2巡目では、学生や教職員に対するアンケート調査を実施して周知状況を把握する取組がほとんどすべての高等専門学校で実施され、その結果から、周知状況を図る取組をしているものの学生や教職員の認知度が低く表れている結果が明確になり、改善を要する点として指摘数が増加したことによっている。すなわち、1巡目に比べ、周知状況を高等専門学校自身で把握する取組が行われるようになり、問題点が把握できるようになってきている。

基準1の状況から、認証評価の目的である「高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てる」ことについて、その目的を果たしつつあると言えよう。

表Ⅲ－１ 基準１の「改善を要する点」の指摘内容

基準１の改善を要する点の内容	「卒業時、修了時に身に付ける学力、資質・能力」関連	周知・公表状況関連	その他	指摘した学校数計 (注)
１巡目	９校	９校	０校	１０校
２巡目	４校	２９校	３校	３３校

(注) 指摘した学校数計と内容別の合計が合わないのは、同一の学校に対して複数の内容を指摘しているためである。

(２) 基準２：教育組織（実施体制）

基準２では、基本的な組織構成と必要な運営体制が評価のポイントであるが、１巡目60校、２巡目59校、すべての対象校に対して組織構成は適切であると評価している。必要な運営体制に関しては、表Ⅲ－２に示すように、適切な状況にある中で、一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携について、「教員間の連携は見られるが、関連する科目間調整がなされているかどうかについて不十分」として、改善を要する点に１巡目で１校、２巡目で５校を指摘している。

以上の通り、基準２に関しては、１巡目、２巡目ともに、大きな問題はない状況である。

表Ⅲ－２ 基準２の「改善を要する点」の指摘内容

基準２の改善を要する点の内容	教員間連携関連	その他	計
１巡目	１校	０校	１校
２巡目	５校	０校	５校

(３) 基準３：教員及び教育支援者

基準３は、必要な教員配置、教員の教育活動評価、教員の採用・昇格、教育支援者の配置の４点が評価のポイントであるが、表Ⅲ－３に示すように、基準３は全体的には適切な状況にあった。１巡目では８校において改善を要する点を指摘している。指摘内容では、教員配置に関して３校、教員の教育活動評価に関して２校、教員の採用・昇格に関して２校、教育支援者の配置に関して１校においてそれぞれ指摘している。２巡目では、２校において教員の採用・昇格の基準や規定が明文化されていない点を指摘している。基準３の状況から、認証評価の目的である「高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てる」ことについて、その目的を果たしつつあると捉えられる。

表Ⅲ－３ 基準３の「改善を要する点」の指摘内容

基準３の改善を要する点の内容	教員配置 関連	教育活動 評価関連	採用・昇 格関連	教育支援 者関連	計
１巡目	３校	２校	２校	１校	８校
２巡目	０校	０校	２校	０校	２校

（４）基準４：学生の受入

基準４は、入学者受入方針が定められ、公表・周知されていること、入学者の選抜の適切な実施と検証、入学者数が適正であることの３点が評価のポイントである。

表Ⅲ－４に示すように、「改善を要する点」の指摘は、１巡目で７校、２巡目で２５校である。１巡目では、入学者受入方針に関して２校で明文化されていない点を指摘している。また、６校において入学者数が適正であることにに関して、入学定員を下回る状況を「改善を要する点」として指摘している。

２巡目では、入学者受入方針に関して、入学者選抜の基本方針の内容に踏み込んで精緻に評価をするよう心掛けた。その結果、入学者選抜の基本方針に関して１５校で明文化されていない点を「改善を要する点」として指摘している。また、入学者の選抜方法の検証と改善に結びつける取組に関して、改善に結びつけているかを精緻に評価し、新たに６校で改善を要する点として指摘している。これらは１巡目に比べ増加しているが、より精緻に評価したことによるものである。

また、６校において入学者数が適正であることにに関して、入学定員を下回る状況を「改善を要する点」として指摘している。さらにその他、入学者受入方針の周知状況が把握されていない点を６校で指摘している。

表Ⅲ－４ 基準４の「改善を要する点」の指摘内容

基準４の改善を要する点の内容	入学者 受入方針 関連	検証と 改善関連	入学者数 の適正 関連	その他（入 学者受入方 針の周知）	計 (注)
１巡目	２校	０校	６校	０校	７校
２巡目	１５校	６校	６校	６校	２５校

(注) 指摘した学校数計と内容別の合計が合わないのは、同一の学校に対して複数の内容を指摘しているためである。

（５）基準５：教育内容及び方法

表Ⅲ－５に示すように、準学士課程、専攻科課程ともに、２巡目になって改善を要する点の指摘数が大きく増加している。指摘の内容を見ると、「教育課程の編成、内容等」に関す

る指摘は1巡目では全くなかったのに対し、2巡目では10校に対してなされている。また、「授業形態、学習指導法、シラバス等」や「成績評価、単位認定等」に関する指摘は1巡目でも若干されていたが、2巡目になって大きく増加している。これは、2巡目の認証評価においては学習成果を重視するようになったことに伴い、それに関係する教育課程の編成・内容や成績評価等をより厳格に評価しようという傾向が強くなったことによると考えられる。なお、「成績評価、単位認定等」に関する指摘内容としては、「複数年度にわたり同一の試験問題が出題されている」というものが多い。「豊かな人間性の涵養の取組」や「教養教育や研究指導の適正性」に関する指摘は1巡目、2巡目ともになされていない。

表Ⅲ－5 基準5の「改善を要する点」の指摘内容

基準5の改善を要する点の内容	準学士課程				専攻科課程				計 (注)
	教育課程の編成、内容等	授業形態、学習指導法、シラバス等	豊かな人間性の涵養の取組	成績評価、単位認定等	教育課程の編成、内容等	授業形態、学習指導法、シラバス等	教養教育や研究指導の適切性	成績評価、単位認定等	
1巡目	0校	4校	0校	1校	0校	2校	0校	1校	8校
2巡目	10校	15校	0校	32校	10校	18校	0校	29校	46校

(注) 指摘した学校数計と内容別の合計が合わないのは、同一の学校に対して複数の内容を指摘しているためである。

(6) 基準6：教育の成果

学生が行う学習達成度評価等、「学生からの意見聴取の結果から判断しての教育の成果や効果の分析」に関しては、表Ⅲ－6に示すように、1巡目では、改善を要するとの指摘が60校中22校と極めて多かったが、2巡目でも対象校59校中17校であり、その指摘数の多さにそれほど大きな変化は見られない。

一方、「学校としての学習目標達成状況の把握・評価の取組」に関しては、1巡目ではほとんど指摘がなかったが、2巡目では指摘数が増加している。これについては、成果重視の評価にしようという評価部会の姿勢の変化によるところが大きいと考えられる。また、「卒業・修了生や進路先関係者からの意見聴取結果から判断しての教育の成果・効果の分析」についても2巡目において増加している。これについては、達成度評価アンケート等の項目が対象校の学習・教育目標の項目と一致していないとする指摘が多い。

なお、「進路状況等から判断しての教育の成果・効果の分析」に関しては、ほとんどすべての対象校において優れた点として取り上げられており、改善を要する点としての指摘は全くなされていない。このことは高等専門学校全体の大きな特色であると言える。

表Ⅲ－6 基準6の「改善を要する点」の指摘内容

基準6の 改善を要する点の内容	学校としての学習目標達成状況の把握・評価の取組	学校としての学習目標達成状況の評価結果から判断しての教育の成果・効果の分析	進路状況等から判断しての教育の成果・効果の分析	学生からの意見聴取結果から判断しての教育の成果・効果の分析	卒業・修了生や進路先関係者からの意見聴取結果から判断しての教育の成果・効果の分析	計 (注)
1巡目	1校	1校	0校	22校	3校	23校
2巡目	19校	3校	0校	17校	22校	37校

(注) 指摘した学校数計と内容別の合計が合わないのは、同一の学校に対して複数の内容を指摘しているためである。

(7) 基準7：学生支援等

表Ⅲ－7に示すように、基準7に関しては、1巡目においては学生寮の遮音性の低さに関して改善を要する点の指摘が1件あったのみで、2巡目においては学生による学生寮の評価の低さに関し改善を要する点の指摘が1件あったのみである。

表Ⅲ－7 基準7の「改善を要する点」の指摘内容

基準7の 改善を要する点の内容	ガイダンス、自主的学習の相談・助言	キャンパス生活環境等の整備、その効果的利用	学修支援に関する学生のニーズの把握、各種試験や外国留学のための支援体制等	特別な支援が必要な学生に対する学習支援体制等	部活動、サークル活動、課外活動に対する支援体制等	生活や経済面及び就職に関する指導・相談・助言、支援体制等	計
1巡目	0校	0校	0校	0校	0校	1校	1校
2巡目	0校	0校	0校	0校	0校	1校	1校

(8) 基準8：施設・設備

表Ⅲ－8に示すように、基準8に関しては、1巡目において施設・設備の老朽化に関する事項が2校指摘されていたが、2巡目においてはその指摘がなくなり、代わりに一部施設のバリアフリー化の取組の遅れを4校に、産業廃棄物等の安全管理体制及び安全管理の具体的な実施が不十分である点を1校において指摘している。また、バリアフリー化に関する指摘を受けた4校のうち1校において、耐震工事が未着手な建物があることを併せて指摘している。

表Ⅲ－８ 基準８の「改善を要する点」の指摘内容

基準８の改善を要する点の内容	施設・設備の整備、その有効活用	ＩＣＴ環境の整備、その有効活用	図書、学術雑誌、等	計
１巡目	２校	０校	１校	２校
２巡目	５校	０校	０校	５校

（９）基準９：教育の質の向上及び改善のためのシステム

表Ⅲ－９に示すように、基準９に関しては、１巡目では「個々の教員による授業改善を学校として把握していない」との指摘が２校、また「評価結果を教育の改善に結び付けるシステムが十分機能していない」との指摘が１校あっただけであり、その他に事項に対する指摘はなかった。これに対し、２巡目では「教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されていない」及び「教育の状況に関する自己点検・評価が学校として策定した評価基準・評価項目に基づいて実施されていない」との指摘が２６校と急激に増加している。しかも、その増加は２巡目の開始２年目から生じている。これは、１年遅れでスタートした大学機関別認証評価の２巡目において内部質保証システムの確立を重視するようになったことの影響を受けたものと考えられる。すなわち、高等専門学校機関別認証評価においても大学の場合と同様に、自己点検・評価とそれに基づく改善のシステムが確立されているかを的確に評価するようになったことによると考えられる。

表Ⅲ－９ 基準９の「改善を要する点」の指摘内容

基準９の改善を要する点の内容	教育の状況に関する自己点検・評価の実施体制の整備、学校として策定した評価基準に基づく評価の実施	評価結果を教育改善に結び付けるシステムの整備、教育課程の見直し方等の方策の検討等	個々の教員による授業内容等の継続的改善、その状況の学校としての把握	研究活動が教育の質の改善に結び付いているか	FD、SD等の適切な実施	計 (注)
１巡目	０校	１校	２校	０校	０校	３校
２巡目	２６校	８校	１校	０校	１校	３０校

(注) 指摘した学校数計と内容別の合計が合わないのは、同一の学校に対して複数の内容を指摘しているためである。

(10) 基準10：財務

表Ⅲ－10に示すように、基準10に関しては、1巡目において2校の私立高等専門学校に対して3点の指摘があり、2巡目においては1校の私立高等専門学校に対して1点の指摘があった。なお、2巡目に指摘のあった私立高等専門学校は、1巡目においても基準10において指摘を受けている。

表Ⅲ－10 基準10の「改善を要する点」の指摘内容

基準10の改善を 要する点の内容	財政基盤の 適切性	収支に係る 計画等の適切性	財務に係る監査等 の適正実施	計 (注)
1巡目	1校	1校	1校	2校
2巡目	1校	0校	0校	1校

(注) 指摘した学校数計と内容別の合計が合わないのは、同一の学校に対して複数の内容を指摘しているためである。

(11) 基準11：管理運営

表Ⅲ－11に示すように、基準11に関しては、1巡目における「改善を要する点」の指摘は多くなく、「活動の総合的な状況に対する自己点検・評価の実施」に関する指摘が3校においてなされていたにすぎないが、基準9の場合と同様の理由から、2巡目においてはこれに関連する指摘が23校と急増している。ここで、基準9の「教育の状況に関する自己点検・評価」と「学校活動の総合的な状況に対する自己点検・評価」は類似した内容であり、17校が両者において改善を要する点を指摘されている。こうした重複を考慮すると2巡目においては、全対象校59校の半数以上の32校が自己点検・評価のシステムに関して「改善を要する点」の指摘を受けていることになる。なお、自己点検・評価以外に関連する事項に対する指摘は2巡目においてもほとんどない。

表Ⅲ－11 基準11の「改善を要する点」の指摘内容

基準11の改善を要する点の内容	管理運営体制及び事務組織の整備等の適切性	学校として策定した基準に基づく学校活動の総合的な状況に対する自己点検・評価の実施、その結果の外部組織による検証等	評価結果に基づく改善システムの整備、運営の状況等	外部の意見等の管理運営への反映、外部の教育資源の活用状況	教育研究活動等の状況やその活動成果の情報の公表	計 (注)
1巡目	0校	3校	0校	0校	0校	3校
2巡目	3校	23校	3校	2校	1校	28校

(注) 指摘した学校数計と内容別の合計が合わないのは、同一の学校に対して複数の内容を指摘しているためである。

(12) 選択的評価事項A：研究活動の状況

選択的評価事項Aに対する「改善を要する点」の指摘については、「研究活動の実施状況や問題点を把握し改善するシステムが機能していない」との指摘が1巡目においては2校、2巡目は1校に対してそれぞれなされた。なお、「優れた点」(特色のある点を含む)の指摘件数は、同一校に対する重複指摘を含むと、1巡目においては60校で51件、2巡目においては59校で37件となっており、優れた点として取り上げられる取組の数はやや減少傾向にある。

(13) 選択的評価事項B：正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

選択的評価事項Bに対する「改善を要する点」の指摘は、1巡目、2巡目ともに全くなされていない。なお、「優れた点」(特色のある点を含む)の指摘件数は、1巡目においては60校で54件、2巡目においては59校で59件となっており、優れた点として取り上げられる取組の数は増加し、ほとんどすべての学校に対して指摘される状況となっている。これは、ほとんどの学校が地域貢献活動に力を入れ様々な工夫を重ねていることの結果であると考えられる。

以上、基準別に「改善を要する点」の指摘状況を中心に分析したが、2巡目における評価基準・観点別の「優れた点」及び「改善を要する点」の指摘状況は参考資料10に示す通りである。

Ⅳ 考察－３巡目における反映状況－

平成30年度から始まった３巡目の高等専門学校機関別認証評価においては、Ⅰ～Ⅲで述べた２巡目までの経験やその検証結果に加え、中央教育審議会等における答申や提言等、高等専門学校の教育の現状や今後目指すべき方向、各高等専門学校の個性の伸長に資する評価のあり方等を踏まえて、評価基準・観点や評価方法等の改定を行った。以下では、３巡目における変更点を中心に考察を加える。

（１）重点評価項目の設定

平成28年３月の学校教育法第110条第２項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令（以下、「細目省令」という。）の改正等を受け、「評価実施大綱」を改定し、「教育の内部質保証システム」を基準１として設定し、その「評価の視点」を重点評価項目として位置付けて評価するとともに、その評価結果を段階別に示すことを明記した。これは、教育研究活動等の改善を継続的に行う仕組み（内部質保証システム）を重視し、認証評価の実施を通じてその確立を図ることを目指すという質保証の動向を反映するものである。

（２）認証評価による改善を促進する仕組みの導入

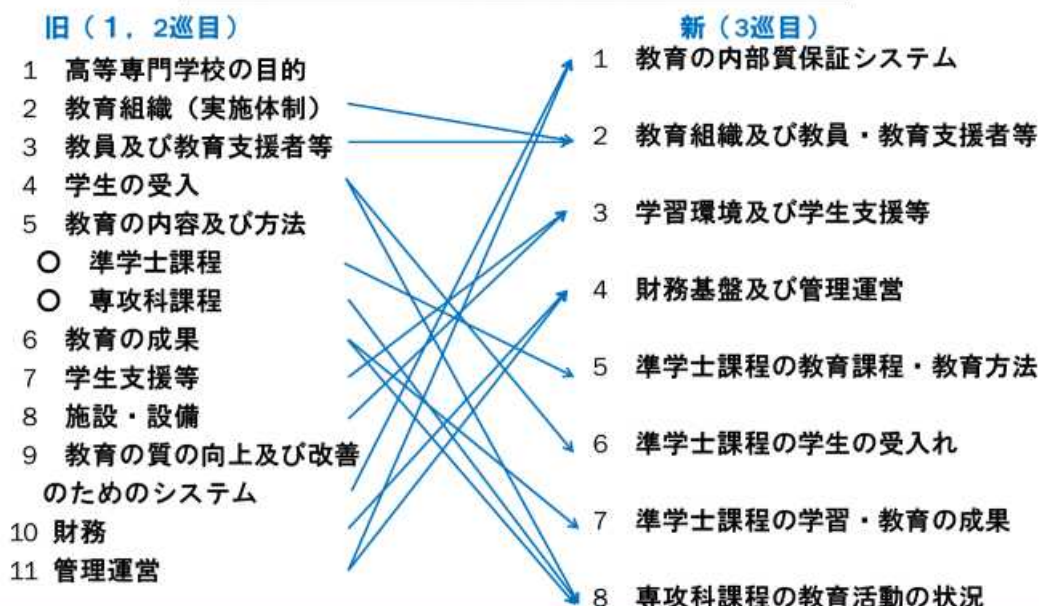
認証評価をより効果的なものとするため、評価結果において「改善を要する点」として指摘された事項のうち評価委員会が指定する事項については、次の認証評価を受けるまでの間の任意の年度に、その対応状況の確認を受けることが可能となるフォローアップの仕組みを導入した。これにより、当機構は、改善状況を十分であると確認できる場合、その旨を評価結果に追記し、公表することになる。この変更は、上記平成28年３月の細目省令の改正と軌を一にしている。

（３）「評価基準の構成」の変更

従来の11基準を組み替え、「教育の内部質保証システム」（基準１）～「専攻科課程の教育活動の状況」（基準８）の８基準で構成した。特に、教育活動に関しては、準学士課程と専攻科課程を明確に分離し、準学士課程については、「準学士課程の教育課程・教育方法」（基準５）、「準学士課程の学生の受入れ」（基準６）、「準学士課程の学習・教育の成果」（基準７）の３つの基準とし、専攻科課程については、「専攻科課程の教育活動の状況」（基準８）の１つの基準とした。これは、「Ⅲ 高等専門学校評価結果の分析」において示したように、専攻科課程については、改善を要する点の指摘が教育課程の編成、シラバスの適切性、成績評価などの一部の基本的に観点到集中していることから、準学士課程と同様に一様な分析を行うことを避けるとともに、「（７）自己評価における第三者評価結果等の利用」において述べるように、高等専門学校側が自己評価の際に、特例認定、ＪＡＢＥＥによる認定の結果をより効果的に活用することを可能とすることにも寄与することを意図している。

また、「卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」、「入学受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）」のいわゆる「三つの方針」は、内部質保証の起点となる重要なものであることから、準学士課程と専攻科課程のそれぞれに3つの「観点」を設定した。なお、2巡目まで基準1に置かれていた「学校の目的」については、基準から削除し、分析・評価の実施における前提と位置付けている。ただし、目的の周知、公表については、基準4の「財務基盤及び管理運営」観点4－3－①に含めている。

3巡目における認証評価基準の構成



（４）重点評価項目とする観点の指定

平成28年3月の細目省令の改正の要請を具体化するために、重点評価項目とする具体的な観点として、基準1の内部質保証システムに係る4つの観点（観点1－1－①～④）を指定し、その評価を段階別評価によって実施するものとした。

（５）「観点」の新設・整理・統合

高等専門学校等に、その職員が高等専門学校等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させるための研修（スタッフ・ディベロップメント（SD））の機会を設けることなどを求める大学設置基準の改正を準用することに対応して、それに関連する観点（観点4－2－⑤）を新設した。その他、対象校アンケートや評価担当者アン

ケートにおいて類似しているとの指摘が多かった観点（p. 14）については、基準の統合に合わせて整理・統合した（観点総数は、2巡目の75に対し、3巡目は68）。

（6）「自己評価書様式」の変更

評価に費やした作業量に関するアンケート結果から明らかなように（p. 28）、自己評価を行う対象校の負担の軽減を図るために、観点の自己評価に関する自己評価書の様式を、従来の「自由記述方式」から自己点検・評価の項目別の「チェック方式」に変更した。また、この変更は、機構による評価作業においてもより効果的かつ的確な評価の実施のためにも有効であると判断している。

また、項目別の自己点検・評価結果の根拠理由に関しては、対象校の負担軽減に資するよう、根拠資料等の提示のみを主体とするものとし、根拠資料等の提示のみでは自己評価として十分とは言えない自己点検・評価の項目の場合のみ、根拠資料に基づく説明を求めるものとした。この変更も対象校側、機構側双方における作業がより効果的となることを意図している。

さらに、各基準の自己評価に際して、当機構によって設定されている「観点」や「自己点検・評価の項目」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色を反映できるよう、「自己評価書の様式」において各基準の「評価の視点」ごとに、「特記事項」欄を設置し、根拠となる資料・データ等を参照する際の留意点等を記述することができるものとした。

（7）自己評価における第三者評価結果等の利用

基準2の専攻科課程の担当教員に係る観点（観点2-2-②）及び基準8の専攻科課程の教育活動に係る観点（観点8-1-①～⑥）の評価に際しては、JABEE認定プログラムの認定に係る結果や当機構による特例適用専攻科の認定に係る結果を利用できるものとした。このことは、平成28年3月の細目省令改正に至る審議をまとめた「認証評価制度の充実に向けて（審議まとめ）」（平成28年3月中央教育審議会大学分科会）の趣旨を反映するとともに、高等専門学校の自己評価の負担の軽減を図ることを意図している。

（8）その他の変更

内部質保証システムについては従来から重視してきたが、今回の改定に合わせ、「評価実施大綱」における認証評価の目的として、従来からの「質の保証」、「改善に役立てる」、「社会への公表により広く国民の理解と支持を得る」に加え、「内部質保証システムの確立・充実を図る」を明記した。

また、「評価実施大綱」における認証評価の基本的な方針として、従来からの6つの方針に加え、これまで実質的には実施してきた「高等教育の質保証の国際的動向を踏まえ、高等専門学校における教育の内部質保証システム、学習成果、及び教育情報の公表を重視した評

価を行う」ことを改めて明記し、アンケート調査結果において観察される認証評価の目的としての社会における認識の向上の支援に関して、相対的に低く評価されていることに対応した。

さらに、次回評価の実施時期に対する制限をなくした（「6年後または7年後」から、「7年以内の任意年度」の実施に変更）。

（9） 選択的評価事項に係る評価の変更

選択的評価事項Bの「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の名称を「地域貢献活動等の状況」へ変更し、より広い内容を含む事項を評価対象とするようにした。

また、2つの選択的評価事項A、Bの評価に係る観点をPDCAに対応する4つの観点に変更した。

おわりに

本報告書では、平成23年度から平成29年度までの2巡目に当機構が実施した高等専門学校機関別認証評価及び選択的評価事項に係る評価について、評価結果を含めその概要を述べるとともに、その検証を行った。検証に際しては、評価対象校及び評価担当者に対して毎年度実施してきたアンケート調査の結果及び高等専門学校認証評価の評価結果について、1巡目における結果との比較を含め、分析を行った。

アンケート調査の分析結果から、当機構の掲げる認証評価の3つの目的、「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」のうち、前二者については、おおむねその目的を達成できたと考えられるものの、第三の目的である「社会からの理解と支持」については、1巡目と同様、必ずしも達成できたとは言えず、評価対象校及び当機構の双方において、より効果的な認証評価の実施に向けてのさらなる工夫や努力が必要である。また、評価対象校の作業負担は依然として大きいと認識されており、負担に見合った効果が得られているとの評価はあるものの、今後は作業量の大幅な軽減を図る必要がある。

認証評価の評価結果において指摘された「優れた点」及び「改善を要する点」についての分析からは、2巡目における「優れた点」の指摘数は基準全体で1校あたり10.7件であり、1巡目の10.9件からやや減少しているものの、多くの高等専門学校が教育の質の向上のために、その個性や特色を発揮しつつ継続的に様々な取組を行っており、評価担当者もそれらを積極的に評価していることが分かった。一方、2巡目における「改善を要する点」の指摘数は1校あたり6.0件であり、1巡目の1.3件に比べて大幅に増加していた。これに関しては、高等専門学校の教育の状況が以前よりも悪化しているというよりは、対象校の教育の状況の向上・改善のためには小さな問題点であっても積極的に指摘すべきであるという認証評価委員会及び評価部会の評価姿勢の変化の結果であると考えられた。

当機構では、2巡目の検証結果及び中央教育審議会答申等における提言等を踏まえ、平成30年度からの3巡目に向けて、評価基準・観点の見直し、評価実施大綱や自己評価実施要項の見直し・充実などを実施し、現在、3巡目の評価を実施中である。しかし、未知の課題も少なくなく、当機構としては、関係機関等と連携・協力しながら、引き続き課題解決に向けて努力を継続し、その成果の評価業務への取り込みを推進していくこととしている。

最後に、本報告書をまとめるにあたり、認証評価にご参加いただき、貴重なご意見をお寄せいただいた高等専門学校の関係者、評価担当者並びに認証評価委員会等各種委員会の方々に感謝を申し上げます。

参考文献

- 1) 大学改革支援・学位授与機構 『高等専門学校機関別認証評価 実施大綱』（平成29年1月改定）
- 2) 大学改革支援・学位授与機構 『高等専門学校機関別認証評価 高等専門学校評価基準付 選択的評価事項』（平成29年1月改定）
- 3) 大学改革支援・学位授与機構 『高等専門学校機関別認証評価 自己評価実施要項』（平成29年度実施分）
- 4) 大学改革支援・学位授与機構 『高等専門学校機関別認証評価 評価実施手引書』（平成29年度実施分）
- 5) 大学改革支援・学位授与機構 『高等専門学校機関別認証評価 訪問調査実施要項』（平成29年度実施分）
- 6) 大学評価・学位授与機構 『平成23年度に実施した高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書』
- 7) 大学評価・学位授与機構 『平成24年度に実施した高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書』
- 8) 大学評価・学位授与機構 『平成25年度に実施した高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書』
- 9) 大学評価・学位授与機構 『平成26年度に実施した高等専門学校機関別認証評価に関する検証結果報告書』
- 10) 大学評価・学位授与機構 『高等専門学校機関別認証評価に関する第2サイクルの中間検証結果報告書』（平成28年3月）
- 11) 野澤庸則、田中弥生「第2サイクルにおける高等専門学校認証評価基準―第1サイクルにおける検証結果の基準・観点の見直しへの反映―」『大学評価・学位研究』第13号 pp. 57-77（平成24年3月）
- 12) 大学評価・学位授与機構 『進化する大学機関別認証評価―第1サイクルの検証と第2サイクルにおける改善』（平成25年3月）
- 13) 大学評価・学位授与機構 『平成23年度高等専門学校機関別認証評価結果報告』
- 14) 大学評価・学位授与機構 『平成24年度高等専門学校機関別認証評価結果報告』
- 15) 大学評価・学位授与機構 『平成25年度高等専門学校機関別認証評価結果報告』
- 16) 大学評価・学位授与機構 『平成26年度高等専門学校機関別認証評価結果報告』
- 17) 大学評価・学位授与機構 『平成27年度高等専門学校機関別認証評価結果報告』
- 18) 大学改革支援・学位授与機構 『平成28年度高等専門学校機関別認証評価結果報告』
- 19) 大学改革支援・学位授与機構 『平成29年度高等専門学校機関別認証評価結果報告』

参 考 資 料

年度別対象校一覧

(認証評価)

平成 23 年度

○ 国立高等専門学校（6 高等専門学校）

旭川工業高等専門学校、八戸工業高等専門学校、沼津工業高等専門学校、
明石工業高等専門学校、広島商船高等専門学校、阿南工業高等専門学校

平成 24 年度

○ 国立高等専門学校（12 高等専門学校）

釧路工業高等専門学校、一関工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、
福井工業高等専門学校、長野工業高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校、
和歌山工業高等専門学校、徳山工業高等専門学校、高知工業高等専門学校、
有明工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、鹿児島工業高等専門学校

○ 公立高等専門学校（1 高等専門学校）

東京都立産業技術高等専門学校

○ 私立高等専門学校（1 高等専門学校）

金沢工業高等専門学校

平成 25 年度

○ 国立高等専門学校（14 高等専門学校）

鶴岡工業高等専門学校、木更津工業高等専門学校、東京工業高等専門学校、
岐阜工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、舞鶴工業高等専門学校、
奈良工業高等専門学校、松江工業高等専門学校、呉工業高等専門学校、
宇部工業高等専門学校、弓削商船高等専門学校、久留米工業高等専門学校、
北九州工業高等専門学校、佐世保工業高等専門学校

平成 26 年度

○ 国立高等専門学校（14 高等専門学校）

函館工業高等専門学校、苫小牧工業高等専門学校、秋田工業高等専門学校、
福島工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、群馬工業高等専門学校、
長岡工業高等専門学校、石川工業高等専門学校、豊田工業高等専門学校、
米子工業高等専門学校、津山工業高等専門学校、大島商船高等専門学校、
新居浜工業高等専門学校、大分工業高等専門学校

○ 私立高等専門学校（1 高等専門学校）
近畿大学工業高等専門学校

平成 27 年度

○ 公立高等専門学校（1 高等専門学校）
神戸市立工業高等専門学校
○ 私立高等専門学校（1 高等専門学校）
サレジオ工業高等専門学校

平成 28 年度

○ 国立高等専門学校（4 高等専門学校）
仙台高等専門学校、富山高等専門学校、香川高等専門学校、熊本高等専門学校

平成 29 年度

○ 国立高等専門学校（3 高等専門学校）
旭川工業高等専門学校、広島商船高等専門学校、沖縄工業高等専門学校
○ 公立高等専門学校（1 高等専門学校）
大阪府立大学工業高等専門学校

年度別対象校一覧

(選択的評価事項に係る評価)

平成 23 年度

○ 国立高等専門学校 (6 高等専門学校)

旭川工業高等専門学校 (A・B)、八戸工業高等専門学校 (A・B)、
沼津工業高等専門学校 (A・B)、明石工業高等専門学校 (A・B)、
広島商船高等専門学校 (A・B)、阿南工業高等専門学校 (A・B)

平成 24 年度

○ 国立高等専門学校 (12 高等専門学校)

釧路工業高等専門学校 (A・B)、一関工業高等専門学校 (A・B)、
茨城工業高等専門学校 (A・B)、福井工業高等専門学校 (A・B)、
長野工業高等専門学校 (A・B)、鈴鹿工業高等専門学校 (A・B)、
和歌山工業高等専門学校 (A・B)、徳山工業高等専門学校 (A・B)、
高知工業高等専門学校 (A・B)、有明工業高等専門学校 (A・B)、
都城工業高等専門学校 (A・B)、鹿児島工業高等専門学校 (A・B)

平成 25 年度

○ 国立高等専門学校 (14 高等専門学校)

鶴岡工業高等専門学校 (A・B)、木更津工業高等専門学校 (A・B)、
東京工業高等専門学校 (A・B)、岐阜工業高等専門学校 (A・B)、
鳥羽商船高等専門学校 (A・B)、舞鶴工業高等専門学校 (A・B)、
奈良工業高等専門学校 (A・B)、松江工業高等専門学校 (A・B)、
呉工業高等専門学校 (A・B)、宇部工業高等専門学校 (A・B)、
弓削商船高等専門学校 (A・B)、久留米工業高等専門学校 (A・B)、
北九州工業高等専門学校 (A・B)、佐世保工業高等専門学校 (A・B)

平成 26 年度

○ 国立高等専門学校 (14 高等専門学校)

函館工業高等専門学校 (A・B)、苫小牧工業高等専門学校 (A・B)、
秋田工業高等専門学校 (A・B)、福島工業高等専門学校 (A・B)、
小山工業高等専門学校 (A・B)、群馬工業高等専門学校 (A・B)、

長岡工業高等専門学校（A・B）、石川工業高等専門学校（A・B）、
豊田工業高等専門学校（A・B）、米子工業高等専門学校（A・B）、
津山工業高等専門学校（A・B）、大島商船高等専門学校（A・B）、
新居浜工業高等専門学校（A・B）、大分工業高等専門学校（A・B）
○ 私立高等専門学校（1 高等専門学校）
近畿大学工業高等専門学校（A・B）

平成 27 年度

○ 公立高等専門学校（1 高等専門学校）
神戸市立工業高等専門学校（A・B）
○ 私立高等専門学校（1 高等専門学校）
サレジオ工業高等専門学校（A）

平成 28 年度

○ 国立高等専門学校（4 高等専門学校）
仙台高等専門学校（A・B）、富山高等専門学校（A・B）、
香川高等専門学校（A・B）、熊本高等専門学校（A・B）

平成 29 年度

○ 国立高等専門学校（3 高等専門学校）
旭川工業高等専門学校（A・B）、広島商船高等専門学校（A・B）、
沖縄工業高等専門学校（A・B）
○ 公立高等専門学校（1 高等専門学校）
大阪府立大学工業高等専門学校（A・B）

平成 2 9 年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

貴校名 _____

今回、当機構の評価を受けられて、どのように感じられたか、1～11の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものと記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」とご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままで結構です。

いただいた回答は、選択式のもののについては、原則として統計的に処理した上で、また、記述式のもののについては、学校名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)	
回答例① は、適切であった -----	5	4	3	2 1 3
回答例② は、適切であった -----	5	4	③	2 1

(回答できない場合)

	強く そう思う (5)	どちらとも ← 言えない → (3)	全くそう 思わない (1)	
. は、適切であった -----	5	4	3	2 1 —

1. 評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった -----	5	4	3	2	1	
	ある		ない			
⑤ 自己評価しにくい評価基準又は観点があった -----	2		1			

→※⑤について、2 とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が自己評価しにくかったかを理由も含めて具体的にご記入ください。

--

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった -----	2	1	

→※⑥について、2 とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点について理由も含めて具体的にご記入ください。

--

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

2. 評価の方法及び内容について

評価の方法及び内容について、(1) 自己評価、(2) 訪問調査等、(3) 意見の申立ての3項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

(1) 自己評価について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点に基づき、適切に自己評価を行うことができた -----	5	4	3	2	1	
② 自己評価書に添付する資料は、既に蓄積していたもので十分対応することができた -----	5	4	3	2	1	
	迷った		迷っていない			
③ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った -----	2		1			

→※③について、2とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

--

④ 貴校の総合的な状況が広く社会等の理解を得るために、わかりやすい自己評価書を作成することができた -----	5	4	3	2	1	
⑤ 自己評価書の完成度は満足できるものであった -----	5	4	3	2	1	
⑥ 自己評価書には文字数制限を設けているが、文字数は自己評価書を作成する上で十分な量であった -----	5	4	3	2	1	

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのくらいの文字数であればよいと思うかをご記入ください。

--

	参考にした	参考にしなかった	
⑦ 自己評価書の作成に当たって、既に機構の認証評価を受けた他高等専門学校の自己評価書を参考にした -----	2	1	

- ・ 自己評価についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(2) 訪問調査等について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 訪問調査の前に提示された、「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

- ② 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

- ③ 訪問調査時に機構の評価担当者（事務担当者を除く。以下同様。）が質問した内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ④ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

- ⑤ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の方法がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

- ⑥ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

- ⑦ 訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ⑧ 訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であると思うかをご記入ください。

--

- ⑨ 訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・訪問調査等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 意見の申立てについて

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

- ② 「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載することとは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

以下は、意見の申立てを行った対象校のみお答えください。

- ③ 貴校からの意見の申立てに対する機構の対応は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

3. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、(1) 評価に費やした作業量、(2) 機構が設定した作業期間、(3) 評価作業に費やした労力、(4) 評価のスケジュールの4項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

(1) 評価に費やした作業量について

		＜作業量＞				
		とても 大きい (5)	← 適当 (3)	→ 小さい (1)		
①	自己評価書の作成 -----	5	4	3	2	1
②	訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 -----	5	4	3	2	1
③	訪問調査のための事前準備 -----	5	4	3	2	1
④	訪問調査当日の対応 -----	5	4	3	2	1
⑤	意見の申立て -----	5	4	3	2	1

・評価に費やした作業量についてご意見、ご感想等をご記入ください。

①～⑤について、5とご回答いただいた場合、具体的にどのような作業において作業量が大きかったかをご記入ください。

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

＜作業期間＞					
とても 長い ← 適当 → 短い					
(5) (3) (1)					
① 訪問調査の前に提示された「訪問調査時の確認事項」への対応 -----	5	4	3	2	1
② 訪問調査のための事前準備 -----	5	4	3	2	1
③ 訪問調査当日の対応 -----	5	4	3	2	1
④ 意見の申立て -----	5	4	3	2	1

・ 機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等の改善を進めるという目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 評価作業に費やした労力は、貴校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(4) 評価のスケジュールについて

- ① 自己評価書の提出時期（6月末）は適当であった
（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。） ----
- ② 訪問調査の実施時期（9月上旬～11月下旬）は適当であった
（適当でないと回答された場合、どの時期が適当か自由記述欄にお書きください。） ----

適当	適当でない	
2	1	
2	1	

・評価のスケジュールについてご意見、ご感想等をご記入ください。

4. 説明会・研修会等について

認証評価に関する説明会、自己評価担当者等に対する研修会、その他機構が実施する各種説明等について以下の質問にお答えください。(⑧について、訪問説明を受けなかった対象校は回答欄に「－」をご記入ください。)

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)		
① 説明会の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1	
② 説明会の内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1	
③ 説明会の内容は役立った -----	5	4	3	2 1	
④ 自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1	
⑤ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1	
⑥ 自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った -----	5	4	3	2 1	
⑦ 機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った -----	5	4	3	2 1	
⑧ 機構が行った訪問説明は役立った -----	5	4	3	2 1	
⑨ 説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応） は適切であった -----	5	4	3	2 1	

・説明会・研修会等についてご意見、ご感想等をご記入ください。

5. 評価結果（評価報告書）について

評価結果（評価報告書）について、（１）評価報告書の内容等、（２）自己評価書及び評価報告書の公表、（３）評価結果に関するマスメディア等の報道の３項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

（１）評価報告書の内容等について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった -----	5	4	3	2	1	
② 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等の改善に役立つものであった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価報告書の内容は、貴校の教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価報告書の内容は、貴校の目的に照らし適切なものであった -----	5	4	3	2	1	
⑤ 評価報告書の内容は、貴校の実態に即したものであった -----	5	4	3	2	1	
⑥ 評価報告書の内容は、貴校の規模等（資源・制度等）を考慮したものであった -----	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の内容から、教育研究活動等に関して新たな視点が得られた ---	5	4	3	2	1	
⑧ 評価報告書の構成及び内容はわかりやすいものであった -----	5	4	3	2	1	

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点がわかりにくかったかをご記入ください。

--

⑨ 総じて、機構による評価報告書の内容は適切であった -----	5	4	3	2	1	
----------------------------------	---	---	---	---	---	--

(2) 自己評価書及び評価報告書の公表について

① 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイト等で公表している--

している	していない	
2	1	

② 評価報告書をウェブサイト等で公表している -----

2	1	
---	---	--

(3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価結果に関して、マスメディア等から適切な報道がなされた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価結果（評価報告書）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

6. 評価を受けたことによる効果・影響について

評価を受けたことによる効果・影響について、自己評価実施時点での効果・影響と機構の評価結果を受けての効果・影響とに分けて質問しますので、それぞれお答えください。(具体の活用例、改善例については、別途「7. 評価結果の活用について」で質問します。)

(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)	
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができた -----	5	4	3	2 1
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができた -----	5	4	3	2 1
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透した -----	5	4	3	2 1
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上した -----	5	4	3	2 1
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進した -----	5	4	3	2 1
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立った -----	5	4	3	2 1
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進した -----	5	4	3	2 1
⑧ 貴校の個性的な取組を促進した -----	5	4	3	2 1
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した -----	5	4	3	2 1
⑩ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した -----	5	4	3	2 1

・自己評価を行ったことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想等がありましたらご記入ください。

(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)		
① 貴校の教育研究活動等について全般的に把握することができる -----	5	4	3	2 1	
② 貴校の教育研究活動等の今後の課題を把握することができる -----	5	4	3	2 1	
③ 教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する -----	5	4	3	2 1	
④ 各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する -----	5	4	3	2 1	
⑤ 貴校の教育研究活動等の改善を促進する -----	5	4	3	2 1	
⑥ 貴校の将来計画の策定に役立つ -----	5	4	3	2 1	
⑦ 貴校のマネジメントの改善を促進する -----	5	4	3	2 1	
⑧ 貴校の個性的な取組を促進する -----	5	4	3	2 1	
⑨ 自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する -----	5	4	3	2 1	
⑩ 教職員に評価結果の内容が浸透する -----	5	4	3	2 1	
⑪ 評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する -----	5	4	3	2 1	
⑫ 貴校の教育研究活動等の質が保証される -----	5	4	3	2 1	
⑬ 学生（今後入学する学生を含む）の理解と支持が得られる -----	5	4	3	2 1	
⑭ 広く社会の理解と支持が得られる -----	5	4	3	2 1	
⑮ 他高等専門学校の評価結果から優れた取組を参考にする -----	5	4	3	2 1	

・機構の評価結果を受けたことによる効果・影響に関連して、ご意見、ご感想等がありましたらご記入ください。

7. 評価結果の活用について

- ① 今回の評価（機構の評価結果だけでなく、貴校における自己評価及びその後の評価の過程で得られた知見を含む。）を契機として、課題として認識し、何らかの変更・改善を予定している事項（または実施済みの事項）がありましたら、その主要な事項について、簡潔にご記述ください。

また、その変更・改善の際に、今回の評価はどの程度参考になったかを5段階でお答えください。

特に、評価結果において「改善を要する点」として指摘を受けた事項について、変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）がありましたら、必ずご記述ください。

注：本質問は、機構の評価がどの程度対象校の改善に活用されているかを把握することにより、評価方法の改善を図ろうとするものです。貴校の変更・改善の取組状況自体を評価することを目的とするものではありません。

非常に参考になった (5) 参考に ← なった → (3) あまり参考に
ならなかった (1)

課題	(記入例) 【基準6】卒業生のアンケート結果からみて、「外国語の能力」の達成度が十分ではない。	5	4	3	2	1	3
変更・改善	「外国語の能力」の達成度を向上させるため、来年度から、カリキュラムの充実、学習環境の整備を行うこととしている。						
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							
課題		5	4	3	2	1	
変更・改善							

※必要に応じて、枠の数を増やしたり、縦幅を大きくしてください。

- ② 貴校では、今後、次のような事柄に評価結果を用いる予定がありますか。以下の該当する番号に○を付けるか、下の回答欄に番号を記入してください。（複数回答可）

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 1 貴校の広報誌に評価結果を掲載する。 | 2 貴校のウェブサイトで評価結果を公表する。 |
| 3 資金獲得のための申請書に記載する。 | 4 学生募集の際に用いる。 |
| 5 共同研究等の相手先企業を募集するパンフレット等に用いる。 | |
| 6 その他（具体的に） | |

(

)

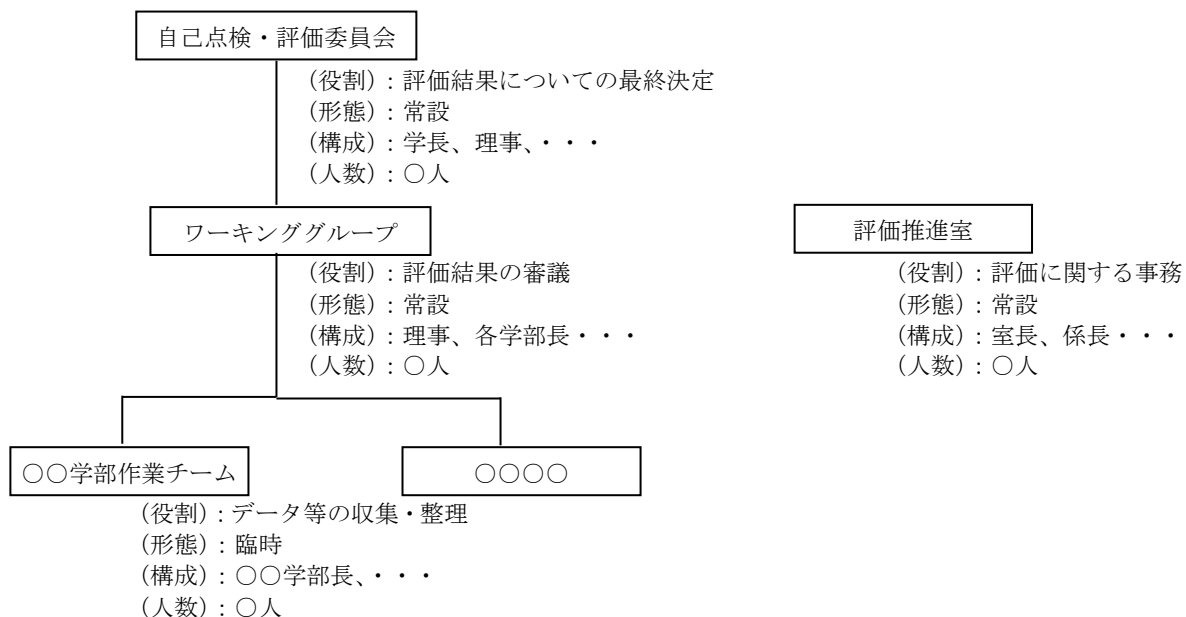
回答欄

8. 評価の実施体制について

貴校の評価の実施体制についてお教えてください。今後の当機構の評価を、より効果的なものとするために参考とさせていただきます。

・評価（自己点検・評価、認証評価等）を行うための実施体制について、その組織名称、役割、設置形態（常設・臨時）、人数構成等をお教えてください。「例」を適宜参考にし、わかりやすくご記入ください。（以下の「例」は削除して結構です。）既存の資料がありましたら、それを添付していただいて結構です。

（記入例）



他に具体的な説明等がありましたら以下にご記入ください。

・評価の実施体制について、貴校が行っている方策・工夫等がありましたらお教えてください。また、その方策・工夫等について良かった点、悪かった点等、その他ご感想についても併せてお教えてください。

9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について

前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問にお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、5又は4とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

--

- ② 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

--

- ③ 前回の認証評価を受けたことにより、貴校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、5又は4とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

--

10. 前回と比較した当機構の認証評価プロセスについて

前回の認証評価を受けた時と比較して、当機構の認証評価プロセスが改善されたかどうかについて、以下の質問に可能な範囲でお答えください。

	非常に良く なっている (5)	どちらとも 言えない (3)	非常に悪く なっている (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するためにより適切なものとなった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった -----	5	4	3	2	1	
③ 訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑤ 評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった ----	5	4	3	2	1	
⑥ 説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑦ 評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑧ 貴校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった -----	5	4	3	2	1	
⑨ 評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑩ 自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった -----	5	4	3	2	1	
⑪ 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった -----	5	4	3	2	1	

- ・前頁の項目以外で良くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

- ・前頁の項目以外で悪くなっていると思う事項がありましたら、ご記入ください。

1 1. その他

- ・実際に評価を受けて期待どおりであったかについてご記入ください。

- ・その他、当機構の行う評価についてご意見等がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

平成29年度実施認証評価に関する検証のためのアンケート

ご氏名

今回、当機構の評価に携わっていただき、どのように感じられたか、以下の1～7の項目について、それぞれの質問にご回答くださるようお願いいたします。

回答様式には、選択式のものと記述式のものがあります。選択式の回答については、該当する番号に○を付けるか、右端の空欄に数字をご記入ください。なお、質問事項に該当する事例がなかった場合等、回答できない場合については、回答欄に「－」とご記入ください（下記参照）。また、記述式の回答について、枠内に書ききれない場合には、枠を広げたり、別の紙を使用したりするなどしてご記入ください。特にご意見・ご感想がない場合には空欄のままで結構です。

いただいた回答は、選択式のものについては、原則として統計的に処理した上で、また記述式のものについては、ご氏名を伏せた上で、公表することといたします。

【回答例】

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
回答例① は、適切であった	5	4	3	2	1	3
回答例② は、適切であった	5	4	③	2	1	

(回答できない場合)

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
. は、適切であった	5	4	3	2	1	－

1. 評価基準及び観点について

当機構が設定した評価基準及び観点についてどのように思われましたか。評価の目的である教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、またそれ以外の特徴について、以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の質を保証するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
② 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するために適切であった -----	5	4	3	2	1	
③ 評価基準及び観点の構成や内容は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった -----	5	4	3	2	1	
④ 評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であった -----	5	4	3	2	1	
	ある		ない			
⑤ 評価しにくい評価基準又は観点があった -----	2		1			

→※⑤について、2 とご回答いただいた場合、どの評価基準又は観点が評価しにくかったかを理由も含めて具体的にご記入ください。

--

	ある	ない	
⑥ 内容が重複する評価基準又は観点があった -----	2	1	

→※⑥について、2 とご回答いただいた場合、重複していると思われる評価基準又は観点について理由も含めて具体的にご記入ください。

--

・評価基準及び観点についてご意見、ご感想等をご記入ください。

2. 評価の方法及び内容・結果について

評価の方法及び内容・結果について（１）自己評価書、（２）書面調査、（３）訪問調査、（４）評価結果の４項目に分けて質問しますので、それぞれお答えください。

(1) 自己評価書について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

--

- ② 自己評価書には評価基準及び観点の内容が適切に記述されていた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ③ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

--

・自己評価書の様式についてご意見、ご感想等をご記入ください（特に対象校に事前に伝えたい点、様式上の事項として不足のあった点等があればお聞かせください）。

(2) 書面調査について

強く どちらとも 全くそう
そう思う ← 言えない → 思わない
(5) (3) (1)

- ① 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

--

- ② 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

--

・書面調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(3) 訪問調査について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ② 訪問調査によって不明な点を十分に確認することができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が確認できなかったかをご記入ください。

--

- ③ 訪問調査の実施内容として、高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容を設けたことがどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

- ④ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）の方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※④について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の方法がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

- ⑤ 訪問調査の実施内容（高等専門学校関係者（責任者）面談や一般教員等との面談、教育現場の視察及び学習環境の状況調査、学生・卒業生等との面談）に係る時間配分は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑤について、2又は1とご回答いただいた場合、どの実施内容の時間配分がどういう理由で適切でなかったかをご記入ください。

--

- ⑥ 訪問調査では、対象校と、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ⑦ 訪問調査時の機構の評価担当者（事務担当者を除く）の人数や構成は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような人数や構成が適切であるかをご記入ください。

--

- ⑧ 訪問調査における機構の事務担当者の対応は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・訪問調査についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(4) 評価結果について

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 自らが担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された -

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 基準1から基準11の評価で、基準を満たしているかどうかの判断を示すという方法は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 評価結果全体としての分量は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

④ 評価報告書の最初に、全体の評価結果と併せて対象校の「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を記述するという形式は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価結果についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

3. 研修について

機構が実施する研修について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)		
① 研修の配付資料は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1	
② 研修の説明内容は理解しやすかった -----	5	4	3	2 1	
③ 研修の内容は役立った -----	5	4	3	2 1	
④ 自己評価書のサンプルの提示は役立った -----	5	4	3	2 1	
⑤ 研修に費やした時間の長さは適切であった -----	5	4	3	2 1	

・ 研修についてご意見、ご感想等をご記入ください。

4. 評価の作業量、スケジュール等について

評価の作業に関して、(1) 評価に費やした作業量、(2) 機構が設定した作業期間、(3) 評価作業に費やした労力、(4) 評価作業にかかった時間数の4項目に分けて質問しますのでそれぞれお答えください。

(1) 評価に費やした作業量について

		＜作業量＞				
		とても 大きい (5)	← 適当 (3)	→ 小さい (1)		
①	自己評価書の書面調査	5	4	3	2	1
②	訪問調査への参加	5	4	3	2	1
③	評価結果（原案）の作成	5	4	3	2	1

・評価に費やした作業量についてご意見、ご感想等をご記入ください。

①～③について、5とご回答いただいた場合、具体的にどのような作業において作業量が大きかったかをご記入ください。

(2) 機構が設定した作業期間は作業量に対して適当であったかについて

＜作業期間＞					
とても 長い ← 適当 → 短い					
(5) (3) (1)					
① 自己評価書の書面調査 -----	5	4	3	2	1
② 訪問調査への参加 -----	5	4	3	2	1
③ 評価結果（原案）の作成 -----	5	4	3	2	1

・ 機構が設定した作業期間についてご意見、ご感想等をご記入ください。

(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

① 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の質の保証という目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

② 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等の改善を促進するという目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

③ 評価作業に費やした労力は、対象校の教育研究活動等について社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

・評価作業に費やした労力についてご意見、ご感想等をご記入ください。

--

(4) 評価作業にかかった時間数について

評価作業にかかったのべ時間数（部会、訪問調査への出席を除く）について、以下の項目ごとに最も近い時間数に該当する番号を選択してください。

※1校あたりではなく、全体でかかった時間をご回答ください。

	～30 時間	30-50 時間	50-70 時間	70-100 時間	100 時間～	
① 書面調査	5	4	3	2	1	
	～5 時間	5-10 時間	10-20 時間	20-30 時間	30 時間～	
② 訪問調査の準備	5	4	3	2	1	
	～5 時間	5-10 時間	10-20 時間	20-30 時間	30 時間～	
③ 評価結果報告書の原案作成	5	4	3	2	1	

・評価作業にかかった時間数についてご意見、ご感想等をご記入ください。

5. 評価部会等の運営について

評価部会、専門部会の人数や構成、運営について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)			
① 評価部会、あるいは専門部会の委員の人数や構成は適切であった -----	5	4	3	2	1	
② 部会運営は円滑であった -----	5	4	3	2	1	

・評価部会等の運営についてご意見、ご感想等をご記入ください。

6. 評価全般について

評価を行ったことによる効果・影響等、評価全般について以下の質問にお答えください。

	強く そう思う (5)	どちらとも ←言えない (3)	全くそう →思わない (1)		
① 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の質が保証されると思う -----	5	4	3	2 1	
② 今回の評価によって対象校の教育研究活動等の改善が促進されると思う ----	5	4	3	2 1	
③ 今回の評価によって社会の理解と支持が支援・促進されると思う -----	5	4	3	2 1	
④ 自己の専門知識・能力を評価作業・評価結果に活かすことができた -----	5	4	3	2 1	
⑤ 今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	5	4	3	2 1	
⑥ 総じて機構の認証評価を経験できてよかった -----	5	4	3	2 1	

・評価全般（評価に携わっていただいて感じたことも含め）についてご意見、ご感想等をご記入ください。

7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について

前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について、評価の目的である、教育研究活動等の「質の保証」、「改善の促進」、「社会からの理解と支持」という目的に照らして、以下の質問に可能な範囲でお答えください。

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ① 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※①について、5又は4とご回答いただいた場合、質の保証にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

--

- ② 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※②について、5又は4とご回答いただいた場合、改善の促進にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

--

- ③ 今回評価をご担当された対象校について、前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった --

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※③について、5又は4とご回答いただいた場合、社会からの理解と支持にどのような効果・影響があったか、具体的な内容をご記入ください。

--

ご協力ありがとうございました。

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果【対象校】

※回答割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)の関係で合計が100%にならない場合がある。

【1. 評価基準及び観点について】

1. 評価基準及び観点について

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5	4	3	2	1	回答数	平均
1-①	教育研究活動等の質を保証するために適切であった	1巡目	25%	70%	5%	0%	60	4.20
		2巡目	29%	66%	5%	0%	59	4.24

教育研究活動等の質を保証するために適切であった

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5	4	3	2	1	回答数	平均
1-②	教育研究活動等の改善を促進するために適切であった	1巡目	27%	60%	13%	0%	60	4.13
		2巡目	32%	61%	7%	0%	59	4.25

教育研究活動等の改善を促進するために適切であった

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5	4	3	2	1	回答数	平均
1-③	教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった	1巡目	20%	57%	22%	2%	60	3.95
		2巡目	20%	56%	24%	0%	59	3.97

教育研究活動等について社会から理解と支持を得るために適切であった

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

		5	4	3	2	1	回答数	平均
1-④	教育活動を中心に設定していることは適切であった	1巡目	37%	58%	3%	2%	60	4.30
		2巡目	40%	55%	5%	0%	58	4.34

教育活動を中心に設定していることは適切であった

【H19～集計】1: ない～2: ある

		1	2	回答数	平均		
1-⑤	自己評価しにくい評価基準又は観点があった ※平成17～18年度は5段階評価となっているため、除外して合計を算出	1巡目		67%	33%	24	1.33
		2巡目		69%	31%	59	1.31

自己評価しにくい評価基準又は観点があった

【H18～新設】1: ない～2: ある

		1	2	回答数	平均		
1-⑥	内容が重複する評価基準又は観点があった	1巡目		79%	21%	42	1.21
		2巡目		91%	9%	58	1.09

内容が重複する評価基準又は観点があった

【2. 評価の方法及び内容について】

【(1) 自己評価について】

		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない									
		5	4	3	2	1	回答数	平均			
2-(1)-①	評価基準及び観点到に基づき、適切に自己評価を行うことができた	1巡目	27%	65%	8%	0%	60	4.18	評価基準及び観点到に基づき、適切に自己評価を行うことができた 	1巡目 27% 65% 8% 2巡目 24% 61% 14% 2%	
		2巡目	24%	61%	14%	2%	59	4.07			
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない									
		5	4	3	2	1	回答数	平均			
2-(1)-②	自己評価書の添付資料は既に蓄積していたもので十分対応することができた	1巡目	3%	42%	30%	20%	60	3.18	自己評価書の添付資料は既に蓄積していたもので十分対応することができた 	1巡目 3% 42% 30% 20% 5% 2巡目 5% 41% 39% 15%	
		2巡目	5%	41%	39%	15%	59	3.36			
		【H20～集計】1: 迷っていない～2: 迷った									
		1	2	回答数	平均						
2-(1)-③	自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った	1巡目		50%	50%	4	1.50	自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った 	1巡目 50% 50% 2巡目 53% 47%		
		2巡目		53%	47%	59	1.47				

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない



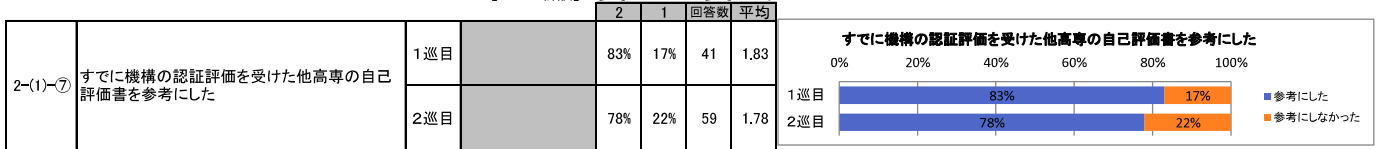
5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない



5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない



【H18～新設】2: 参考にした～1: 参考にしなかった



〔(2)訪問調査等について〕

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない



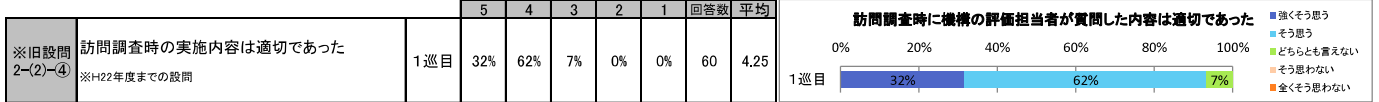
5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない



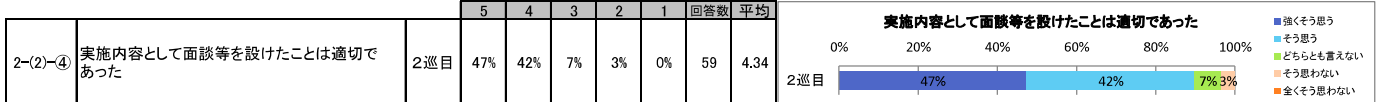
5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない



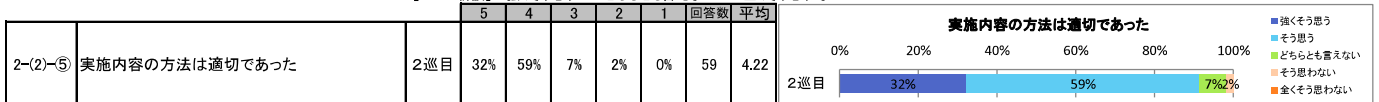
5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない



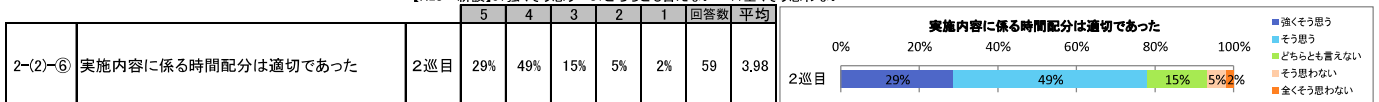
【H23～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない



【H23～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない



【H23～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない



		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
		5	4	3	2	1	回答数	平均		
2-(2)-⑦	訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた	1巡目	33%	53%	13%	0%	0%	60	4.20	訪問調査では、機構の評価担当者との間で、教育研究活動等の状況に関する共通理解を得ることができた
		2巡目	29%	56%	12%	3%	0%	59	4.10	
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
		5	4	3	2	1	回答数	平均		
2-(2)-⑧ ※旧設問 2-(2)-⑥	訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった	1巡目	35%	45%	20%	0%	0%	60	4.15	訪問調査時の機構の評価担当者の人数や構成は適切であった
		2巡目	36%	51%	12%	2%	0%	59	4.20	
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
		5	4	3	2	1	回答数	平均		
2-(2)-⑨ ※旧設問 2-(2)-⑦	訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う	1巡目	34%	48%	17%	0%	0%	58	4.17	訪問調査時の機構の評価担当者は十分に研修を受けていたと思う
		2巡目	43%	41%	16%	0%	0%	58	4.28	

[(3)意見の申立てについて]

		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
		5	4	3	2	1	回答数	平均		
2-(3)-①	意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった	1巡目	36%	41%	22%	0%	0%	58	4.14	意見の申立ての実施方法及びスケジュールは適切であった
		2巡目	46%	42%	12%	0%	0%	57	4.33	

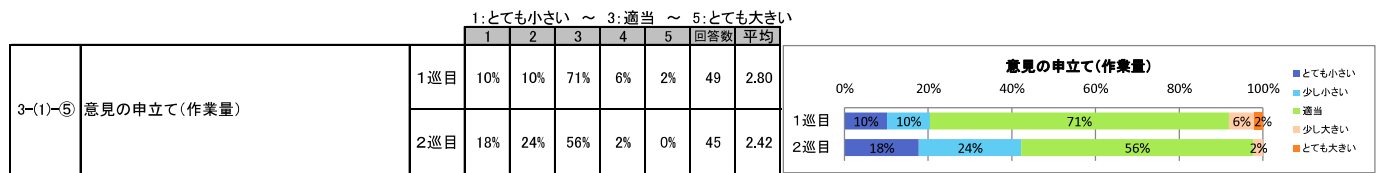
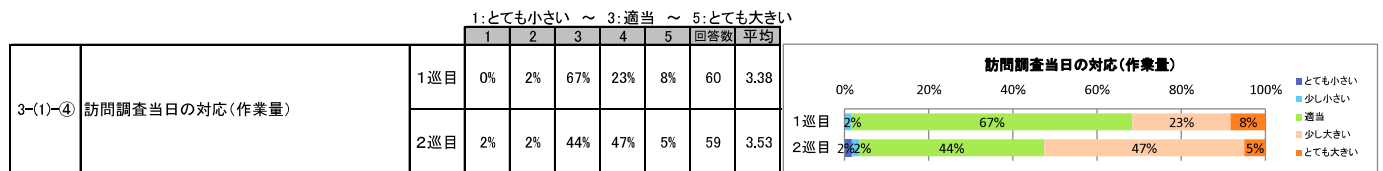
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
		5	4	3	2	1	回答数	平均		
2-(3)-②	「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載するとしたことは適切であった	1巡目	27%	39%	35%	0%	0%	49	3.92	「意見の申立ての内容及びその対応」を評価報告書に掲載するとしたことは適切であった
		2巡目	38%	40%	19%	4%	0%	53	4.11	

		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
		5	4	3	2	1	回答数	平均		
2-(3)-③	意見の申立てに対する機構の対応は適切であった(意見の申立てを行った対象校のみ)	1巡目	10%	25%	60%	5%	0%	20	3.40	意見の申立てに対する機構の対応は適切であった (意見の申立てを行った対象校のみ)
		2巡目	50%	50%	0%	0%	0%	2	4.50	

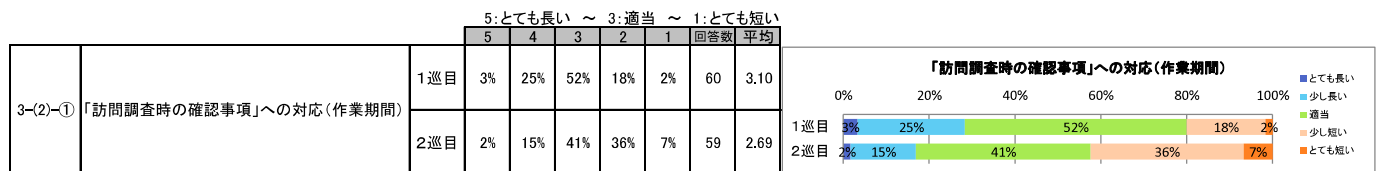
【3. 評価の作業量、スケジュール等について】

[(1)評価に費やした作業量について]※本項目は平均点が高くなるほど評価が低い

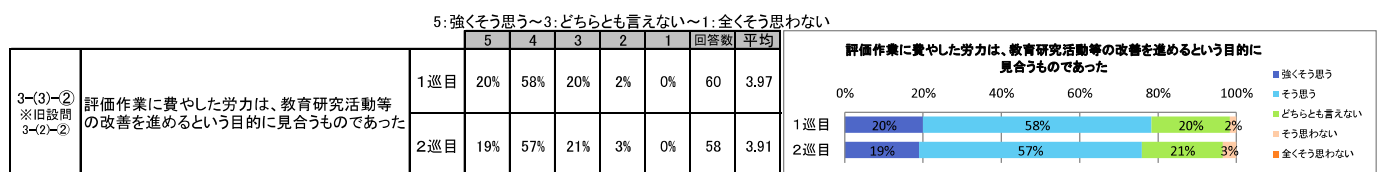
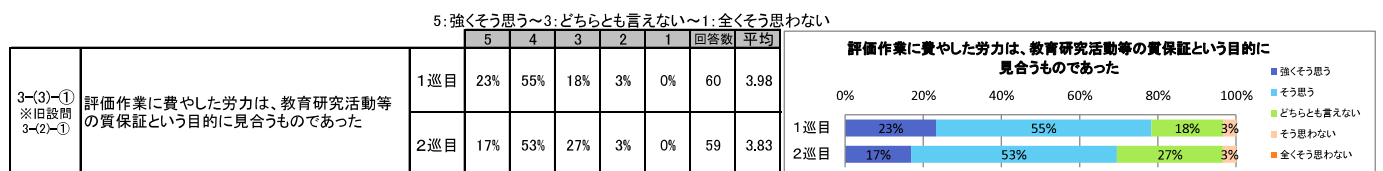
		1: とても小さい ～ 3: 適当 ～ 5: とても大きい								
		1	2	3	4	5	回答数	平均		
3-(1)-①	自己評価書の作成(作業量)	1巡目	0%	0%	12%	25%	63%	60	4.52	自己評価書の作成(作業量)
		2巡目	0%	0%	3%	47%	49%	59	4.46	
		1: とても小さい ～ 3: 適当 ～ 5: とても大きい								
		1	2	3	4	5	回答数	平均		
3-(1)-②	「訪問調査時の確認事項」への対応(作業量)	1巡目	0%	0%	38%	48%	13%	60	3.75	「訪問調査時の確認事項」への対応(作業量)
		2巡目	0%	2%	15%	64%	19%	59	4.00	
		1: とても小さい ～ 3: 適当 ～ 5: とても大きい								
		1	2	3	4	5	回答数	平均		
3-(1)-③	訪問調査のための事前準備(作業量)	1巡目	0%	0%	43%	53%	3%	60	3.60	訪問調査のための事前準備(作業量)
		2巡目	0%	0%	32%	59%	8%	59	3.76	



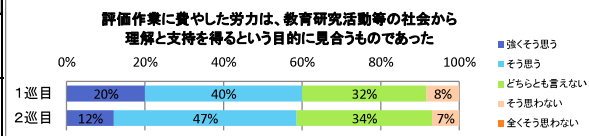
〔(2)機構が設定した作業期間について〕



〔(3)評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて〕

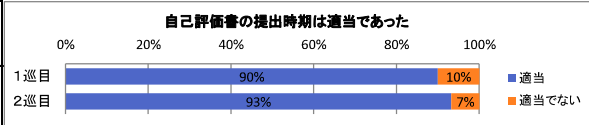


		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない							
		5	4	3	2	1	回答数	平均	
3-(3)-③ ※旧設問 3-2-③	評価作業に費やした労力は、教育研究活動等の社会から理解と支持を得るという目的に見合うものであった	1巡目	20%	40%	32%	8%	0%	60	3.72
		2巡目	12%	47%	34%	7%	0%	58	3.64



〔4〕評価のスケジュールについて

		2: 適当～1: 適当でない					
		2	1	回答数	平均		
3-(4)-① ※旧設問 3-(3)-①	自己評価書の提出時期は適当であった	1巡目	90%	10%	60	1.90	自己評価書の提出時期は適当であった 0%20%40%60%80%100% 1巡目90%10%2巡目93%7% ■ 適当 ■ 適当でない
		2巡目	93%	7%	59	1.93	



		2: 適当～1: 適当でない					
		2	1	回答数	平均		
3-(4)-② ※旧設問 3-(3)-②	訪問調査の実施時期は適当であった	1巡目		100%	0%	60	2.00
	2巡目		93%	7%	59	1.93	

訪問調査の実施時期は適当であった

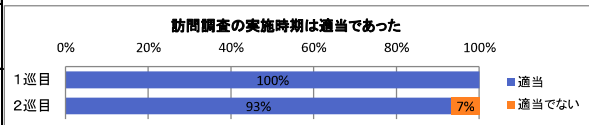
0% 20% 40% 60% 80% 100%

1巡目 100%

2巡目 93% 7%

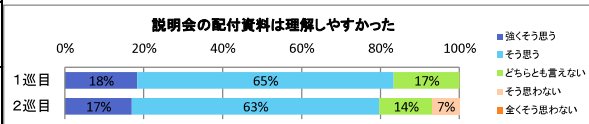
■ 適当

■ 適当でない

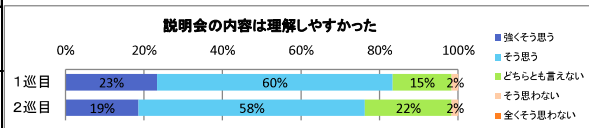


【4. 説明会・研修会等について】

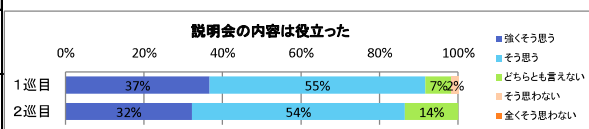
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない							
		5	4	3	2	1	回答数	平均	
4-①	説明会の配付資料は理解しやすかった	1巡目	18%	65%	17%	0%	0%	60	4.02
		2巡目	17%	63%	14%	7%	0%	59	3.90



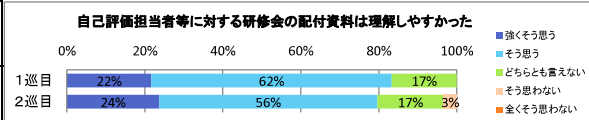
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない							
		5	4	3	2	1	回答数	平均	
4-②	説明会の内容は理解しやすかった	1巡目	23%	60%	15%	2%	0%	60	4.05
		2巡目	19%	58%	22%	2%	0%	59	3.93



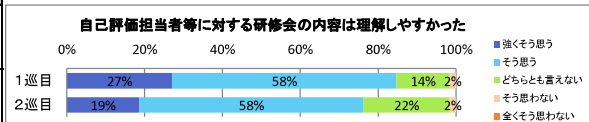
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない							
		5	4	3	2	1	回答数	平均	
4-③	説明会の内容は役立った	1巡目	37%	55%	7%	2%	0%	60	4.27
		2巡目	32%	54%	14%	0%	0%	59	4.19



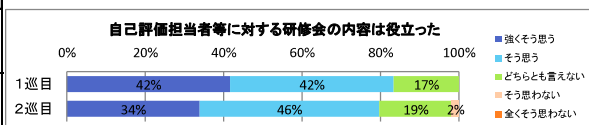
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない							
		5	4	3	2	1	回答数	平均	
4-④	自己評価担当者等に対する研修会の配付資料は理解しやすかった	1巡目	22%	62%	17%	0%	0%	60	4.05
		2巡目	24%	56%	17%	3%	0%	59	4.00



		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない							
		5	4	3	2	1	回答数	平均	
4-⑤	自己評価担当者等に対する研修会の内容は理解しやすかった	1巡目	27%	58%	14%	2%	0%	59	4.10
		2巡目	19%	58%	22%	2%	0%	59	3.93



		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全く思わない							
		5	4	3	2	1	回答数	平均	
4-⑥	自己評価担当者等に対する研修会の内容は役立った	1巡目	42%	42%	17%	0%	0%	60	4.25
		2巡目	34%	46%	19%	2%	0%	59	4.12

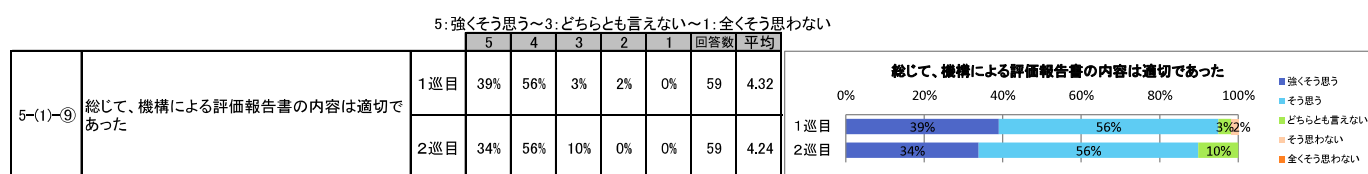
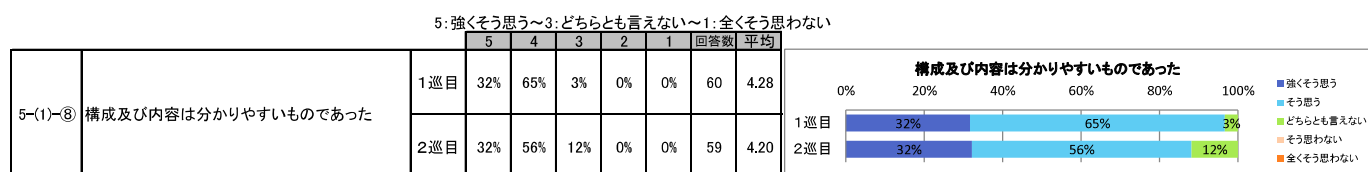


		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
		5	4	3	2	1	回答数	平均		
4-⑦	機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った	1巡目	45%	47%	8%	0%	0%	60	4.37	機構が配付している自己評価実施要項等の冊子は役立った 0% 20% 40% 60% 80% 100% 1巡目 45% 47% 8% 2巡目 31% 61% 8% ■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない ■ 全くそう思わない
		2巡目	31%	61%	8%	0%	0%	59	4.22	
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
		5	4	3	2	1	回答数	平均		
4-⑧	機構が行った訪問説明は役立った	1巡目	45%	47%	8%	0%	0%	60	4.37	機構が行った訪問説明は役立った 0% 20% 40% 60% 80% 100% 1巡目 45% 47% 8% 2巡目 31% 61% 8% ■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない ■ 全くそう思わない
		2巡目	31%	61%	8%	0%	0%	59	4.22	
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
		5	4	3	2	1	回答数	平均		
4-⑨	説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応）は適切であった	1巡目	45%	48%	7%	0%	0%	60	4.38	説明会、研修会等における機構の事務担当者の対応（質問等に対する対応）は適切であった 0% 20% 40% 60% 80% 100% 1巡目 45% 48% 7% 2巡目 29% 55% 16% ■ 強く思う ■ そう思う ■ どちらとも言えない ■ そう思わない ■ 全くそう思わない
		2巡目	29%	55%	16%	0%	0%	58	4.14	

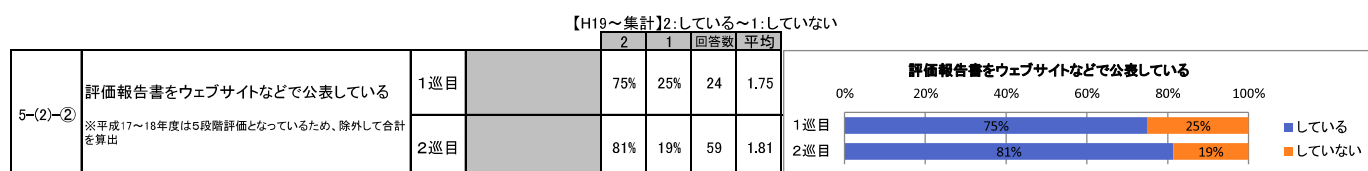
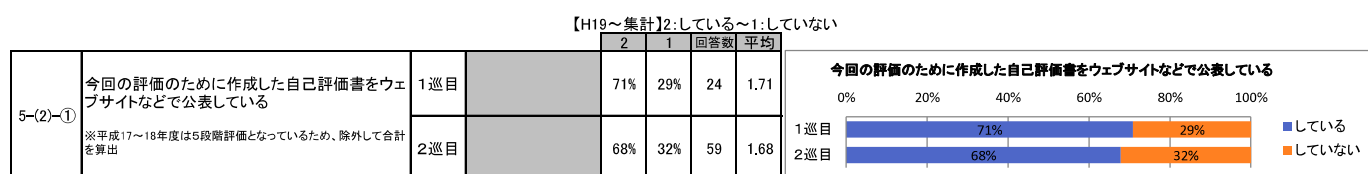
【5. 評価結果(評価報告書)について】

〔1〕評価報告書の内容等について〕

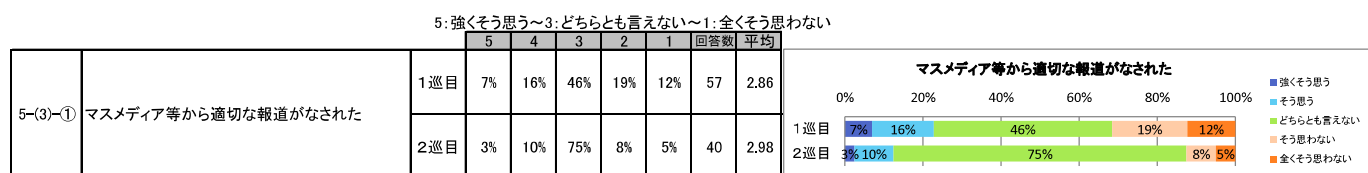
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない																																	
		5	4	3	2	1	回答数	平均																											
5-(1)-①	教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった	1巡目	33%	55%	12%	0%	0%	60	4.22	教育研究活動等の質の保証をするために十分なものであった <table><tr><td>強く思う</td><td>33%</td><td>55%</td><td>12%</td><td>8%</td></tr><tr><td>そう思う</td><td>29%</td><td>63%</td><td>6%</td><td>8%</td></tr><tr><td>どちらとも言えない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>そう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>全くそう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	強く思う	33%	55%	12%	8%	そう思う	29%	63%	6%	8%	どちらとも言えない					そう思わない					全くそう思わない				
		強く思う	33%	55%	12%	8%																													
		そう思う	29%	63%	6%	8%																													
どちらとも言えない																																			
そう思わない																																			
全くそう思わない																																			
2巡目	29%	63%	8%	0%	0%	59	4.20																												
		5	4	3	2	1	回答数	平均																											
5-(1)-②	教育研究活動等の改善に役立つものであった	1巡目	33%	58%	8%	0%	0%	60	4.25	教育研究活動等の改善に役立つものであった <table><tr><td>強く思う</td><td>33%</td><td>58%</td><td>8%</td><td></td></tr><tr><td>そう思う</td><td>27%</td><td>58%</td><td>15%</td><td>15%</td></tr><tr><td>どちらとも言えない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>そう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>全くそう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	強く思う	33%	58%	8%		そう思う	27%	58%	15%	15%	どちらとも言えない					そう思わない					全くそう思わない				
		強く思う	33%	58%	8%																														
		そう思う	27%	58%	15%	15%																													
どちらとも言えない																																			
そう思わない																																			
全くそう思わない																																			
2巡目	27%	58%	15%	0%	0%	59	4.12																												
		5	4	3	2	1	回答数	平均																											
5-(1)-③	教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった	1巡目	20%	52%	23%	5%	0%	60	3.87	教育研究活動等について社会の理解と支持を得ることを支援・促進するものであった <table><tr><td>強く思う</td><td>20%</td><td>52%</td><td>23%</td><td>5%</td></tr><tr><td>そう思う</td><td>17%</td><td>50%</td><td>33%</td><td>33%</td></tr><tr><td>どちらとも言えない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>そう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>全くそう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	強く思う	20%	52%	23%	5%	そう思う	17%	50%	33%	33%	どちらとも言えない					そう思わない					全くそう思わない				
		強く思う	20%	52%	23%	5%																													
		そう思う	17%	50%	33%	33%																													
どちらとも言えない																																			
そう思わない																																			
全くそう思わない																																			
2巡目	17%	50%	33%	0%	0%	58	3.84																												
		5	4	3	2	1	回答数	平均																											
5-(1)-④	目的に照らし適切なものであった	1巡目	30%	60%	8%	2%	0%	60	4.18	目的に照らし適切なものであった <table><tr><td>強く思う</td><td>30%</td><td>60%</td><td>8%</td><td>2%</td></tr><tr><td>そう思う</td><td>29%</td><td>61%</td><td>10%</td><td>10%</td></tr><tr><td>どちらとも言えない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>そう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>全くそう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	強く思う	30%	60%	8%	2%	そう思う	29%	61%	10%	10%	どちらとも言えない					そう思わない					全くそう思わない				
		強く思う	30%	60%	8%	2%																													
		そう思う	29%	61%	10%	10%																													
どちらとも言えない																																			
そう思わない																																			
全くそう思わない																																			
2巡目	29%	61%	10%	0%	0%	59	4.19																												
		5	4	3	2	1	回答数	平均																											
5-(1)-⑤	実態に即したものであった	1巡目	35%	55%	8%	2%	0%	60	4.23	実態に即したものであった <table><tr><td>強く思う</td><td>35%</td><td>55%</td><td>8%</td><td>2%</td></tr><tr><td>そう思う</td><td>37%</td><td>59%</td><td>3%</td><td>3%</td></tr><tr><td>どちらとも言えない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>そう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>全くそう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	強く思う	35%	55%	8%	2%	そう思う	37%	59%	3%	3%	どちらとも言えない					そう思わない					全くそう思わない				
		強く思う	35%	55%	8%	2%																													
		そう思う	37%	59%	3%	3%																													
どちらとも言えない																																			
そう思わない																																			
全くそう思わない																																			
2巡目	37%	59%	3%	0%	0%	59	4.34																												
		5	4	3	2	1	回答数	平均																											
5-(1)-⑥	規模等を考慮したものであった	1巡目	28%	50%	20%	2%	0%	60	4.05	規模等を考慮したものであった <table><tr><td>強く思う</td><td>28%</td><td>50%</td><td>20%</td><td>2%</td></tr><tr><td>そう思う</td><td>27%</td><td>54%</td><td>17%</td><td>2%</td></tr><tr><td>どちらとも言えない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>そう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>全くそう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	強く思う	28%	50%	20%	2%	そう思う	27%	54%	17%	2%	どちらとも言えない					そう思わない					全くそう思わない				
		強く思う	28%	50%	20%	2%																													
		そう思う	27%	54%	17%	2%																													
どちらとも言えない																																			
そう思わない																																			
全くそう思わない																																			
2巡目	27%	54%	17%	2%	0%	59	4.07																												
		5	4	3	2	1	回答数	平均																											
5-(1)-⑦	教育研究活動等に関して新たな視点が得られた	1巡目	27%	47%	25%	2%	0%	60	3.98	教育研究活動等に関して新たな視点が得られた <table><tr><td>強く思う</td><td>27%</td><td>47%</td><td>25%</td><td>2%</td></tr><tr><td>そう思う</td><td>14%</td><td>49%</td><td>34%</td><td>3%</td></tr><tr><td>どちらとも言えない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>そう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>全くそう思わない</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	強く思う	27%	47%	25%	2%	そう思う	14%	49%	34%	3%	どちらとも言えない					そう思わない					全くそう思わない				
		強く思う	27%	47%	25%	2%																													
		そう思う	14%	49%	34%	3%																													
どちらとも言えない																																			
そう思わない																																			
全くそう思わない																																			
2巡目	14%	49%	34%	3%	0%	59	3.73																												



〔(2) 自己評価書及び評価報告書の公表について〕

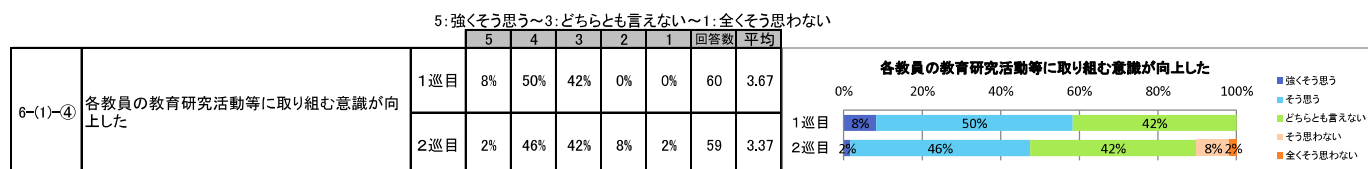
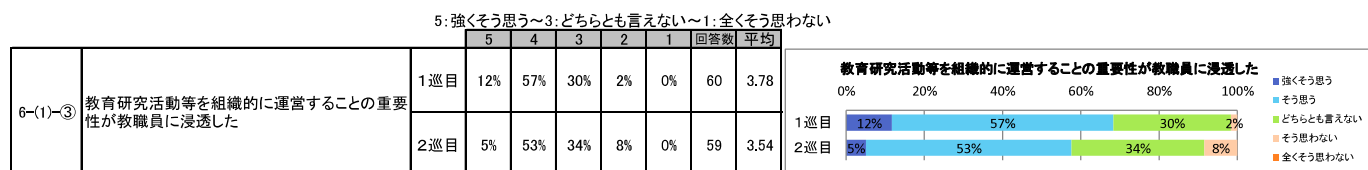
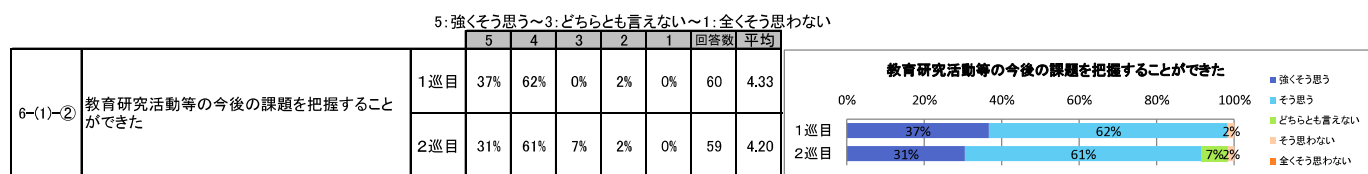
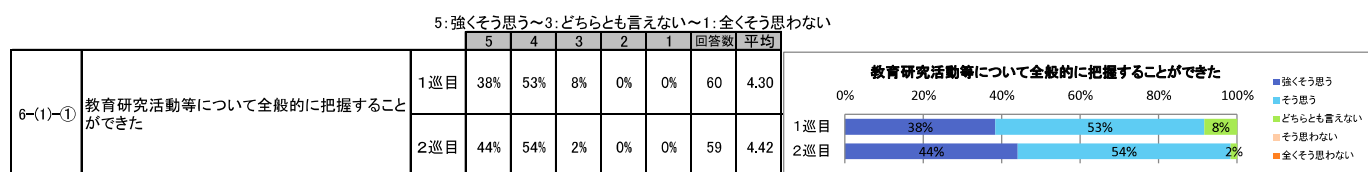


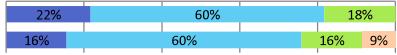
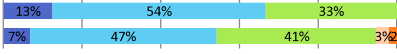
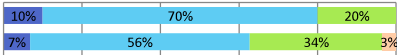
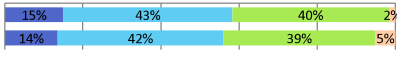
〔(3) 評価結果に関するマスメディア等の報道について〕



【6. 評価を行ったことによる効果・影響】

〔(1) 自己評価を行ったことによる効果・影響について〕



		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない									
		5	4	3	2	1	回答数	平均			
6-(1)-⑤	教育研究活動等の改善を促進した	1巡目	22%	60%	18%	0%	0%	60	4.03	1巡目 2巡目	教育研究活動等の改善を促進した 
		2巡目	16%	60%	16%	9%	0%	58	3.83		
【H19～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない											
		5	4	3	2	1	回答数	平均			
6-(1)-⑥	将来計画の策定に役立った	1巡目	13%	54%	33%	0%	0%	24	3.79	1巡目 2巡目	将来計画の策定に役立った 
		2巡目	7%	47%	41%	3%	2%	59	3.54		
5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない											
		5	4	3	2	1	回答数	平均			
6-(1)-⑦	学校全体のマネジメントの改善を促進した	1巡目	10%	70%	20%	0%	0%	60	3.90	1巡目 2巡目	学校全体のマネジメントの改善を促進した 
		2巡目	7%	56%	34%	3%	0%	59	3.66		
5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない											
		5	4	3	2	1	回答数	平均			
6-(1)-⑧	個性的な取組を促進した	1巡目	15%	43%	40%	2%	0%	60	3.72	1巡目 2巡目	個性的な取組を促進した 
		2巡目	14%	42%	39%	5%	0%	59	3.64		
5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない											
		5	4	3	2	1	回答数	平均			
6-(1)-⑨	自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した	1巡目	12%	53%	35%	0%	0%	60	3.77	1巡目 2巡目	自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透した 
		2巡目	8%	49%	36%	7%	0%	59	3.59		
【H19～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない											
		5	4	3	2	1	回答数	平均			
6-(1)-⑩	評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した	1巡目	13%	54%	33%	0%	0%	24	3.79	1巡目 2巡目	評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上した 
		2巡目	8%	59%	31%	2%	0%	59	3.75		

〔(2) 機構の評価結果を受けたことによる効果・影響について〕

		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
		5	4	3	2	1	回答数	平均		
6-(2)-①	教育研究活動等について全般的に把握することができる	1巡目	28%	62%	10%	0%	0%	60	4.18	教育研究活動等について全般的に把握することができる
		2巡目	36%	61%	2%	2%	0%	59	4.31	
5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない										
		5	4	3	2	1	回答数	平均		
6-(2)-②	教育研究活動等の今後の課題を把握することができる	1巡目	28%	67%	5%	0%	0%	60	4.23	教育研究活動等の今後の課題を把握することができる
		2巡目	31%	61%	5%	3%	0%	59	4.19	
5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない										
		5	4	3	2	1	回答数	平均		
6-(2)-③	教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する	1巡目	18%	55%	25%	2%	0%	60	3.90	教育研究活動等を組織的に運営することの重要性が教職員に浸透する
		2巡目	12%	56%	25%	7%	0%	59	3.73	
5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない										
		5	4	3	2	1	回答数	平均		
6-(2)-④	各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する	1巡目	12%	53%	33%	2%	0%	60	3.75	各教員の教育研究活動等に取り組む意識が向上する
		2巡目	8%	42%	39%	10%	0%	59	3.49	

		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
6-(2)-⑤	教育研究活動等の改善を促進する	1巡目	25%	62%	13%	0%	0%	60	4.12	教育研究活動等の改善を促進する
		2巡目	12%	64%	17%	7%	0%	58	3.81	
		【H19～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
6-(2)-⑥	将来計画の策定に役立つ	1巡目	17%	54%	29%	0%	0%	24	3.88	将来計画の策定に役立つ
		2巡目	15%	46%	34%	5%	0%	59	3.71	
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
6-(2)-⑦	学校全体のマネジメントの改善を促進する	1巡目	22%	65%	13%	0%	0%	60	4.08	学校全体のマネジメントの改善を促進する
		2巡目	14%	53%	31%	2%	0%	58	3.79	
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
6-(2)-⑧	個性的な取組を促進する	1巡目	23%	45%	28%	3%	0%	60	3.88	個性的な取組を促進する
		2巡目	19%	42%	36%	3%	0%	59	3.76	
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
6-(2)-⑨	自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する	1巡目	18%	53%	27%	2%	0%	60	3.88	自己評価を行うことの重要性が教職員に浸透する
		2巡目	8%	53%	31%	8%	0%	59	3.61	
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
6-(2)-⑩	教職員に評価結果の内容が浸透する	1巡目	17%	53%	28%	2%	0%	60	3.85	教職員に評価結果の内容が浸透する
		2巡目	12%	41%	39%	8%	0%	59	3.56	
		【H19～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
6-(2)-⑪	評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する	1巡目	13%	50%	38%	0%	0%	24	3.75	評価の考え方や評価方法に関する教職員の知識や技術が向上する
		2巡目	8%	59%	24%	8%	0%	59	3.68	
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
6-(2)-⑫	教育研究活動等の質が保証される	1巡目	30%	58%	12%	0%	0%	60	4.18	教育研究活動等の質が保証される
		2巡目	24%	61%	12%	3%	0%	59	4.05	
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
6-(2)-⑬	学生の理解と支持が得られる	1巡目	7%	52%	42%	0%	0%	60	3.65	学生の理解と支持が得られる
		2巡目	5%	39%	47%	8%	0%	59	3.41	
		5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない								
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
6-(2)-⑭	広く社会の理解と支持が得られる	1巡目	13%	48%	33%	5%	0%	60	3.70	広く社会の理解と支持が得られる
		2巡目	14%	47%	36%	3%	0%	58	3.71	

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
6-(2)-⑮	他高専の評価結果から優れた取組を参考にする	1 巡目	17%	58%	22%	3%	0%	60	3.88	他高専の評価結果から優れた取組を参考にする 1 巡目 17% 58% 22% 3% 2 巡目 5% 62% 33%
		2 巡目	5%	62%	33%	0%	0%	58	3.72	

※7、8は記述式回答のため、省略

【9. 前回の認証評価を受けたことによる効果・影響について】

【H23～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
9-①	前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	2 巡目	7%	38%	50%	5%	0%	58	3.47	前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった 2 巡目 7% 38% 50% 5%

【H23～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
9-②	前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	2 巡目	9%	47%	39%	5%	0%	57	3.60	前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった 2 巡目 9% 47% 39% 5%

【H23～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
9-③	前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	2 巡目	4%	13%	77%	5%	2%	56	3.11	前回の認証評価を受けたことにより、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった 2 巡目 4% 13% 77% 5% 2%

【10. 前回と比較した当機構の評価評価プロセスについて】

【H23～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
10-①	評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するために適切なものとなった	2 巡目	14%	48%	38%	0%	0%	56	3.77	前回と比較した当機構の評価評価プロセスについて 10-① 14% 48% 38%
10-②	評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった	2 巡目	5%	63%	30%	2%	0%	56	3.71	評価基準及び観点の構成や内容は、認証評価の目的を達成するために適切なものとなった 10-② 5% 63% 30% 2%
10-③	訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった	2 巡目	13%	57%	30%	0%	0%	56	3.82	評価基準及び観点に基づき、より適切な自己評価書を作成できるようになった 10-③ 13% 57% 30%
10-④	評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった	2 巡目	7%	18%	68%	7%	0%	57	3.25	訪問調査は、より適切な実施内容・実施体制で行われるようになった 10-④ 7% 18% 68% 7%
10-⑤	評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった	2 巡目	7%	32%	53%	9%	0%	57	3.37	評価に費やした作業量及び機構が設定した作業期間は、より適当なものとなった 10-⑤ 7% 32% 53% 9%
10-⑥	説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった	2 巡目	16%	56%	27%	0%	0%	55	3.89	評価作業に費やした労力は、認証評価の目的により見合うものとなった 10-⑥ 16% 56% 27%
10-⑦	評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった	2 巡目	11%	61%	28%	0%	0%	57	3.82	説明会・研修会等は、より理解しやすいもの、役立つものとなった 10-⑦ 11% 61% 28%
10-⑧	対象校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった	2 巡目	16%	36%	45%	2%	0%	55	3.67	評価報告書の内容等は、認証評価の目的により見合うものとなった 10-⑧ 16% 36% 45% 2%
10-⑨	評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった	2 巡目	2%	15%	77%	4%	2%	48	3.10	対象校が自己評価書及び評価報告書を積極的に公表するようになった 10-⑨ 2% 15% 77% 4% 2%
10-⑩	自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった	2 巡目	5%	40%	54%	0%	0%	57	3.51	評価結果に関するマスメディア等の報道は、より適切なものとなった 10-⑩ 5% 40% 54%
10-⑪	機構の評価結果を受けたことによる効果・影響は、より大きなものとなった	2 巡目	9%	42%	49%	0%	0%	57	3.60	自己評価を行ったことによる効果・影響は、より大きなものとなった 10-⑪ 9% 42% 49%

認証評価に関する検証のためのアンケート集計結果【評価担当者】

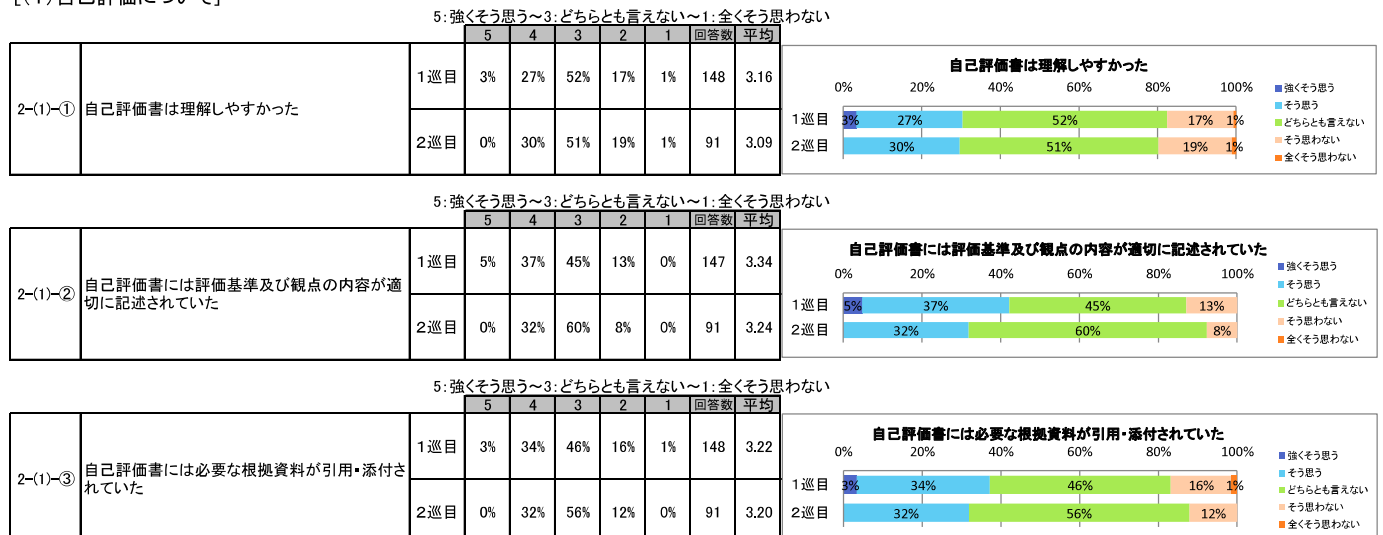
※回答割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)の関係で合計が100%にならない場合がある。

【1. 評価基準及び観点について】

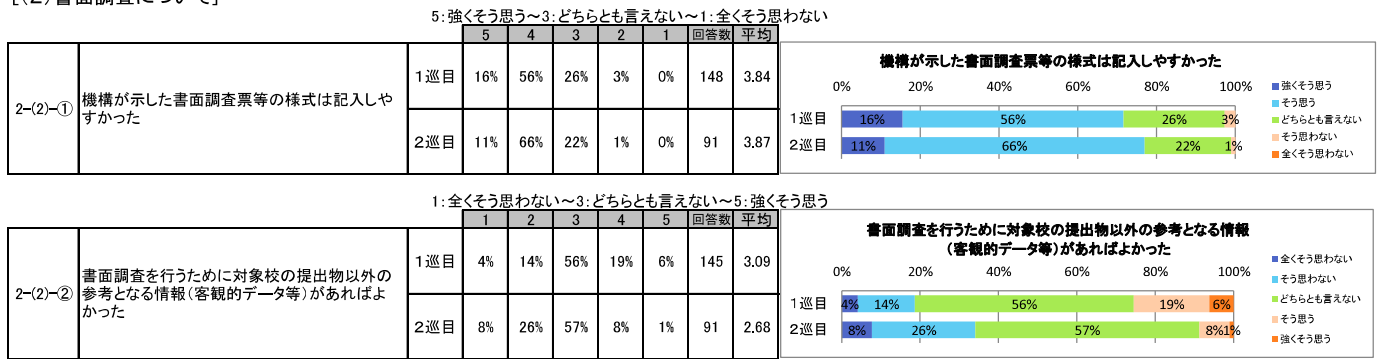


【2. 評価の方法及び内容について】

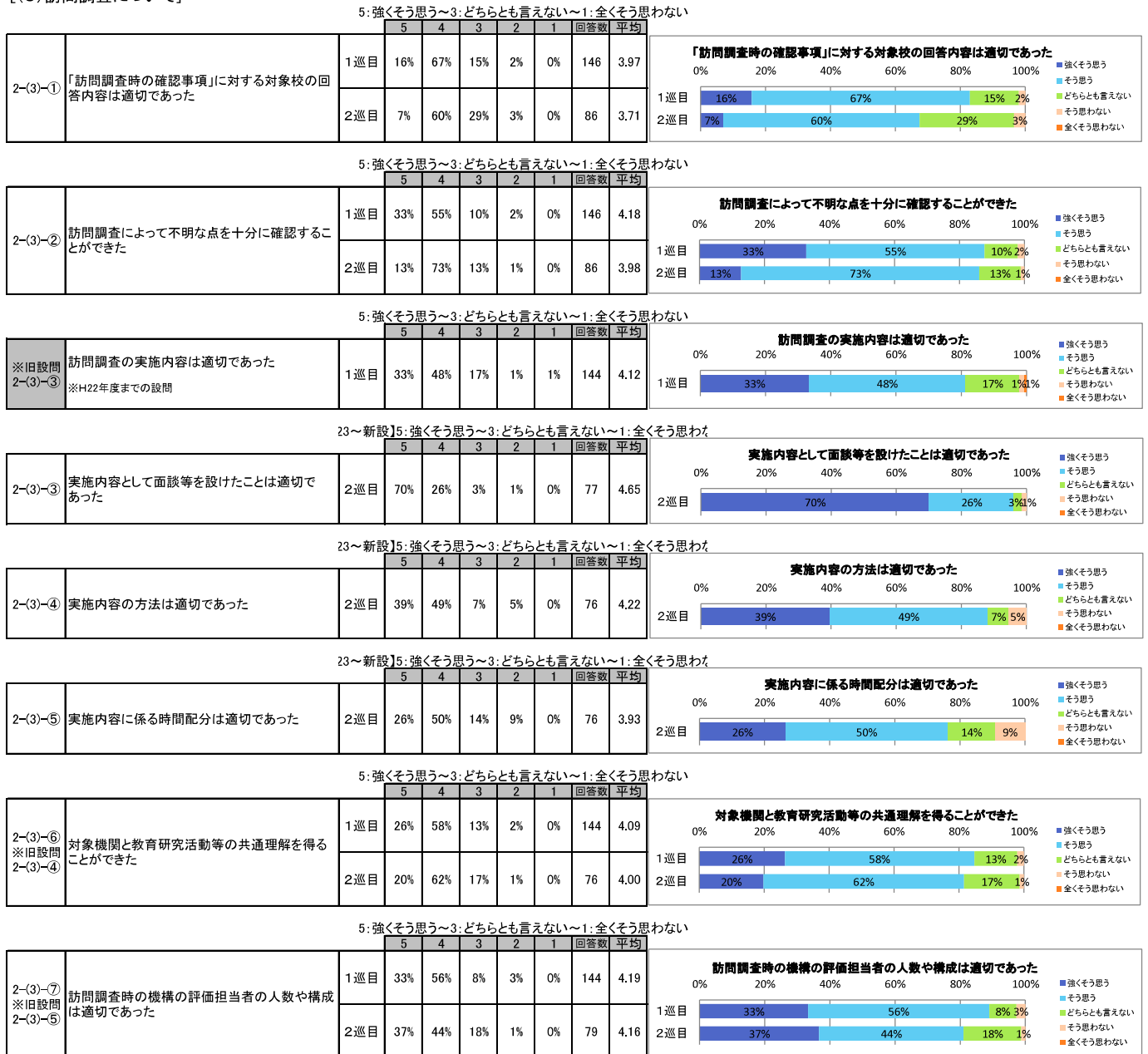
【(1) 自己評価について】

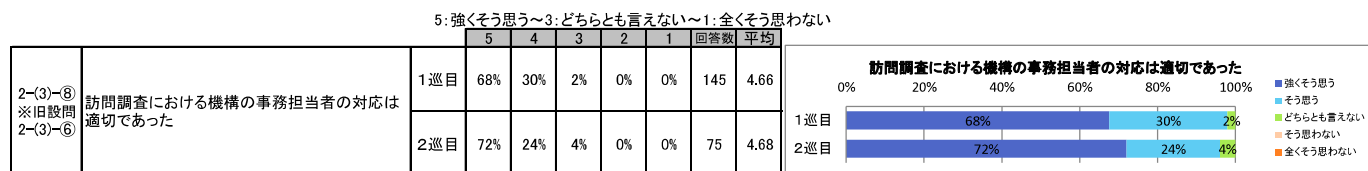


〔(2) 書面調査について〕

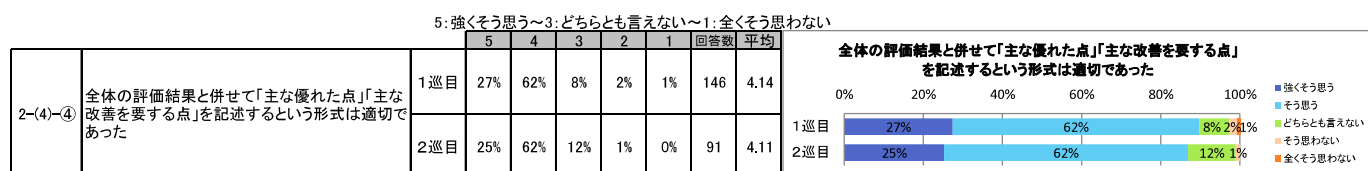
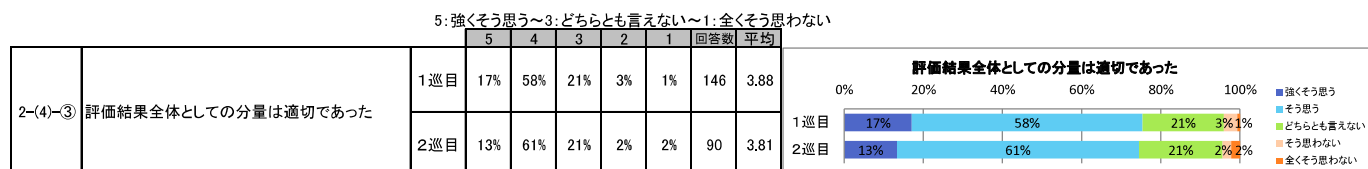
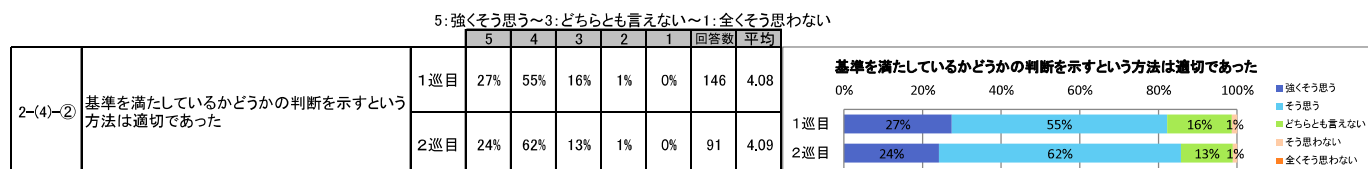
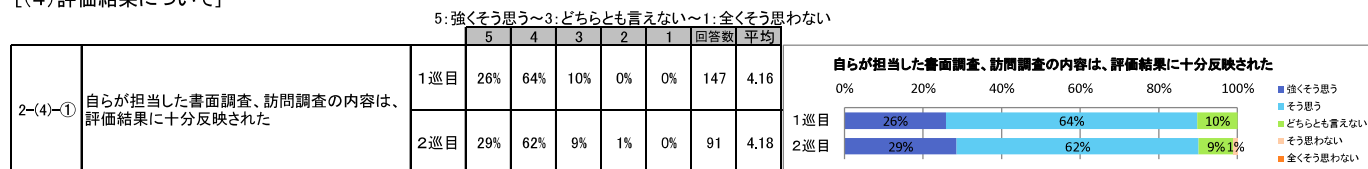


〔(3) 訪問調査について〕

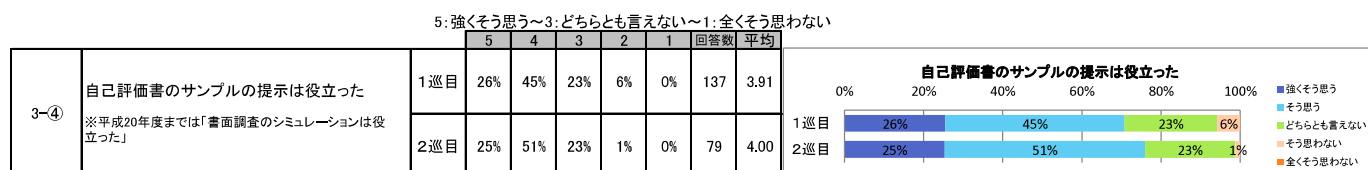
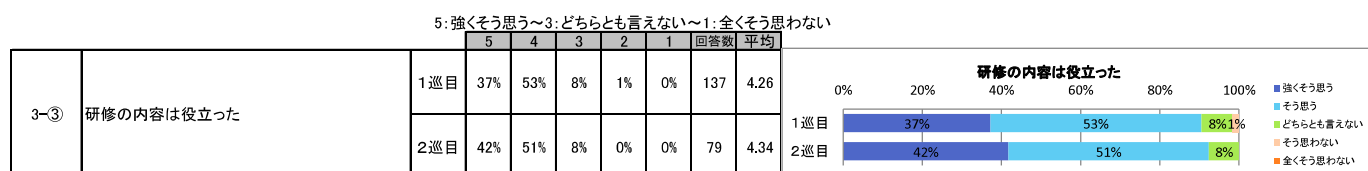
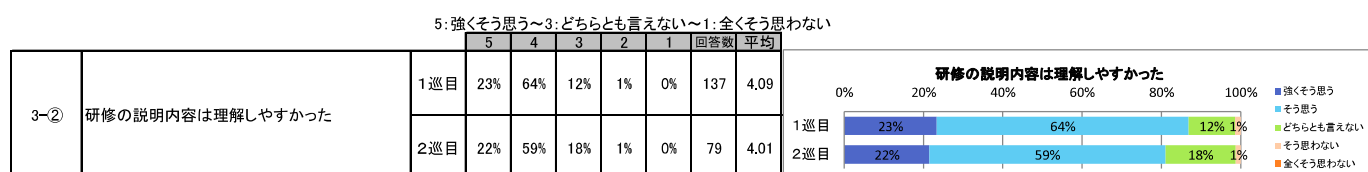
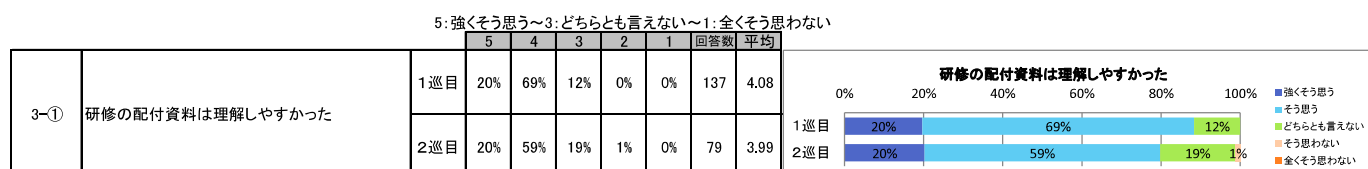


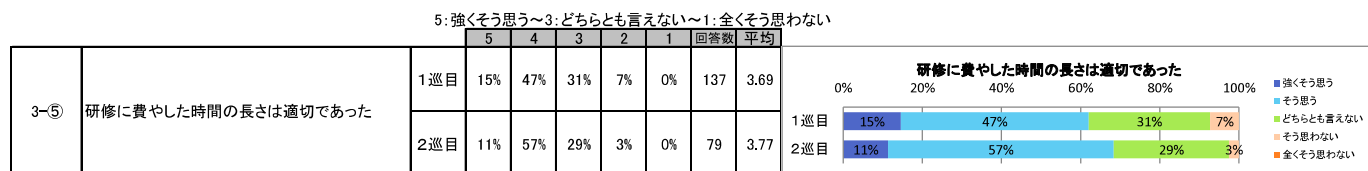


〔(4)評価結果について〕



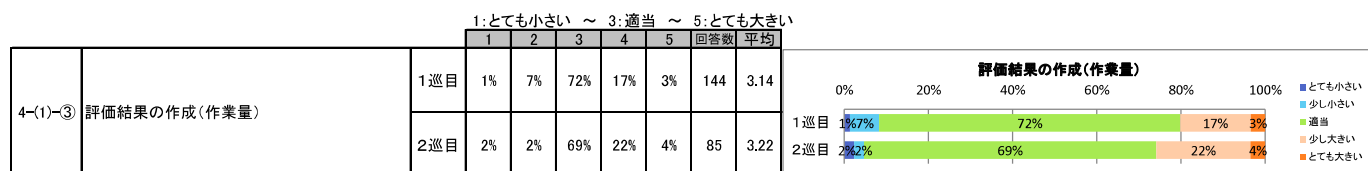
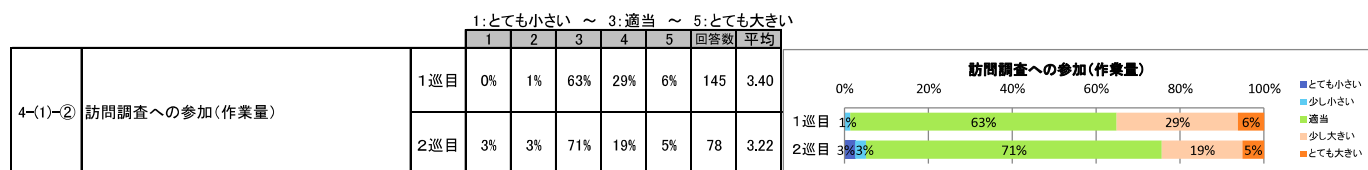
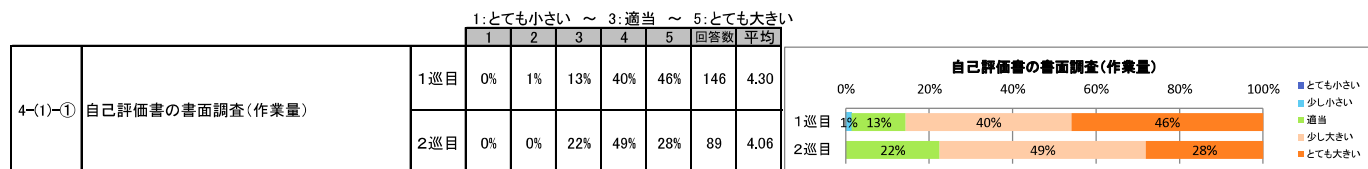
【3. 研修について】



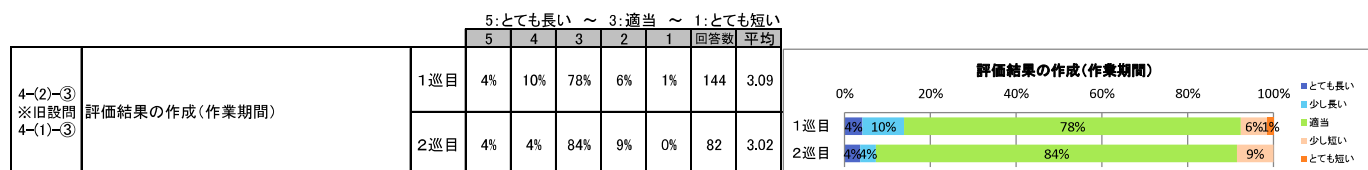
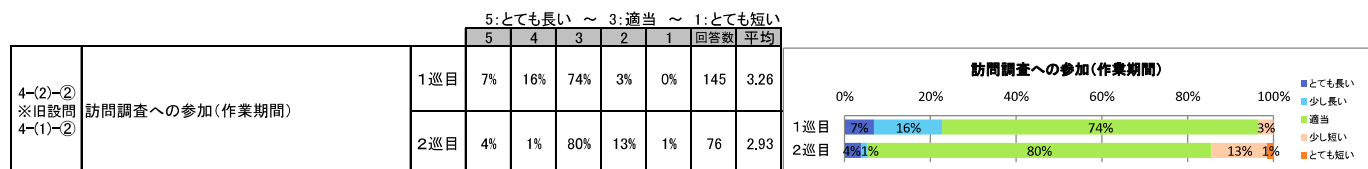
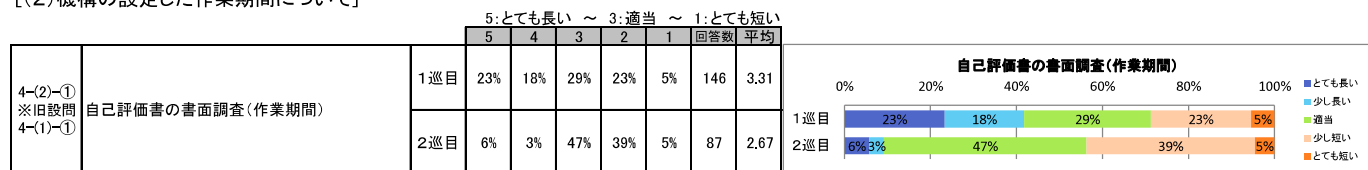


【4. 評価の作業量、スケジュール等について】

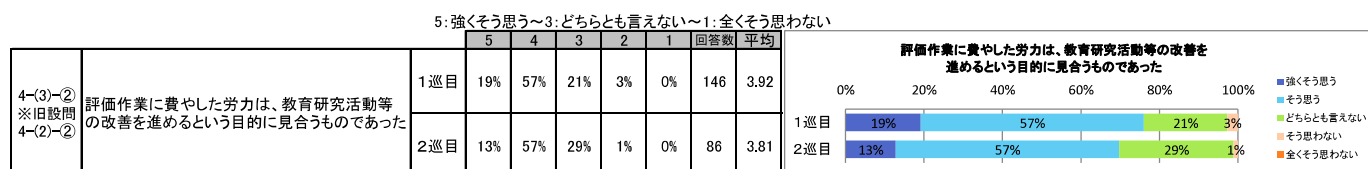
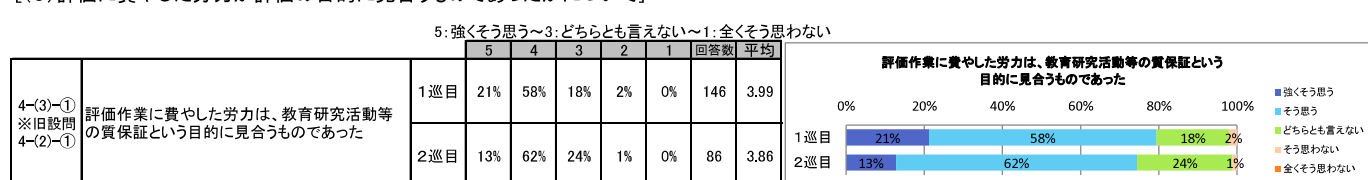
〔(1) 評価に費やした作業量について〕※本項目は平均点が高くなるほど評価が低い

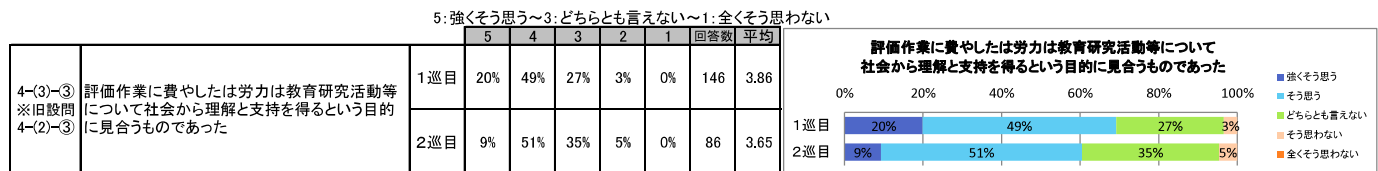


〔(2) 機構の設定した作業期間について〕

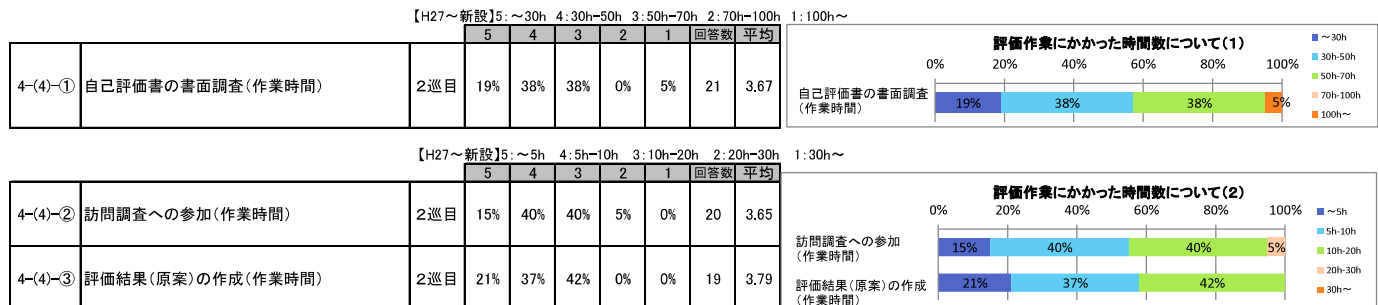


〔(3) 評価に費やした労力が評価の目的に見合うものであったかについて〕

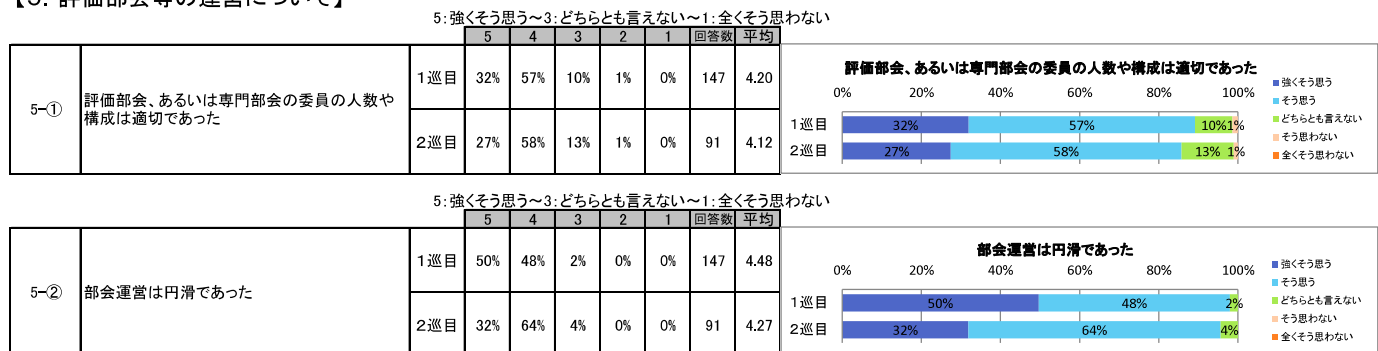




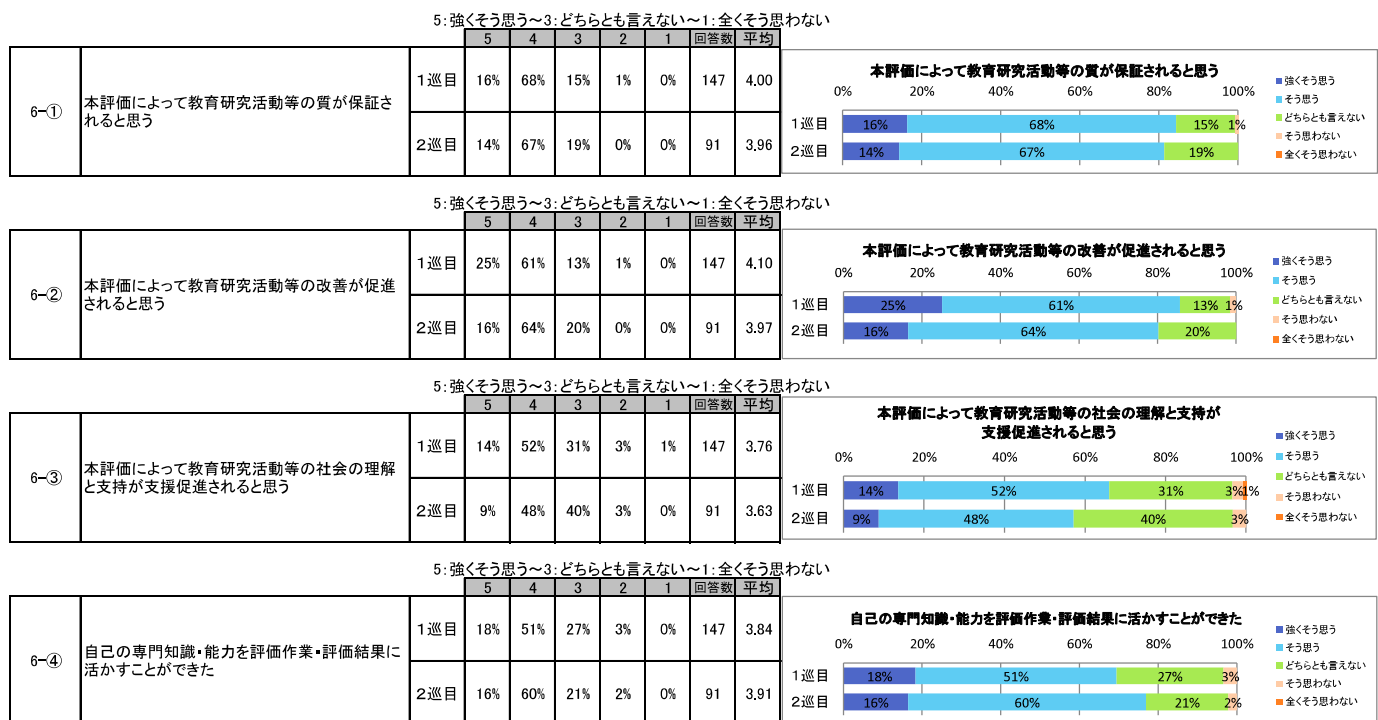
〔(4) 評価作業にかかった時間数について〕



【5. 評価部会等の運営について】



【6. 評価全般について】



5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
6-⑤	今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた	1巡目	26%	47%	20%	6%	1%	144	3.92	今回の評価作業で得た知識を自身の所属組織の運営等に活かすことができた 0% 20% 40% 60% 80% 100% 1巡目 26% 47% 20% 6% 1% 2巡目 31% 49% 14% 6% 1%
		2巡目	31%	49%	14%	6%	0%	80	4.05	

5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
6-⑥	総じて機構の認証評価を経験できてよかった	1巡目	65%	31%	5%	0%	0%	147	4.60	総じて機構の認証評価を経験できてよかった 0% 20% 40% 60% 80% 100% 1巡目 65% 31% 5% 0% 0% 2巡目 47% 49% 2% 1% 0%
		2巡目	47%	49%	2%	1%	0%	91	4.43	

【7. 前回の認証評価を実施したことによる効果・影響について】

【H23～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
7-①	前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった	2巡目	1%	25%	72%	1%	0%	72	3.26	前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の質の保証に効果・影響があった 0% 20% 40% 60% 80% 100% 2巡目 1% 25% 72% 1% 0%

【H23～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
7-②	前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった	2巡目	1%	28%	68%	3%	0%	71	3.28	前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等の改善の促進に効果・影響があった 0% 20% 40% 60% 80% 100% 2巡目 1% 28% 68% 3% 0%

【H23～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
7-③	前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった	2巡目	0%	12%	85%	3%	0%	68	3.09	前回の認証評価の実施により、対象校の教育研究活動等に対する社会からの理解と支持に効果・影響があった 0% 20% 40% 60% 80% 100% 2巡目 0% 12% 85% 3% 0%

平成 29 年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

選択的評価事項に係る評価を受けた対象校のみお答えください。

- ① 今回、受けた選択的評価事項について、該当するものに○をお付けください

・選択的評価事項 A「研究活動の状況」	
・選択的評価事項 B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」	

- ② 選択的評価事項に係る評価を受けた理由をご記入ください

	強く そう思う (5)	どちらとも 言えない (3)	全くそう 思わない (1)	
③ 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった -----	5	4	3	2 1
④ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」 を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----	A 5	4	3	2 1
	B 5	4	3	2 1
⑤ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すとい う方法は適切であった -----	A 5	4	3	2 1
	B 5	4	3	2 1
⑥ 基本的な観点の構成や内容は適切であった -----	A 5	4	3	2 1
	B 5	4	3	2 1

→※⑥について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

迷った	迷っていない	
2	1	

- ⑦ 自己評価書に添付する資料について、どのようなものを用意すべきか迷った

→※⑦について、2 とご回答いただいた場合、どのような点で迷ったのかをご記入ください。

--

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑧ 「書面調査による分析状況」の内容は適切であった -----

→※⑧について、2 又は 1 とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑨ 訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった -----

→※⑨について、2 又は 1 とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ⑩ 総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった -----

⑪ 今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイト等で公表している -----

⑫ 評価報告書をウェブサイト等で公表している -----

している	していない	
2	1	
2	1	

・選択的評価事項に係る評価についてのご意見、ご感想があればご記入ください。（選択的評価事項に係る評価を受けて何らかの変更・改善を予定しているもの（または実施済みのもの）があれば、それらもご記入ください。）

ご協力ありがとうございました。

平成 29 年度実施選択的評価事項に係る評価に関する検証のためのアンケート

選択的評価事項に係る評価を担当された方のみお答えください。

- ① 今回、評価を担当された選択的評価事項について、該当するものに○をお付けください

・選択的評価事項 A「研究活動の状況」	
・選択的評価事項 B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」	

強く どちらとも 全くそう
 そう思う ← 言えない → 思わない
 (5) (3) (1)

- ② 認証評価基準とは別に選択的評価事項を設けたことは適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ③ 「研究活動の状況」や「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」
 を選択的評価事項のテーマとして設定したことは適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ④ 選択的評価事項の評価で、対象校が有する目的の達成状況の判断を示すという方法は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

- ⑤ 基本的な観点の構成や内容は適切であった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑤について、2 又は 1 とご回答いただいた場合、どのような点が適切でなかったかをご記入ください。

--

- ⑥ 対象校の自己評価書は理解しやすかった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

→※⑥について、2 又は 1 とご回答いただいた場合、どのような点が理解しにくかったかをご記入ください。

--

- ⑦ 自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑦について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような根拠資料が引用・添付されていなかったかをご記入ください。

--

- ⑧ 機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑧について、2又は1とご回答いただいた場合、どのような点が記入しにくかったかをご記入ください。

--

- ⑨ 書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報（客観的データ等）があればよかった -----

A	5	4	3	2	1	
B	5	4	3	2	1	

→※⑨について、5又は4とご回答いただいた場合、どのような情報（客観的データ等）があればよかったかをご記入ください。

--

- ⑩ 「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

- ⑪ 自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された -----

5	4	3	2	1	
---	---	---	---	---	--

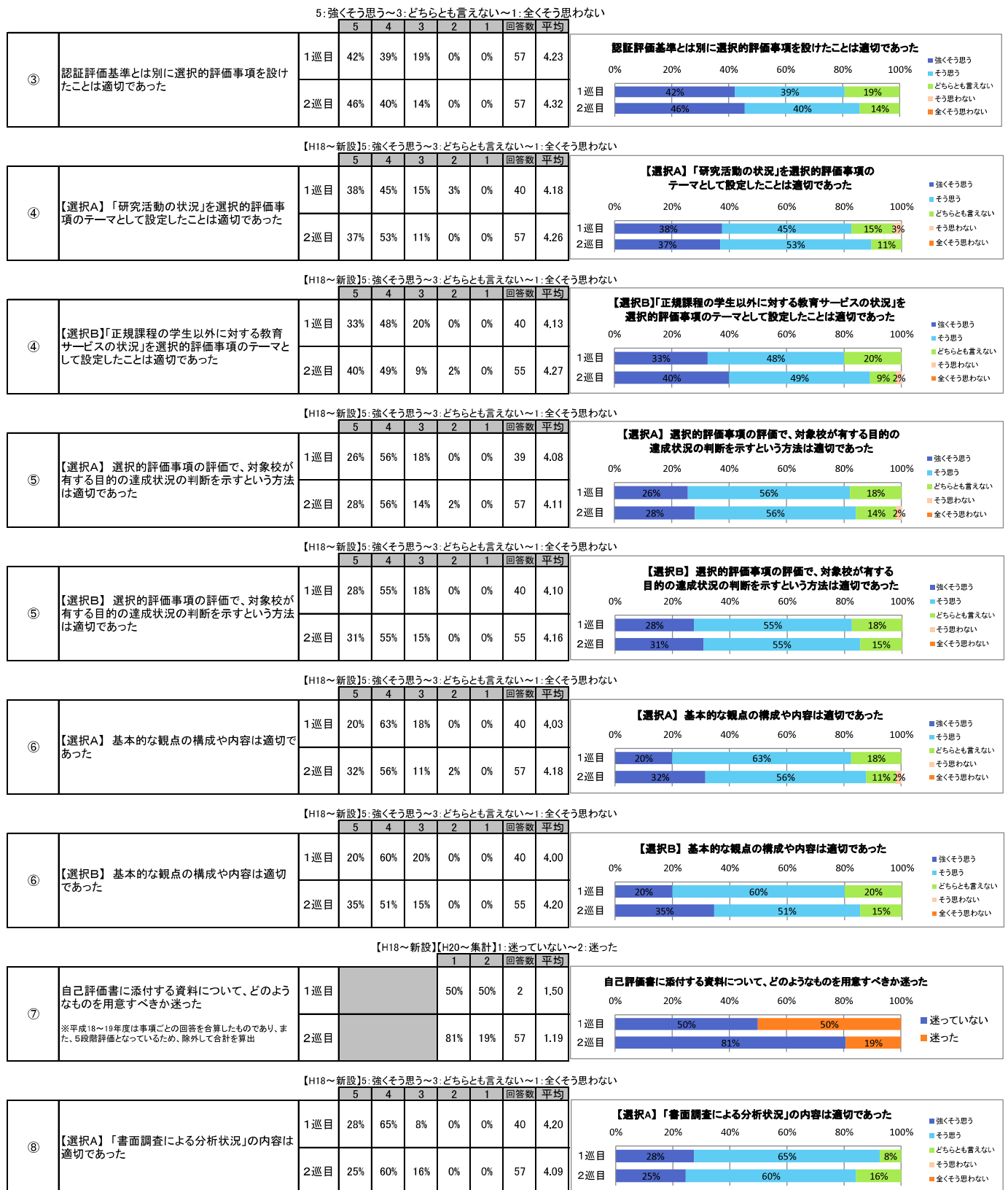
- ・ 選択的評価事項に係る評価についてご意見、ご感想等をご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

選択的評価事項に関する検証のためのアンケート集計結果【対象校】

※回答割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)の関係で合計が100%にならない場合がある。

※設問①、②は省略

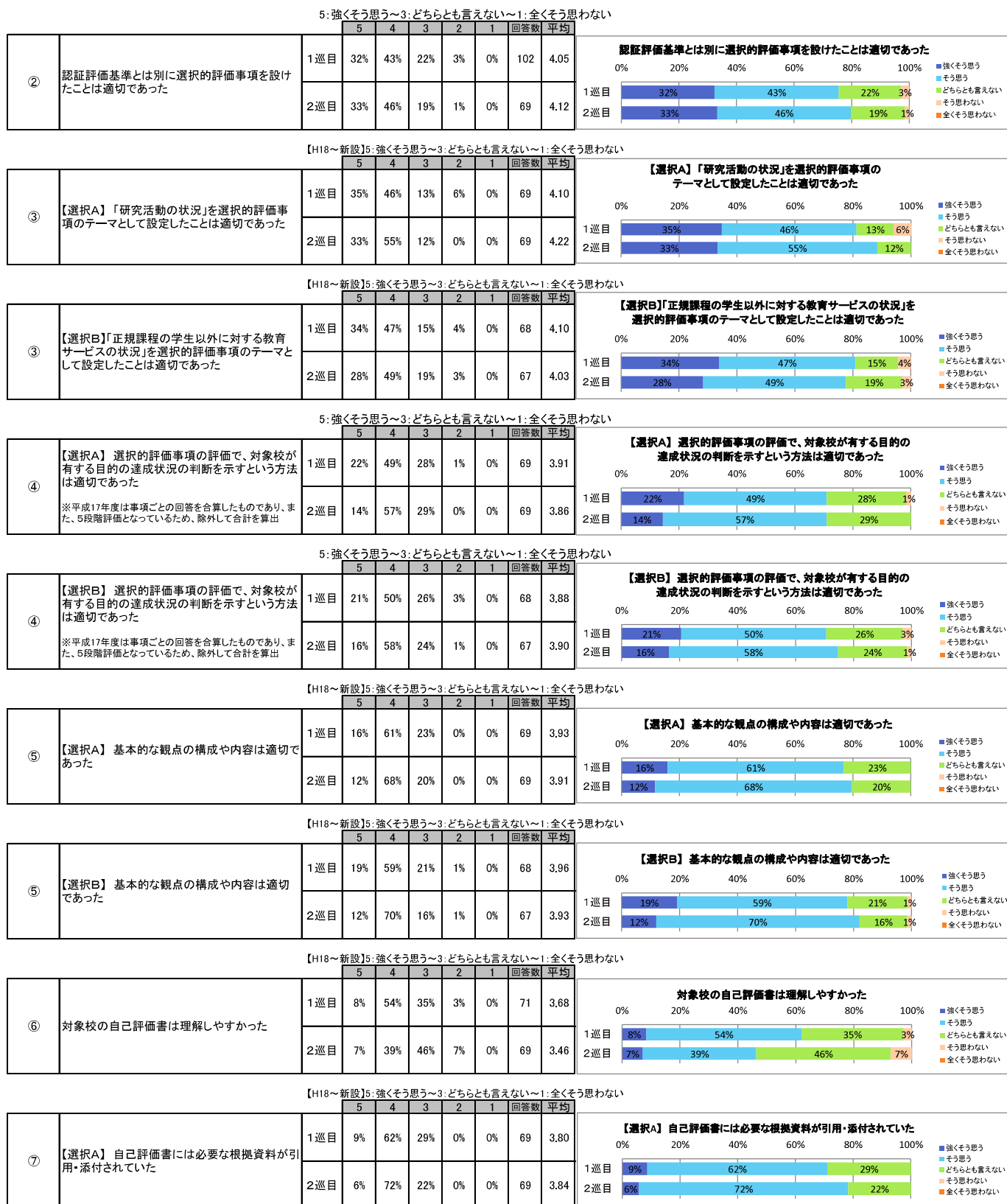


【H18～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない										
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
⑧	【選択B】「書面調査による分析状況」の内容は適切であった	1巡目	28%	65%	8%	0%	0%	40	4.20	
		2巡目	25%	62%	13%	0%	0%	55	4.13	
		【選択B】「書面調査による分析状況」の内容は適切であった 0%20%40%60%80%100% 1巡目28%65%8% 2巡目25%62%13% 強く思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない								
【H18～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない										
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
⑨	【選択A】訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	1巡目	23%	70%	8%	0%	0%	40	4.15	
		2巡目	25%	65%	11%	0%	0%	57	4.14	
		【選択A】訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった 0%20%40%60%80%100% 1巡目23%70%8% 2巡目25%65%11% 強く思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない								
【H18～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない										
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
⑨	【選択B】訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった	1巡目	28%	65%	8%	0%	0%	40	4.20	
		2巡目	25%	65%	9%	0%	0%	55	4.16	
		【選択B】訪問調査の前に提示された、「訪問調査時の確認事項」の内容は適切であった 0%20%40%60%80%100% 1巡目28%65%8% 2巡目25%65%9% 強く思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない								
【H18～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない										
			5	4	3	2	1	回答数	平均	
⑩	総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった	1巡目	33%	60%	8%	0%	0%	40	4.25	
		2巡目	30%	61%	9%	0%	0%	57	4.21	
		総じて、機構による評価報告書の内容や構成は適切であった 0%20%40%60%80%100% 1巡目33%60%8% 2巡目30%61%9% 強く思う そう思う どちらとも言えない そう思わない 全くそう思わない								
【H18～新設】【H19～集計】2: している～1: していない										
			2	1	回答数	平均				
⑪	今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している ※平成18年度は5段階評価となっているため、除外して合計を算出	1巡目		68%	32%	22	1.68	今回の評価のために作成した自己評価書をウェブサイトなどで公表している 0%20%40%60%80%100% 1巡目68%32% 2巡目68%32% している していない		
		2巡目		68%	32%	57	1.68			
【H18～新設】【H19～集計】2: している～1: していない										
			2	1	回答数	平均				
⑫	評価報告書をウェブサイトなどで公表している ※平成18年度は5段階評価となっているため、除外して合計を算出	1巡目		68%	32%	22	1.68	評価報告書をウェブサイトなどで公表している 0%20%40%60%80%100% 1巡目68%32% 2巡目79%21% している していない		
		2巡目		79%	21%	57	1.79			

選択的評価事項に関する検証のためのアンケート集計結果【評価担当者】

※回答割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)の関係で合計が100%にならない場合がある。

※設問①は省略



【H18～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
⑦	【選択B】自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた	1巡目	10%	61%	27%	1%	0%	67	3.81	【選択B】自己評価書には必要な根拠資料が引用・添付されていた
		2巡目	4%	72%	24%	0%	0%	67	3.81	

【H18～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
⑧	【選択A】機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	1巡目	20%	57%	23%	0%	0%	69	3.97	【選択A】機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった
		2巡目	10%	77%	13%	0%	0%	69	3.97	

【H18～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
⑧	【選択B】機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった	1巡目	19%	54%	26%	0%	0%	68	3.93	【選択B】機構が示した書面調査票等の様式は記入しやすかった
		2巡目	9%	78%	13%	0%	0%	67	3.96	

【H18～新設】1: 全くそう思わない～3: どちらとも言えない～5: 強く思う

			1	2	3	4	5	回答数	平均	
⑨	【選択A】書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	1巡目	4%	12%	69%	15%	0%	68	2.94	【選択A】書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった
		2巡目	4%	28%	57%	9%	3%	69	2.78	

【H18～新設】1: 全くそう思わない～3: どちらとも言えない～5: 強く思う

			1	2	3	4	5	回答数	平均	
⑨	【選択B】書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった	1巡目	6%	13%	64%	16%	0%	67	2.91	【選択B】書面調査を行うために、対象校の提出物以外の参考となる情報(客観的データ等)があればよかった
		2巡目	4%	27%	60%	9%	0%	67	2.73	

【H18～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
⑩	「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった	1巡目	21%	57%	21%	0%	0%	70	4.00	「訪問調査時の確認事項」に対する対象校の回答内容は適切であった
		2巡目	9%	62%	29%	0%	0%	69	3.80	

【H18～新設】5: 強く思う～3: どちらとも言えない～1: 全くそう思わない

			5	4	3	2	1	回答数	平均	
⑪	自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された	1巡目	21%	61%	17%	0%	0%	70	4.04	自ら担当した書面調査、訪問調査の内容は、評価結果に十分反映された
		2巡目	17%	68%	13%	1%	0%	69	4.01	

高等専門学校機関別認証評価 基準・観点別の「優れた点」「改善すべき点」数一覧

基準	観点番号	内容	主な優れた点	優れた点	主な改善を要する点	改善を要する点
基準1	1-1-①	高等専門学校が、それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ、その内容が、学校教育法第115条に規定された、高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また、学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。	0	2	3	5
	1-2-①	目的が、学校の構成員(教職員及び学生)に周知されているか。	0	0	0	31
	1-2-②	目的が、社会に広く公表されているか。	0	0	0	0
	小計		0	2	3	36
基準2	2-1-①	学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。	0	2	0	0
	2-1-②	専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。	1	1	0	0
	2-1-③	全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。	7	11	0	0
	2-2-①	教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。	0	2	0	0
	2-2-②	一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。	6	13	0	5
	2-2-③	教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。	0	10	0	0
	小計		14	39	0	5
	3-1-①	教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。	1	3	0	0
基準3	3-1-②	教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。	0	3	0	0
	3-1-③	専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。	2	3	0	0
	3-1-④	学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。	2	11	0	0
	3-2-①	全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。	4	12	0	0
	3-2-②	教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。	0	1	0	2
	3-3-①	学校における教育活動を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。	1	2	0	0
	小計		10	35	0	2
	4-1-①	教育の目的に沿って、求める学生像及び入学選抜の基本方針等の入学受入方針(アドミッション・ポリシー)が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に理解しやすい形で公表されているか。	0	0	8	21
基準4	4-2-①	入学受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学選抜が適切に実施されているか。	0	2	0	1
	4-2-②	入学受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学選抜の改善に役立てているか。	0	0	3	5
	4-3-①	実入学率が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われる等、入学定員と実入学率との関係の適正化が図られているか。	0	0	1	6
	小計		0	2	12	33

※主な優れた点・主な改善を要する点は、優れた点・改善を要する点の内数となっている。

基準	観点番号	内容	主な優れた点	優れた点	主な改善を要する点	改善を要する点
基準5	準学士課程					
	5-1-①	教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものと教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。	1	6	3	10
	5-1-②	教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバス※が作成され、事前に学習指導法が図られているか。	14	45	0	0
	5-2-①	教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。	4	17	0	0
	5-2-②	教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバス※が作成され、事前に学習指導法が図られているか。	1	3	3	15
	5-2-③	創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。	34	60	0	2
	5-3-①	教育課程の編成において、一般教育の充実や特別活動の実施等、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また、教育の目的に照らして、課外活動※等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。	4	11	0	0
	5-4-①	成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。	0	5	3	41
	専攻科課程					
	5-5-①	教育の目的に照らして、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。	0	0	0	0
基準6	5-5-②	教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。	0	2	2	10
	5-5-③	教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。	1	10	0	0
	5-6-①	教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。	4	6	0	0
	5-6-②	教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に学習指導法が図られているか。	1	4	2	15
	5-6-③	創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。	45	60	0	5
	5-7-①	教育の目的に照らして、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	0	1	0	0
	5-8-①	成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。	0	2	4	35
	小計		109	232	17	133
	6-1-①	高等専門学校として、その教育の目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとする人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。	0	1	13	19
	6-1-②	各学年や卒業(修了)時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。	0	2	2	3
	6-1-③	教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業(修了)後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。	59	59	0	0
	6-1-④	学生が行う学習達成度評価等、学生からの意見聴取の結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。	1	2	5	19
	6-1-⑤	卒業(修了)生や進路先等の関係者から、卒業(修了)生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業(修了)後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。	0	3	9	26
	小計		60	67	29	67

※主な優れた点・主な改善を要する点は、優れた点・改善を要する点の内数となっている。

基準	観点番号	内容	主な優れた点	優れた点	主な改善を要する点	改善を要する点
基準7	7-1-①	学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。	1	6	0	0
	7-1-②	自主的学習環境及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。	0	7	0	0
	7-1-③	学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また、資格試験や検定試験の受講、外国留学のための支援体制が整備され、機能しているか。	3	8	0	0
	7-1-④	特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。	0	6	0	0
	7-1-⑤	学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。	1	5	0	0
基準8	7-2-①	学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。	1	6	0	0
	7-2-②	特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。	1	5	0	0
	7-2-③	学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	1	7	0	1
	7-2-④	就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。	5	13	0	0
	小計		13	63	0	1
基準9	8-1-①	学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされて教育内容、方法や学生のニーズを満たすICT※）環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。	1	7	1	6
	8-1-②	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。	0	4	0	0
	小計		1	15	1	6
	9-1-①	教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。	0	2	0	1
	9-1-②	学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価※）が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。	0	1	6	25
基準9	9-1-③	各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的な方策が講じられているか。	6	7	1	8
	9-1-④	個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。	7	13	1	1
	9-1-⑤	研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。	4	9	0	0
	9-2-①	ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。	5	14	0	0
	9-2-②	教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。	1	6	0	1
基準9	小計		23	52	8	36

※主な優れた点・主な改善を要する点は、優れた点・改善を要する点の内数となっている。

基準	観点番号	内容	主な優れた点	優れた点	主な改善を要する点	改善を要する点
基準10	10-1-①	学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか。	0	0	0	0
	10-1-②	学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。	0	0	0	0
	10-1-③	学校の目的を達成するために、外部の財務資源の活用策を策定し、実行しているか。	0	0	0	1
	10-2-①	学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	0	0	0	0
	10-2-②	収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。	0	0	0	0
	10-2-③	学校の目的を達成するため、教育研究活動(必要な施設・設備の整備を含む)に対し、適切な資源配分がなされているか。	0	0	0	0
	10-3-①	学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。	0	0	0	0
	10-3-②	財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。	0	0	0	0
	小計		0	0	0	1
	11-1-①	学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。	2	3	0	0
基準11	11-1-②	管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。また、危機管理に係る体制が整備されているか。	0	0	0	3
	11-2-①	自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、その結果が公表されているか。	1	1	19	22
	11-2-②	自己点検・評価の結果について、外部有識者等による検証が実施されているか。	0	0	0	2
	11-2-③	評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。	1	3	0	3
	11-3-①	外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。	0	1	1	2
	11-3-②	学校の目的を達成するために、外部の教育資源を積極的に活用しているか。	7	19	0	0
	11-4-①	高等専門学校における教育研究活動等の状況や、その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。	0	1	1	1
	小計		11	28	21	33
	A	研究活動の状況	16	37	0	1
	B	正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	31	59	0	0
合計			288	631	91	354

※主な優れた点・主な改善を要する点は、優れた点・改善を要する点の内数となっている。